

官報

號外

明治二十七年六月一日

金曜日 內閣官報局

第六回 帝國議會 衆議院議事速記録第十四號

明治二十七年五月三十一日(木曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第十四號 明治二十七年五月三十一日

午後一時開議

- 第一 明治二十七年年度豫算追加案
東京砲兵工廠据置運轉資本增加ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(特別委員 長報告)
- 第二 國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付)
第一讀會ノ續(特別委員 長報告)
- 第三 明治二十六年年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件(政府提出)
第一讀會ノ續(特別委員 長報告)
- 第四 明治二十六年年度ニ於テ中央備荒儲蓄金ヲ以テ豫算超過支出ノ件(政府提出)
第一讀會ノ續(特別委員 長報告)
- 第五 紙幣模造取締法案(政府提出貴族院送付)
第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第一讀會
- 第七 狩獵法案(貴族院提出)
第一讀會ノ續(特別委員 長報告)
- 第八 上奏案
第一讀會
- 第九 鐵道敷設法改正法律案(加賀美嘉兵衛君外四名提出)
第一讀會(特別委員 長報告)
- 第十 鐵道敷設法中改正法律案(時岡又左衛門君提出)
第一讀會(特別委員 長報告)
- 第十一 海關稅法案(栗原亮一君提出)
第一讀會
- 第十二 帝國醫科大學ニ於ケル腦脊髓病治療ニ關スル建議案
第一讀會(特別委員 長報告)
- 第十三 私設鐵道條例改正追加法律案(加賀美嘉兵衛君外四名提出)
第一讀會
- 第十四 鐵道敷設法中追加法律案(井上彦左衛門君外一名提出)
第一讀會
- 第十五 鐵道敷設法中改正法律案(坂本理一郎君外一名提出)
第一讀會
- 第十六 鐵道敷設法中追加法律案(重岡薰五郎君外四名提出)
第一讀會
- 第十七 史料蒐輯ニ關スル建議案(神鞭知常君外一名提出)
第一讀會
- 第十八

第十九 治水ニ關スル建議案(湯本義憲君外二十二名提出)

第二十 震災地方未納地租延納法案

第二十一 地租條例改正法律案

第二十二 田畑地價特別修正法律案

第二十三 古物商取締條例改正法律案

第二十四 社寺境外上地還付ニ關スル法律案(今井磯一君提出)

第二十五 社寺林法案(今井磯一君提出)

第二十六 北海道ニ鐵道ヲ敷設シ及港灣修築ニ關スル建議案(中村彌六君外三名提出)

第二十七 越前國敦賀港ニ於テ露領沿海州薩哈噠島及朝鮮國貿易ニ關スル船舶ノ出入及貨物積卸許可法律案(時岡又左衛門君外一名提出)

第二十八 鳥取縣伯耆國境港ニ朝鮮國及露領浦鹽斯德港等貿易ニ關スル船舶ノ出入及貨物積卸ヲ許スノ法律案(渡部芳造君外一名提出)

第二十九 島根縣石見國濱田港ニ於テ朝鮮貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸許可法律案(恒松隆慶君外四名提出)

第三十 (第一號)懲戒解除ノ請願

第三十一 (第三號)復祿處分換ノ請願

第三十二 (第四號)協力高ニ對スル金祿公債證書下附ノ請願

第三十三 (第五號)金祿公債證書下附ノ請願

第三十四 (第六號)舊郡上藩士族祿高ニ關スル請願

第三十五 (第七號)家祿ノ儀ニ付請願

第三十六 (第八號)復祿處分換ノ請願

第三十七 (第九號)復祿ニ關スル請願

第三十八 (第十號)復祿請願

第三十九 (第十一號)復祿ノ請願

第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

○議長(楠本正隆君) 諸君、諸般ノ報告ヲ始メマス

(林田書記官朗讀)

司法大臣出席請求ノ建議ニ對シ政府ヨリ左ノ通牒アリタリ

衆議院議決司法大臣出席請求建議ニ關シ司法大臣ヨリ別紙通牒提出ニ付及御回付候也

明治二十七年五月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

本大臣出席請求ノ建議ニ關シ別紙通牒差進候也

明治二十七年五月三十日

司法大臣芳川顯正

衆議院議長楠本正隆殿

鈴木充美君外二名提出判事ノ退職ニ關スル質問ニ對スル本大臣答辯ノ旨趣ハ曩ニ提出シタル答辯書ニ盡シタルコトヲ信スルヲ以テ更ニ議院ニ出席シテ辯明スルノ必要ヲ認メス

明治二十七年五月三十日

司法大臣芳川顯正

小室重弘君外一名提出ニ係ル岐阜縣官吏ニ關スル質問竝ハ内信君提出ニ係ル沖繩縣下八重山列島石垣島官有地貸下ニ關スル質問ニ對シ内務大臣臨時代理芳川司法大臣ヨリ、野出鎬三郎君提出ニ係ル明治二十七年勅令第四十一號ニ關スル質問竝守屋此助君提出ニ係ル金玉均事件ニ關シ清國政府ヘ對スル處置ノ質問ニ對シ陸奧外務大臣ヨリ、協阪行三君外一名提出ニ係ル清國及香港ニ於テ流行スル傳染病ニ關スル質問ニ對シ内務大臣臨時代理芳川司法大臣ヨリ答辯アリタリ

衆議院議員小室重弘君外一名ヨリ岐阜縣官吏ニ關スル質問ニ對シ内務大臣臨時代理司法大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治二十七年五月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員小室重弘君外一名提出岐阜縣官吏ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治二十七年五月三十日

内務大臣臨時代理

衆議院議長楠本正隆殿

司法大臣芳川顯正

衆議院議員小室重弘君外一名提出岐阜縣官吏ニ關スル質問ニ對スル答辯書

岐阜縣ニ於テ明治二十五年中巡査係給旅費ノ幾部ヲ機密費ニ轉用シタルノ件ハ刑法ニ觸ル、所ナキカ故ニ刑事訴訟ニ附セザリシモ元岐阜縣警部長石川縣警部長丸山重俊元岐阜縣警部長加茂郡長富田貢ハ共ニ官吏懲戒例ニ依リ明治二十六年十一月二十日本官ヲ免セラレタリ又岐阜縣屬兼警部多和田諱ニハ明治二十六年十二月四日其長官ニ於テ懲戒處分ヲ爲シタリ其他本件ニ關スル當該官吏ニシテ已ニ退官シタル者ニ對シテハ懲戒處分ヲ爲スコトヲ得ス

右及答辯候也

明治二十七年五月三十日

司法大臣臨時代理

司法大臣芳川顯正

衆議院議員木内信君提出質問ニ對スル答辯書内務大臣臨時代理司法大臣ヨリ提出ニ付及御回付候也

明治二十七年五月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員木内信君提出沖繩縣下八重山列島石垣島官有地貸下ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治二十七年五月三十日

内務大臣臨時代理

衆議院議長楠本正隆殿

司法大臣芳川顯正

衆議院議員木内信君提出沖繩縣下八重山列島石垣島官有地貸下ノ質問ニ對スル答辯書

第一第二沖繩縣下八重山列島石垣島官有地ヲ中川虎之助中村旭殿木善兵衛島海清左衛門中川民七久保吉之進藤本文策岡康毅小室信夫ノ九名ニ貸下タルハ荒蕪ヲ開拓シテ蔗園ヲ興スト云フノ趣旨ヲ認メ沖繩縣知事ニ於テ之ヲ許可シタルモノニシテ製糖場建設及洋式構造等ノ如キハ之ヲ必要條件トシテ許可シタルモノニ非ス

第三開墾事業ハ目下尙準備中ニ屬シ之ヲ他人ニ轉貸スト云フカ如キ事實ハ未タ曾テ認メサル所ナリ且事業ノ成功ハ七年間ノ永日月ヲ期スルモノニシテ請願人若シ其事業ヲ懈リ此期間ニ於テ墾成ヲ遂ケサルトキハ其部分ニ對シ貸下ノ効功ヲ失フヘシト雖モ今日未タ命令違反ノ點トシテ指摘スヘキ事實ヲ認メス

第四沖繩縣知事ニ於テ本件貸下ノ許可ヲ與ヘタルハ明治二十六年十二月上旬ニシテ松岡康毅ノ未タ内務次官タラザリシ以前ニ在リ且本件ノ事業ハ商業ニ屬セス隨テ官吏服務紀律ノ成法ニ背叛スルモノト認メス

右及答辯候也

明治二十七年五月三十日

内務大臣臨時代理

衆議院議員野出鎬三郎君提出質問ニ對スル答辯書外務大臣ヨリ提出ニ付及御回付候也

明治二十七年五月三十一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員野出鎬三郎君ヨリ提出ノ質問書ニ對スル別紙答辯書差進候也

明治二十七年五月三十日

外務大臣陸奧宗光

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員野出鎬三郎君ヨリ提出ノ明治二十七年勅令第四十一號ニ關スル質問書ニ對スル答辯書

第一

帝國政府ニ於テ本年四月十二日勅令第四十一號ヲ以テ明治四年七月四日布哇國政府ト締結シタル條約中領事裁判權ニ關スル規定ヲ無効ニ歸セシメタル同時ニ帝國ニ在留スル布哇國民民ニ法律命令ノ範圍内ニ於テ内地ニ往來居住シ且適法ノ商業又ハ職業ニ従事スルコトヲ得セシメタルコトハ日布兩國政府間ノ合意ニ出テタルコト勿論ナリ而シテ同國臣民ニ内地雜居ヲ許シタルハ領事裁判權撤去ノ條件ニアラスシテ其結果ナリトス

抑、布哇國政府ガ本邦ニ於テ領事裁判權ヲ撤去シタル上ハ同國臣

民ハ日布現行條約第二條ニ依リ領事裁判權及關稅ニ關スル特約其
他不對等ノ條款ヲ有セサル締結國ノ臣民若クハ人民即チ墨西哥其國
ノ人民ト同様ノ待遇ヲ得ルハ固ヨリ論ヲ俟タス
第二 日布現行條約ハ初ヨリ關稅ニ係ル特約ナシ故ニ質問書ノ稅權回復
云々ニ對シテハ別ニ答辯ノ必要ヲ見ス
又內地雜居ノ許否ニ關シテハ前段ニ於テ既ニ敘述シタルカ如ク布
哇國臣民ハ現ニ墨西哥其國人民ト同様ノ待遇ヲ得タルニ過キサルヲ
以テ墨西哥人民ニ對スル制限ノ外特ニ布哇國臣民ニ對シ別段ナル制
限ヲ設クルノ必要ナシ
第三 前述ノ如ク布哇國臣民ニ內地雜居ヲ許シタルハ日布條約第二條ノ
效力ニ依リ墨西哥其國人民ト同様ノ待遇ヲ與ヘタルニ過キス而シテ
右ハ雙方政府ノ合意ニ依リ日布兩國條約中領事裁判權ニ關スル規
定ヲ無効ニ歸セシメタル結果ニ基因スレハ勅令ヲ以テ之ヲ公布シ
タルハ當然ノコトナリ
右及答辯候也

明治二十七年五月三十一日
外務大臣陸奧宗光

衆議院議員守屋此助君提出質問ニ對スル答辯書外務大臣ヨリ提出ニ付及
御回付候也

明治二十七年五月三十一日
衆議院議長楠本正隆殿
內閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議員守屋此助君提出質問書ニ對スル別紙答辯書差進候也
明治二十七年五月二十九日
外務大臣陸奧宗光

衆議院議員守屋此助君提出質問書ニ對スル答辯

在上海帝國總領事ヨリ報告ニ依レハ朝鮮人金玉均カ同國人洪鐘宇ノ爲
ニ殺害セラルハ其雇人本邦人和田延次郎ナル者上海縣令ニ乞ヒ其屍體
ヲ引取り三月三十一日上海出帆ノ西京丸ニ搭載シテ本邦ニ持歸ラントス
ルニ際シ同縣令ヨリ暫時其搭載ヲ差止メラレ度旨我總領事ニ請求シ來リ
タルモ我總領事ハ既ニ同縣令ヨリ一旦本人ニ下附シ稅關手續モ相濟ミ
タル者ニ對シ之ヲ差止ムヘキ權利ナキ旨ヲ以テ其請求ヲ拒絕シタル然ル
ニ其後和田延次郎ハ該屍體ヲ路傍ニ放チ置キタル儘其場所ヲ離レ去リタ
ルヲ以テ上海居留地警察署長ハ道路ニ屍體ヲ置クコトハ居留地規則ノ許
サハル所ナリトテ之ヲ警察署ニ取上ケタリ而シテ同人ハ更ニ警察署ヨリ
之ヲ引取ルノ手續ヲ爲スニ及ハスシテ歸國シ警察署長ハ清國官吏ノ請求
ニ應ジ之ヲ同官吏ニ引渡シタルト云フ
右ノ事實ナルカ故ニ守護者ナキ屍體ニ對シ清國政府カ其地方官ニ命シ處
分ヲ爲サシメタルコトハ事實ナレトモ質問書ニ謂フカ如ク清國政府ニテ
掠奪シタルコト無之然リ而シテ一個ノ朝鮮人ナル金玉均ノ屍體及ヒ一個
ノ朝鮮人ナル加害者洪鐘宇ヲ其事件ノ起リシ國ノ政府即チ清國政府ニ於
テ之ヲ何人ニ引渡ストモ帝國政府ノ干預スヘキ限ニ在ラス
右及答辯候也

外務大臣陸奧宗光

衆議院議員脇阪行三君外一名提出清國及香港ニ於テ流行スル傳染病ニ關
スル質問ニ對シ內務大臣臨時代理司法大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付
候也

明治二十七年五月三十一日
內閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿
衆議院議員脇阪行三君外一名提出清國及香港ニ於テ流行スル傳染病ニ關
スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治二十七年五月三十一日
內務大臣臨時代理
司法大臣芳川顯正

衆議院議長楠本正隆殿
衆議院議員脇阪行三君外一名提出清國及香港ニ於テ流行スル傳染
病ニ關スル質問ニ對スル答辯書

清國及香港ニ於テ流行スル傳染病ニ就イテハ香港在留本邦領事ノ報告香
港政廳ノ公文等ニ依リ「ベズ」と認メタリ

政府ハ右傳染病ニ關スル調査ノ必要ヲ認メ中央衛生會委員內務技師醫學
博士北里柴三郎同醫科大學教授醫學博士青山胤通ノ二名ニ該地派遣ヲ命
シ同地ノ實況ヲ調査スルニ止マラス出來得ル限り該病ノ原理及豫防治療
ノ方法等ヲモ調査セシムル目的ナリ

右及答辯候也

明治二十七年五月三十一日

內務大臣臨時代理
司法大臣芳川顯正

貴族院ニ於テ鐵道比較線路決定ニ關スル法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通
牒アリタリ

鹿島秀賢君ヨリ小學校教科用圖書審查委員會ニ關スル件ニ附キ、田中正造
君加藤六藏君加藤政之助君鹿島秀賢君河島醇君小笠原定一君工藤行幹君ヨ
リ北海道炭礦鐵道會社ニ關スル件ニ附キ、武市彰一君淺野順平君ヨリ石川
縣會違法律事件ニ關スル件ニ附キ、長谷川泰君脇阪行三君ヨリ赤痢病豫防ニ
關スル件ニ附キ政府ヘ質問書ヲ、鈴木充美君ヨリ金玉均事件ニ關スル件ニ
附キ政府ヘ再質問書ヲ提出セラレタリ

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
明治二十七年年度特別會計歲入歲出豫算追加案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
特赦復權ニ關スル建議案

提出者 大久保端造君

(左ノ質問書ハ朝讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第十六條ニ小學校ノ教科用圖書
ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審查委員ニ於テ審查シ府
縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシトアリ一旦文部大臣ノ檢定シタ
ル圖書ヲ更ニ府縣審查委員ニテ審查シ府縣知事ノ許可ヲ受ケル理由如何
一 小學校圖書審查委員會ハ何故ニ秘密會議ヲ要スルカ又近來同委員會ニハ

醜聞頗ル多シ當局者ハ如何ナル處置ヲ以テ其弊ヲ絶タントスルカ
右成規ニ據リ提出候也
明治二十七年五月三十日
提出者 鹿島秀磨
贊成者 島田三郎
外三十名

北海道炭礦鐵道會社ニ關スル質問書

本員等北海道炭礦鐵道會社ノ不始末及ヒ政府監督不行届ノ件ニ付第二期
議會以來該會社ニ關スル幾個ノ疑點ヲ執リ屢々質問重ネタルニ其答辯
タル益々曖昧ニシテ却テ中外ノ疑團ヲ深カラシム依テ更ニ其疑點ヲ列舉
シ明確ノ答辯ヲ求ム

明治二十年五月十七日勅令第十二號ニ曰ク

第一條旅客及ヒ荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セント欲スル者ハ
發起人五人以上結合シ鐵道會社ヲ創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設
立セントスル地ノ地方廳ヲ經由シ政府ニ差出スヘシ

トアリ要スルニ本條例ノ精神タル鐵道事業ナルモノハ殆ント他ニ競爭者無
キ獨占事業ナルカ故ニ旅客及ヒ荷物運輸ノ外他ノ兼業ヨリ生スル百般ノ弊
害ヲ豫防シ國家經濟ノ主要機關ヲシテ獨リ擅ニ一私人一會社カ私利ヲ壟斷
スルノ材料ニ供スルヲ許サハルニアルヤ明ナリ現ニ客秋九州ニ一ノ採炭業
ヲ兼ネテ鐵道會社ヲ設置シ九州炭礦鐵道會社(現今ノ豐州鐵道會社是也)ノ

名稱ヲ以テ其設立ヲ出願シタルモノアリシモ條例抵觸ノ廉ヲ以テ其願書ヲ
撤却セシメタリ之ニ依テ之ヲ見レハ政府ノ意ハ正ニ本條例ノ精神ヲ厲行ス
ルモノト云フヘシ然ルニ本條例實施後三年即チ明治二十二年十一月ヲ以テ
出願シタル北海道炭礦鐵道會社ハ鐵道ヲ採炭トノ兩事業ヲ兼ネシムルヲ
許シタリ抑モ一ハ之ヲ許シ一ハ之ヲ却ケ夫レ將タ何ノ依ル所アル乎

二政府ハ北海道炭礦鐵道會社設立ノ當初該會社ニ下付シタル命令書中
第七條鐵道事業ニ屬スル資本收益ノ會計ト炭礦事業ニ屬スル資本收益
ノ會計トハ判然之ヲ甄別シ彼是相混同ス可カラズ

トノ條項ヲ加ヘテ鐵道ト炭礦トノ經濟ハ互ニ相侵害セシメサルヲ期セシ
モノ、如シ然レトモ既ニ之ヲ一社ノ下ニ放任スルニ至テハ鐵道ヲ盜人ニ托
シナカラ盜行ヲ咎ムト一般之ヲ事後ノ結果ニ徵スルモ該社ノ會計不明
經濟紊亂拓殖ノ公益ヲ擧ケテ私利ノ犧牲トナシ僅ニ帳簿ヲ裝飾シ百寶ヲ
彌縫セル事實ハ一ニシテ足ラス今彼是混同ノ一例ヲ擧クレハ實ニ左ノ如
キモノアリ

該社所有ノ夕張炭山タル室蘭港ヲ距ル七十八哩小樽港ヲ距ル九十四哩
判藤素々崎嶇羊腸ノ山路ニ膺ルヲ以テ若シ個人ノ有タラシメハ浮費ノ
巨多ト企業ノ困難トハ想像スルニ餘リアルナリ然ルニ該社ハ炭礦ト鐵
道トノ二事業ヨリ成立スルヲ以テ該炭山開掘著手ノ始メヨリ新設鐵道
ノ工事中建築列車ノ往來スルヲ奇貨トシ無運賃ニテ煉瓦材木炭山用ノ
諸器械及ヒ日常品等苟モ炭山起業用ニ關スル諸物品ハ盡ク之ヲ輸送シ
夕張支線開業ノ當日ニハ其坑口早ク既ニ千七百六十八噸餘ノ塊炭千七
百五十八噸餘ノ粉炭ヲ堆積セリ(該社第八回報告參覽)ト云フ此炭山ニ
シテ假リニ單一採炭會社ナリセハ起業ノ困難果シテ如何ツヤ

人アリ若シ炭山用莫大ノ諸物品ト該炭山ヨリ見本品トシテ各所ニ送り出
セシ塊粉炭トハ夕張支線ノ鐵道未タ開通セサルヲ以テ全ク人肩馬背ニ托
シテ運搬セシ者ナリ敢テ起工中ノ鐵道ヲ使用シタルニアラスト云フアラ
ハ是レ夕張炭山ノ地勢ヲ誣テ識者ヲ愚弄スルモノナリ想起ス政府カ先年
釜石鑛山ヲ起スニ當テヤ之カ諸器械ノ運送ニ費シタル費用ハ實ニ莫大ナ
リシト夕張炭山ノ起業ニシテ不幸鐵道ノ便ナク人肩馬背ヲ以テ百般ノ諸
器械ヲ運搬セシメタリトセンカ必スヤ之カ運賃ノ支拂ニハ驚クヘキ多額
ノ費用ヲ要セシナルヘシト雖モ該社ノ營業報告書中更ニ之カ費目ヲ掲ク
ル能ハサリシハ果シテ何ノ故ソ之ヲ究極スルニ該社ノ炭坑部ハ不法ニモ
開業以前ノ鐵道ヲ私用シタルモノニシテ殊ニ無賃ヲ以テ送達シタルカ如
キニ至テハ命令書ノ所謂炭礦ト鐵道トハ其經濟ヲ分離ス可シトノ條項ヲ
蹂躪シ其自ラ斷言シタル誓約ヲ毀擲シタルモノニアラスシテ何ツヤ却テ
怪ム政府カ第四議會ニ答辯シテ炭礦ト鐵道トハ畫然分離シテ井然相侵サ
スト云フハ事實何ノ依ル所アリテ然ル歟政府ハ該社ト共謀シテ議會ヲ欺
罔セリト斷言スルアルモ將タ之ヲ辯解スルノ辭柄アル乎

三新設鐵道幹線ハ最初起點ヲ室蘭港ニ發シ空知川ヲ橫斷シテ空知郡瀧澤村

字番外地ニ達スルノ設計ナリシニ該會社ハ空知炭山ヘノ支線ヲ擅ニ變更
シタルノ結果トシテ又私ニ幹線ニ哩許ヲ短縮シテ其線路ヲ空知川ノ西岸
ニ止メタリ是ニ於テ乎上川地方ノ人民ガ貨物ヲ運搬スルニ當テ右空知川
通過ノ難ヲ鐵道ニ依テ極ハル、ノ期待ハ遂ニ空望ニ歸セリ蓋シ會社モ今
ハ空知川ヲ迂回シテ石炭(空知坑)ヲ運送スルノ必要ナキカ故ニ當初
設計ノ線路實測圖ヨリ見ルトキハ全然二哩許ヲ縮ムルモ鐵橋ヲ空知川ニ
架設シ尙延ヒテ瀧澤村字番外地ニ達スヘキ二哩許ヲ線路ヲ布設スルハ寧
ロ運炭上ニ必要ナキヲ以テ終極停車場ヲ此西岸ニ据エテ巧ニ空知太ト稱
シ鐵道總資本金五百万圓ニ對スルノ補給利子ハ依然トシテ之ヲ國庫ニ仰
ケリ而シテ此短縮シタル二哩ノ線路ハ監督廳モ措テ之ヲ咎メス會社モ亦
自ラ知ラサルマネスルニ至レリ元來該社ノ延長線路二百餘哩ノ上ヨリ見
ル時ハ僅々二哩ノ線路其長短ニ於テ又何カアラン左レトモ此二百餘哩中
ノ線路ハ皆是レ運炭鐵道ニ外ナラサルモノニシテ石炭搭載ノ望ナク眞個
拓殖ノ用ニ供シタルモノハ唯實ニ砂川ヨリ空知川ヲ經テ瀧澤村字番外地
ニ達スヘキ四哩ノ鐵道アルノミ然レトモ此拓殖ノ機關タル四哩ノ鐵道ニ
於テ既ニ二哩ノ線路及ヒ橋梁等ハ擅ニ之ヲ抹殺シ去テ石炭事業ノタメニ
ハ其眼底殆ント北海道ナク國家ナク公益ヲ擧ケテ全然私利ノ犧牲タラシ
ムルノ證據歴々此ノ如シ

事實ニ伴フ質問者ノ疑團ハ以上述べルカ如シ政府ハ果シテ何等ノ理由ニ依
リ何等ノ根據ニ基キ炭礦ト鐵道トヲ同一會社ニ放任シ國家經濟上其當ヲ得
タリトナス乎該社ノ兼業ヲ認可シタルハ鐵道條例ニ違反セサルモノトナ
ス乎該社ノ行為ハ命令書ニ背反セサルモノトナス乎線路短縮及ヒ變更ハ鐵道
條例ニ違反セサルモノト爲ス乎右ニ對シ條々明晰ナル答辯ヲ要ス

別紙寫
炭礦鐵道會社分割並ニ朝里錢函問及ヒ手宮市街公道敷設請願
謹而奉請願候私共義北海道ノ窮陬ニ住居仕匠寒比ナク寂寞助少キノ境ニ住

(四)

居罷在候處是迄政府カ其大ノ資ヲ投シテ拓殖ノ道ヲ補ハント計畫相成候事
業ノ中ニ就テ北海道炭礦鐵道會社ノ義ハ種々ノ特典殊惠アルニ拘ハラス名
實相副ハス事巧公益ニ補ハス往々私共人民ノ便宜ヲ害スル始末ト相成候ニ
付茲ニ公明ナル衆議院議員閣下ノ裁斷ヲ請ヒ度請願ノ次第ハ

第一右炭礦鐵道會社ハ主トシテ石炭運搬ノ一途ニ鐵道ヲ利用シ眼中人民
ノ便宜ヲ措カス國庫ヨリ補給金迄ニ御下賜相成ル會社カ却テ採炭ノ一私
業ノタメニ北海道全體ノ公益ヲ犧牲ニ供スルノ事實ト相成候ニ付之ヲ匡
正センカメニ鐵道ト炭礦ト事業ヲ分割セシメ鐵道ヲ純粹一個ノ運搬
業務ト爲シ以テ公私混合鐵道私用ノ弊ヲ除キ度事

第二右炭礦鐵道會社カ錢函朝里間及ヒ手宮市街ノ公道ヲ其儘鐵道線路ニ
相用候タメ普通國民カ享有スル國道相亡ヒ候ヨリ右區域ノ人民迷惑ニ堪
ヘサル始末ト相成候ニ付是非共至急右ノ道路御開設相成度事

又手右第一ノ義ハ會社創立ノ時ヨリ名ヲ拓殖ニ藉リテ國家ノ寵眷ヲ受ケ乍
ラ嘗テ公益ヲ思ハス鐵道ヲ犧牲トシテ炭業ノ都合ヲノミ相計リ申候其證述
ト申スハ新設鐵道ノ幹線タル空知太停車場ハ最初空知川ヲ橫截シテ瀧川村
字番外地ニ達スルヲ以テ最終點ト爲シ夫レヨリ空知炭山ハ分岐ス可キノ設
計目論見圖ニ據テ茲ニ始メテ認可ヲ得タルモノナルニ其後空知炭山ハ計畫
上俄カニ坑口及ヒ其位置ヲ變轉セシヨリ該社ハ當初設計ノ番外地分岐線ヲ
不必用ナリト爲シ遂ニ私設鐵道條例ノ制裁ヲ犯シテ空知炭山ノ支線ヲ今ノ
砂川ヨリ分岐スルニ至レリ然レトモ一面ニハ既ニ圖面ヲ以テ終極停車場ヲ
指定シタルカ故ニ其申譯迄ニ幹線ヲ空知川岸頭ニ達セシメテ初發ノ設計ヨ
リ其幹線ヲ短縮スルコト凡ソ二哩許ニ至レリ該社ニシテ眞個拓殖ニ翼賛ス
ルノ意アラハ縱令空知炭山ノ位置ヲ變更スルモ其幹線ヲシテ空知川ヲ橫斷
シ去ツテ當初設計ノ最終點タル瀧川村番外地ニ達セシメサルノ理アラナ
今該幹線一百餘哩ノ哩程ヨリ見ルトキハ該社カ誤魔化シタル哩程ハ僅カニ
二哩ニ過キスト雖モ之ヲ拓殖ノ上ヨリ見ルトキハ其最終停車場カ空知川ヲ
橫斷シ去テ番外地ニ達スルト否トハ獨リ上川地方ノ便否如何ニ關スルノミ
ナラス延ヒテ其利害ヲ北海道全體ニ及ホス果シテ幾何ソヤ

是レハ唯一例ヲ引キ候モノナレドモ現在同會社ノ運賃率ヲ見候ニ自個ノ石
炭ニハ内地鐵道ノ運賃ヨリモ格外ノ安價則チ一哩一噸ニ付八厘餘ニ過キサ
レトモ米鹽薪炭ノ如キニハ内地鐵道ヨリ數倍ノ運賃ヲ相課シ申候次第ニ御
坐候

此外該社カ動モスレハ公約ヲ破リテ輒ク農產物ニ運賃ヲ課セントスル如キ
是則チ公益ヲ思ハサルノ證述ニシテ畢竟該社カ鐵道ト炭礦トノ業務ヲ一社
ニ兼業スルヨリ出ル弊害ニシテ若シ此二業ヲ分割シテ鐵道ヲハ尋常鐵道會
社ノ事務ニ歸シ候ハ、會社ハ一方ニハ尋常顧客トシテ炭礦會社ヲ視ルヲ以
テ運賃其他自然尋常ノ率ニ立歸リ可申又一方ニハ北海道人民全體ノ公益ヲ
思ハサレハ後來一會社トシテ立行ク上ニ付テ困難ヲ生スルノ恐レアルヲ以
テ自然今日現在炭礦テフ者ヲ特ニ致シ其外ハ如何ナレ構ハスト云フノ風
ヲ脫シ可申又補給利子ノ如キモ炭礦ノ利ニ轉用致候様ノ弊害ヲ除キ得可申
奉存候私共承リ候ニ政府カ郵船會社ニ保護金ヲ下賜スルヤ其命令書第五條
ニ其會社ハ中外ノ海運ヲ以テ專業ト爲シ他ノ事業ニ關涉スヘカラス云々ト
特ニ規定サレ候ハ兼業ヨリ生スル諸般ノ弊ヲ豫防スルニ有之候由郵船會社

モ鐵道ト同一運搬ノ業務ヲ掌トル者ニシテ營業ノ種類ハ全ク相同シク候得
者此邊ノ規定ハ該炭礦鐵道會社ヘモ同様ノ御命令有之候肝要ノ事ト奉存候
是レ即チ同社ノ二業分割ノ儀奉請願候義ニ御坐候且又手宮市街及ヒ朝里錢
函間公道ノ義一條ノ道路既ニ鐵道ニ私占サレ私共今ハ道廳カ炭礦鐵道會社
ニ下付スル命令書第四條ニ鐵道線ノ內朝里錢函間ノ線路ハ追テ道路開設迄
當分ノ內一般人民ノ通行ヲ許可ス云々トノ下ニ相安シ候外無之去リトテ右
區域內ニ棲息致候者共ノ內急病等相發シ候共國道ハ既ニ鐵道ニ相奪ハレ居
申候得者車馬ヲ通シテ醫師ヲ送迎スルコトモ不相叶無慘ニモ其儘見殺ス如
キ事共有之申候加之雪中杯ニハ旅人ノ通行殊更危險相極申候
乍忍日本國中鐵道ニ公道ヲ橫領サレ車馬モ通スル事相成サル不便不自由
不幸ナル人民ハ私共ノ外ニ無之ト奉存候
右命令書ニ依レハ當分ノ內ト有之候故疾クニ道路開設ノ事ヲ實行致スヘキ
様相考ラレ候ニ今ニ至ル迄殆ント知ラサル爲メニテ相過キ候事道廳ヲ始メ
會社ノ不信用不都合不行届何共申様無之心外ノ至リ且ハ迷惑無此上奉存候
何卒至急私共ノ困狀御明察被下是等ノ不都合ヲ糾シ道路新設被成下度候様
伏而奉請願候恐惶謹言

北海道石狩國札幌區北四條西四町目一番地平民

農商 松井民次郎

外百七十九名連署

追伸北海道炭礦鐵道會社線路沿道人民ヨリ衆議院ヘ請願シタル炭礦及ヒ
鐵道分割請願書ハ參考トシテ相添ヘ提供候也

提出者 田中正造

外六名

贊成者 柴

外三十一名

石川縣會違法案事件ニ就イテノ質問

一明治二十七年度ノ石川縣通常會ニ於テ議長南谷與三郎カ其任期中ナルニ

モ拘ハラス一派ノ議員(所謂縣廳派)カ多數ヲ特ニ之ヲ無效トシテ更ニ議

長ヲ選舉シ橫地正果ヲ以テ其當選者ト定メタルハ府縣制第十九條ノ「議

長ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ」ト云ヘル明文ニ違反セル者ナリ故ニ縣知

事カ府縣制第八十四條第二項即チ監督ノ權ヲ以テ之ヲ取消シタルヤ善シ

然レトモ其後右一派議員ノ求メニ依リ其取消ノ執行ヲ停止シ違法ノ議長

ヲシテ強テ議長ノ事務ヲ執行セシメタルハ府縣制違反ノ非爲ヲ許シタル

者ナリ果シテ然ラハ內務大臣ハ如何カ故ニ此不法ヲ默視シタルヤ

一他ノ一派(所謂非縣廳派)十一名即チ議員全數ノ二分ノ一ノ議員ハ違法ノ

議長ヲ取消シ正當ノ議長ヲシテ其事務ヲ執行セシメントコトヲ縣知事及內

務大臣ニ求メタリ當時內務大臣ハ如何ニ之ヲ處置シタルヤ

一右一派ノ議員(即チ十一名)ハ內務大臣ノ處置ヲ得ル迄其進退ニ苦ミ缺席

シテ只管命ヲ待チ居タルニ一派ノ議員ハ違法議長ノ下ニ議シテ他ノ一派

ノ議員(即チ十一名)ニ無届缺席ト云フヲ以テ三日間(即チ閉會ノ日迄)出

席停止ノ處分ヲ加ヘタリ蓋シ出席停止ハ府縣制第三十一條ニ據ルト稱ス

然ルニ府縣制第三十一條ノ明文ニ曰ク「議員中議場ノ秩序ヲ紛ルトコト

回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ

七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得」ト此條項ヲ以テ缺席者ヲ處分シタルハ即チ法律ニ明條ナキモノヲ罪ニ問ヒタルナリ無辜ヲ罰シタルナリ故ニ縣知事ハ府縣制第八十四條第二項ニ據リテ當ニ之ヲ取消スヘクシテ却テ取消サス内務大臣亦措テ之ヲ問ハサリシハ如何ナル理由ナルヤ

一 右出席停止所分ハ洵ニ違法ナルヲ以テ其停止處分ヲ加ヘラレタル議員(則チ十一名)ハ之ニ服セス出席シタルニ書記官龍岡信熊ハ違法議長ト俱ニ警察官ヲ指揮シ腕力ヲ以テ該議員ヲ退場セシメ翌日出席セルモ亦此ノ如クセリ蓋シ此違法壓制ナル出席停止所分ヲ縣知事ニ於テ取消サハルノミナラス書記官ヲシテ議長ト俱ニ警察官ヲ指揮シ腕力ヲ以テ全議員ノ三分ノ一ヲ退場セシメタルハ是レ縣知事力議會ノ違法壓制ヲ幫助シタル者ニアラスヤ果シテ然ラハ内務大臣ハ何カ故ニ之ヲ不問ニ所シタルヤ

一 違法議長選舉ノ事アリ縣知事カ其取消所分ノ執行ヲ停止スルヤ十一名ノ議員ハ其不法ヲ訴ヘンカタメ直チニ村田助松竹内虎松ノ二人ヲ陳情委員トシテ上京シ内務大臣ニ面陳セシメタリ而シテ其求ムル所ハ監督權ニ依リ違法議長ヲ取消シ適法ナル議長ヲ復活セシメンコトヲ以テスルニアリ又此所分一日ヲ怠レハ一日ノ違法ヲ許シ二日ヲ緩ウスレハ二日ノ違法ヲ假シ縣會ノ組織之カタメ法外ニ屬スルヲ以テ片時モ早ク處分アラントコトヲ以テスルニアリ此ノ如クニシテ内務大臣ハ閉會ニ先ツ四日ニシテ僅ニ違法議長ノ取消ノ電報ヲ縣知事ニ發セリト云フ然ルニ知事ハ之ヲ執行セサリシナリ會ヲ終ル迄違法議長ヲシテ強ヒテ議長席ニ在ラシメシナリ是レ内務大臣ノ命ニ違フ者ニアラスヤ然リト雖トモ知事ハ内務大臣ノ命ニ違フノ理ナク又知事内務大臣ノ命ニ違フニ内務大臣之ヲ許スノ理ナシ或ハ内務大臣ハ違法議長ノ取消ヲ命セサリシニハアラサル乎若シ然リトセハ是レ違法議長ヲ默許セル者ニアラスヤ何ツヤ

一 二十七年度ノ石川縣支出收入豫算ハ違法壓制ヲ以テ議員三分ノ一ヲ退場セシメタル其間ヲ機トシ勿々ニ議了セラレタリ是レ正當ノ議員ヲ暴力ニ拘束シ他ノ一派ノ議員ノミニテ違法議長ノ下ニ會議ヲ開キ議決ヲ爲シタル者ナリ故ニ縣民ハ此議會ヲ縣會ト認メス從テ縣稅ノ納入ヲ拒ム者アリト云フ抑モ此ノ如キハ縣廳ト縣廳派議員トノ結托ニ原因シ中央ノ監督地方ニ徹底セサルヨリ致ス所ナリ知ラス内務大臣ノ監督權ナルモノハ前記ノ違法亂暴ヲ雲烟過眼ニ附スルニ在ル乎内務大臣ノ詳細ナル答辯ヲ望ム

右議院法第四十八條ニ依リ及質問候也

明治二十七年五月三十日

提出者 武市彰一
賛成者 淺野順平
首 藤陸三

赤痢病豫防ニ付質問

一 赤痢病ノ流行ハ一年増進シ明治二十七年ニ至リ同患者ノ總數一箇年間十六萬七千三百五人ニ上リ其中四萬三千三百八十三人ノ死亡ヲ來シ名狀ス可ラサル慘毒ヲ極メ生命財產ヲ荒シタルニモ拘ラス政府ハ更ニ之カ防禦ヲナサス勝手次第第二跋扈セシメ勝手次第第二同胞ヲ屠ラシメ恬トシテ顧ミ

サルハ如何

一 赤痢病流行ノ人民ニ毒害ヲ流サヤ地震洪水ノ比ニ非ラス地震洪水ノ如キ其災害單ニ其一方ニ限レトモ赤痢病ハ之レニ反レ一地方ヲ流行ノ中心トナシ九州四國中國ヲ荒レ廻リ今ヤ東北諸州ニ進入セントスル勢ナルニモ拘ラス赤痢病ノ豫防ニ對シテハ一金タモ支出セス袖手傍觀對岸ノ火事セラルハ如何

一 政府ハ明治二十五年ヨリ二十六年六月ニ至ル彼ノ牛疫流行ニ際シ豫防費トシテ金六萬千參百七拾五圓九拾七錢四厘支出シタルニモ拘ラス滔天ノ慘毒ヲ極ムル赤痢病ノ流行ニ對シテハ一金ノ支出ナシ政府ハ何故ニ萬物ノ靈タル人間ヲ牛馬ヨリ劣等視セラルハカ

一 持兇器強盜カ白刃ヲ揮テ人ヲ屠ルモ赤痢病カ病毒ナル白刃ヲ揮テ人ヲ屠ルモ其人ヲ殺スニ至リテハ一ナリ政府ハ警察上強盜ノ防禦ヲナスニモ拘ラス何故ニ衛生上赤痢病ナル持凶器強盜ノ防禦ヲナサハルカ

一 凡ソ一國ノ殖產興業ヲ荒ラシ一國ノ富源ヲ涸ラシ一國ヲシテ貧弱ニ陷ラシムルモノハ傳染病ノ流行ヨリ甚シキハナシ政府ハ何故ニ慘毒ヲ極ムル赤痢病ノ流行ヲ度外視セラルハカ

右ノ理由總理大臣自ラ議院ニ出席シ口頭ヲ以テ説明セラレタシ

右議院法第四十八條ニ由リ提出候也

明治二十七年五月

提出者 長谷川 泰
脇阪 行三
賛成者 林 喬

外三十名

再質問書

曩ニ本員等ハ質問書ヲ提出シ金玉均朴泳孝殺害事件ヲ政府ニ質問セシニ政府ハ去ル三十日附ヲ以テ答辯書ヲ提出セシモ該答辯ハ其要領ヲ得ス然ルニ本件ハ國家ノ體面ニ關スル最モ重大ノ問題ナルヲ以テ爰ニ再ヒ質問書ヲ提出スルノ必要アリ本年ノ議會ハ期日既ニ切迫シ逐一書面ヲ以テ應答スルノ餘暇ナク且ツ其事ノ急速ヲ要スルニ由リ國務大臣ハ六月一日本院ニ出頭シ明瞭ニ政府ノ意見ヲ示サレンコトヲ希望ス而シテ本件ハ事外交ニ關スルヲ以テ若シ公示ヲ憚ル場合ニ於テハ秘密會ヲ開クモ妨ケナシト信ス

再質問ノ要領左ノ如シ

答辯書ニ曰ク「從前朝鮮人ノ我國ニ渡來シ金玉均及朴泳孝ヲ殺害スヘキ王命ヲ帶有スト稱シ居タル者アルコトハ事實ナリ尤モ此等ノ輩ニシテ金玉均人ト平素私怨ヲ有スルヤ否ハ元ヨリ我政府ノ關スル所ニアラスト雖トモ我政府ハ其都度朝鮮政府ニ照會シ而シテ其王命ニ非スシテ全ク彼輩ノ捏造ニ出テシ事ヲ明ニセリ」ト然ルニ既ニ王命ヲ帶有ストノ稱アル以上ハ政府ハ飽迄其眞否如何ヲ調査シ若シ之ヲ眞ナリト認ムルニ於テハ實ニ國家ノ體面ニ關スル重大ノ事件ナルヲ以テ嚴重ナル處置ニ出テサル可ラス然ルニ政府ハ單ニ朝鮮政府ニ照會シタリト謂フノミ夫レ斯クノ如キ場合ニ遭遇シ彼ノ政府ハ我政府ノ照會ニ對シスル如キ答辯ヲ爲スハ當然ノ情態ナリ決シテ其答辯ヲ以テ眞否ヲ決定シ得ヘキモノニアラス然ラバ如何ナル調査ヲ遂ケ彼輩ノ捏造ニ出テシ事ヲ明ニシタルヤ是第一ノ疑點ナリ

李逸植事件ニ關シテモ亦單ニ朝鮮國外務督辦ノ回答ヲ以テ之ヲ偽造ナリト

認メタルモノナルヤ前段疑點ノ如ク彼ノ政府ノ回答ハ決シテ事ノ眞否ヲ決シ得ヘキモノニアラス若シ彼ノ政府ノ回答セシ如ク彼ノ政府ニ於テ印璽偽造者トモハ其罪ヲ問フヘキ處置ニ出デサル可ラス然ルニ單ニ其罪實ニ赦ス可カラストノ一言ヲ採テ之ヲ偽造ナリト認ムルニ至テハ未ダ以テ其實ヲ明カニシタリト謂フ可ラス是レ第二ノ疑點ナリ

洪鐘宇ノ如キハ現ニ李逸植ト共ニ事ヲ謀リタル者ナルコトハ我法廷ノ調査ニ依テ明ナリ若シ彼等ハ朝鮮國王印璽偽造ノ共謀者ナリトモハ朝鮮政府ニ於テ當ニ之ヲ嚴罰スヘキ反テ之ニ恩賞ヲ與ヘタリトノ事ヲ聞ケリ然ラハ則チ朝鮮外務省辦ノ答辯ハ決シテ信ヲ措クニ足ラサル者ノ如シ政府ハ尙ホ之ヲ以テ偽造ニ非スト認メタル乎是レ第三ノ疑點ナリ

又答辯書ニ裁判進行中ナルヲ以テ其結局ニ至ラサル以上ハ預言ス可ラストアリ然レトモ外交問題ハ司法問題ト相異ナル者ナレハ必スシモ司法裁判落著ヲ待テ後ニ處置スルヲ要セン是レ第四ノ疑點ナリ

明治二十七年五月三十一日

提出者 鈴木 充 美
贊成者 駒 林 廣 運
外三十名

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、二百十番鳩山和夫君

(鳩山和夫君演壇ニ登ル)

○鳩山和夫君(二百十番) 諸君、私ハ引下 何トカ云フ石代ノ 早ク申スト井上征伐委員ノ報告ヲ致シマス(河島靜君 井上征伐委員トハドンナモノデスカ質問致シマス)ト呼フソレハ唯今委シク 今一寸此表題ヲ見出シマセヌカラ符牒ダケヲ以テちよッ申シタノデアリマス(河島靜君 委員會ニ依ッテハ人ヲ征伐スルト云フ積リデハナイサウ云フ猥リナ言葉ハ發セラレヌガ宜カラウ)ト呼フモウちよッ聽イテ下サイ、斯ウ云フコトデス、山口縣佐波郡佐波村士族ノ金子辰次郎外十四名提出地租引當米過剩金下戻ノ請願(河島靜君 サウデセウ井上征伐ト云フコトハナイ)ト呼フ 審查特別委員會ノ報告ヲ致スノデアリマス、此報告ハ委員長若クハ理事カラナスガ普通ノ順序デアリマスガ、御兩君御差支デアリマスルノデ、私カラ報告スルノデス、委員長ハ去ル二十四日ノ午前十時ニ會議ヲ開イテ、齋藤圭次君ガ當選セラレマシタ、理事ニハ山田東次君ガ當選セラレマシタ、其委員會ノ經過ヲ申シマシタ、二十四日ニハ委員長理事ノ選舉ヲ爲シテ審查ニハ取掛リマセヌ、二十五日二十六日ニテ取調ニ從事致シマシタ(成ルダケ高聲)ト呼フ者アリ印刷シテアルモノ、中ニハ少シ誤ガアリマスカラシテ、此場合ニ於テ訂正致シテ置キマス(聽エマセヌ)ト呼フ者アリ 聽エマセヌカ(さッぱり分リマセヌ)ト呼フ者アリ印刷シテアルモノガ諸君ノ御手許ニアル答デゴザイマスガ、其第一項竝ニ第二項則チ山縣伯ニ關スル項ト、鳥尾子爵ニ關スル項ト中デ「委員會ニ於テ調査シ得タル證據書類ニ依リテ」ト云フダケノ文字ハ之ヲ削除スルノデアリマス、御報告申ス第一ハ此金子辰次郎外十四名ノ地租引當米過剩金下戻ノ請願ハ之ヲ採擇スベカラスト云フ結果デアアル、此報告ハ請願委員ノ報告トハ反對ニナルノデアアル、請願委員カラノ報告ニ依リマスルト、

是モ諸君ノ御手許ニアル答デアアルガ、二十七年五月二十二日委員長小松三省君カラ報告ニナッテ居ル、是モ諸君ガ其所ニ持ッテ御出デゴザイマスカラ朗讀致シマセヌガ、此結果ハ「右ノ理由ナルニ依リ衆議院ハ之ヲ採擇スヘキモノト決議セリ、依リテ議院法第六十五條ニ因リ別冊御送付及候也」斯ウアル、此特別委員會ノ報告ハ是ニ反シテ此請願ハ採擇スベカラズトナスノデアアル、其結果ノ違フ所以ハ協同會社ト云フモノ、性質ニ就キマシテ特別委員會ニ於テ調査シタ所ノ結果ニ依リマスルト、協同會社ト云フモノハ國庫ヲ代表シ、又ハ國庫ノ收稅所タル性質ヲ帶ビテ居ラナカッタモノダト云フコトニナル、請願委員ノ取調ニ依ルト此協同會社ハ縣廳ノ支配ヲ受ケテ國庫ノ收稅所タル性質ヲ有シ、協同會社ハ是ガ司掌ノ任ニ當レリト云フコトニナッテ居リマスカラシテ、此性質ノ認メ方ガ違フニ依ッテ結果ガ違フノデアアル、協同會社ノ性質ニ就キマシテハ特別委員會ニ於テ調査シタル所ノ性質ニ依リマスルト、協同會社ハ政府ガ之ヲ組織シタモノデハナクシテ、山口縣ニアリマシタ所ノ一ノ私立ノ會社デアアル、其役員ノ選舉ノ如キモ政府ガ之ヲ任命シタノデナクシテ投票ニ依ッテモノデアアル、ソレハ協同會社カラシテ會社ヲ組織スルニ就キマシテ、内務省ヘ差出シマシタ所ノ願書竝ニ屆書ガアル、其中ニ協同會社自ラガ協同會社ノ性質ヲ明カニシテ居ルノデアリマス、諸君ノ時ヲ餘リ取ルノガ宜シクナイカラ、諸君ニ其事ノ載ッテ居ル場所ヲ御示シヤウト思ヒマス、此事件ニ關スル特別委員會ノ速記第一號ノ中ニ、政府委員松岡康毅君ガ述ベテ居ル所、竝ニ共同會社ノ規則ノ中カラ拔萃シタモノガアリマス、サウ云フ理由デアアル御覽ニナリマスルト協同會社ノ性質ハ明カニナリマスデ、既ニ國庫ヲ代表スルモノデナイ以上ハ、其協同會社ノ内ニ米ヲ普通ノ相場ヨリ安ク賣ッテ、人民ノ利益ヲ害シテ役員等ガ不正ノコトヲ行フタト云フコトガ假ニアツタトシテモ、其不正ナル行爲ニ就イテ政府ガ責任ニ任ズベキモノデナイト云フ理由ヲ以テ、此請願ハ採擇スベカラズト決シマシタ、ソレカラ此特別委員會ト云フ者ニ議場カラ付託セラレタモノ、中ニハ、尙ホ其餘ノ事ヲ包含シテ居ルト云フコトハ齋藤君ノ緊急動議、又緊急動議ヲ維持セラレタ所ノ演說ニ依ッテ明カデアアル委員會ハ信ゼラレマシタカラシテ、請願ノ採擇ヨリ尙ホ進シテ諸君ガ委員ニ付託セラレタ項目ニ分ッテ見マサルト、山縣伯竝ニ鳥尾子爵ガ明治十年ノ頃ニ於テ軍機ヲ漏洩シタリト云フコトニ就イテ調査致シマシタ處ガ、先ヅ軍機ヲ漏洩シタリト云フコトハドウ云フコトデアアルト云フヲ調ベテ見ルニ、明治十年ノ三月二日ニ起ッテ三月二十一日カト思ヒマシタガ、終ル電報ノ寫ト稱スルモノガ今日證據トシテ顯ハレテ參タノデアアル、此電報ノ寫ト云フモノハ警視局ノ用紙ニ隱寫シタ所ノモノデアアル、ソレハ懲戒處分ノコトニ就イテ請願ヲシテ居ル佐藤志郎ト云フ者ノ所持スル所ノモノデアアル、委員ノ中ノ一人ナル齋藤圭次君ガ其佐藤志郎カラ受取ラレタ所ノモノデアアルト云フコトゴザイマス、其電報ハ矢張煩ヲ省クタメニ此處デ一々讀上ゲマセヌガ、多ク熊本戰爭ニ關スル電報デ、或ハ警視局ノ人ガ打ッタモノモアリマス、又ハ陸軍部内ノ人カラ陸軍部内ノ人ニ宛テタモノモアル、宛名ノ多クハ皆鳥尾子爵デアアル、其鳥尾子爵ニ宛テタ所ノ電報ガ如何ナル譯デ山縣伯ガ軍機ヲ漏洩シタト云フコトニナルカト云フコトヲ

御尋シタ所、齋藤君ノ御考ニハ山縣伯ハ其電報ノ日附ノ當時大阪ノ藤田傳三郎ノ家ニ止宿セラレテ居ッタモノデアル、サウシテ藤田傳三郎君ノ家ニ山縣伯ガ止宿セラレテ居ッタ鳥尾子ニ宛テ電報ヲ山縣伯ガ受取ツテツレバ藤田傳三郎等ニ示シタモノデハナイカト云フコトデアル、ツレカラ此事ヲ調査スルニ方リマシテ、果シテ山縣伯ガ其當時藤田傳三郎方ニ止宿セラレテ居ッタカドウカト云フコトハ分ル管デアアルト思ヒマシタカラ、政府委員ニ取調ヲ依頼シタ所ガ、政府委員ハ山縣伯ニ就イテ更ニ取調ヲシタ、而シテ政府ノ方ニ於テ則チ陸軍省自ラ其記録ニ依ツテ其取調ヲ爲シマシタ、其取調ニ依ツテ見ルト山縣伯ガ自分ノ日記其他ノ書類ニ依ツテ調ベタ所ト、陸軍省ニ於テ調ベタ所ト大體符合シマス、唯神戶出發ト云フ日ガ山縣伯ガ二十二日即チ三月二十二日、ツレカラ陸軍省ノ調デハ二十三日、此間二日ノ差ガアルコトデ、其他ハ數日ニ渉ル間ノ取調ガ盡ク符合シテ居ツテ、即チ其調ベタ結果ニ依ツテ見ルト、山縣伯ハ其當時大阪ニハ居ラズ、戰地ニ居ッタト云フコトノ事實ガ明白ニナリマシタノデアリマス、山縣伯ガ當時戰地ニアッタナレバ、藤田傳三郎ノ家ニ止宿シテ居ッタト云フ豫想カラ——推測カラ出テ參リマシタ所ノ山縣伯ニ關スル軍機洩洩ノ事實ナシト信ズルノ外ナイノデアリマス、委員會ニ於テハ山縣伯ハ軍機ヲ洩洩シタリト認メナイノデアリマス、又軍機洩洩ナリト云フ電報其物ハ熊本ノ戰争ノ模様ヲ時々知ラシタモノデアツテ、是等ノ電報ハ其時ニ新聞ニモ現ハレ、其他ノ箇所ニモ皆電報ヲ打ッタモノデアアル、兒玉政府委員ハ其當時ノ讀賣新聞ヲ委員會ニ提出セラレテ、其軍機洩洩ニ係ルト云フ所ノ電報ガ讀賣新聞ニ載ツテ居ッタト云フコトヲ證明セラレタノデアリマス、吾ミガ考ヘテ見マスルノニ熊本戰争ノ當時ニハ負ケタコト——官軍ノ負ケタコトハ先ヅ秘シテ置イタニシテモ、少シデモ勝ッタト云フコトハ四方方ニ之ヲ知ラセルノ手立ヲ取ツタノデアアル、是等ノ電報ガ皆其種類デアリマスガ、軍機ト稱スルモノデハナイト委員會デハ考ヘマス、即チ山縣伯ガ藤田傳三郎ノ家ニ居ラナイト云フコト、並ニ電報其物ガ軍機デナイト云フ點カラシテ山縣伯ニ關スル軍機洩洩ノ點ハ認メマセヌノデアリマス、其次ハ鳥尾子、鳥尾子ニ就イテモ矢張山縣伯ニ就イテト同様ノ取調ヲ致シマシタ、然ルニ鳥尾子ハ此電報ノ日附ノ初メノ方ハ藤田方ニ居ラナカッタ、電報ノ日附ニ係ル日附ノ中ニ藤田傳三郎方ニ止宿シタト云フコトハ事實デアツテ、而シテ其辭解ヲ聞クニ、其頃鳥尾子ハ京都大阪神戸ノ間ニ陸軍省ノ用ヲ帶ビテ出張サレテ居ツテ、アノ邊ヲ徘徊シテ居ラレタデアル、其用ガ濟ンダ後ニ凡テ不用ナ書類ヲ一括シテ之ヲ藤田傳三郎ニ預ケテ置イタト云フコトデアル、其預ケテ置イタモノガ其後例ノ贖札事件ニ就イテ藤田組ノ家ヲ家宅搜索シタ時分ニアツテ、ツレバ持ッテ行ッタノデハナイカ、斯ウ云フ事實ニナリマス、併ナガラ其電報其物ガ既ニ軍機デナイト云フ委員會ノ意見デアアルシ、且ツ電報ト云フモノノ鳥尾子ガ藤田ニ示シタト云フ方ノ事實ハナイ、反古ノ中ニツレガ交ツテ居ッタト云フ當人ノ辯解デ、サウデナイト云フ他ニ證據ガナイ、故ニドウシテモ軍機ヲ洩洩シタト云フ事實ハ之ヲ認ムルコトヲ得ズト決定致シマシタ、其次ハ井上伯ニ係ル事柄デアアル、是ハ委員會ニ於テ調査シマシタトキニハ矢張三ツニ分ケテ調査致シマシタガ、餘リ長クナリマスルカラ茲ニ御報告スルニハ一括シテ報告シヤウト考ヘル、其一ハ即チ明治五年頃ニ井上伯ガ當時大藏大輔デアッタ時ニ商業ヲ營ンダト云フコト、又其後

明治九年井上伯ガ議官デアッタ時ニ又商業ヲ營ンダト云フコト、又其後明治十一年井上伯ガ參議デアリシ時ニ又商業ヲ營ンダ、サリナガラ是ハ唯役ノ名ガ違フダケデ結局スル所、其身高等ニアリナガラ商業ヲ營ンダト云フコトハ一ツデアアルカラ、茲ニ一括シテ御報告ニ及ブト考ヘル、井上伯ガ明治五年乃至十一年ノ間ニ商業ヲ營ンダト云フコトノ證據トスル所ノモノハ、今ノ佐藤志郎ト云フ者ノ手カラ出タ所ノモノハ澤山アル、而シテ之ヲ精密ニ委員會ノ出來ル前カラ調ベテ居ッタ齋藤圭次君ノ調ニ依ツテ見マス、其中ニ殊ニ齋藤圭次君ノ說ヲ助ケルト同君ノ見ラル、所ノモノガ數種アリマス、先ヅ吾ミハ專ラツレ等ニ就イテ調査シ、其他ノ物モ見るデ見ナイト云フコトデハアリマセヌガ、專ラ齋藤君ガ殊ニ是等ガ據リ所デアルト期セラハ、モノニ就イテ專ラ調査致シマシタ、其中ノ重ナルモノハ中野梧一ト云フ人ノ日記抄録ト云フ所ノモノデアアル、中野梧一ノ日記抄録ト云フモノ、出所ヲ尋ネテ見マスト、是モ矢張藤田傳三郎ノ家ニ於テ家宅搜索ヲ行ハレタ時ニ、當時ノ係官權大警部佐藤志郎ト云フ一人ガ得タ所ノモノデアアルト云フコトデアル、之ヲ見マスルノニ中野梧一ノ日記抄録トシテアリテ、中野梧一ガ之ヲ書イタモノハ見ラレナイ、誰カ他ノ人ガ抄録シタモノト見ナケレバナラス、而シテ其外ノ電報其他ノモノハ凡テ警視局ノ用紙ニ記載シテアルノニ、此中野梧一ノ日記抄録ト云フモノニ限ツテ、美濃ノ白紙ニ記載シテアルノニ、其日記ノ如キモノハ、其日記ノ本書ガ先ヅアリマス、日記ヲ書イタ人ニ對シテハ證據ノ力ヲ有スルケレドモ、他人ガ勝手次第ニ書イタ所ノ日記ヲ以テ其日記ノ記者タラザル所ノ人ニ對スル所ノ證據ハナチラヌト云フ意見、而シテ此日記抄録ガ果シテ本書ト寸毫モ違ハヌモノデアアルカナイカ、證據立モノイカ是等ノモノヲ以テ井上伯ニ對スル證據トナスニ足ラヌト云フ意見、而シテ長クナリマスカラ茲デハ言ヒマセヌガ、縱令是ガ本物デアルトシテ、其中ニ置イテアルコトヲ以テ直チニ井上伯ガ商業ヲ營ンダリトナスコトハ出來ナイト云フ意見ヲ持ツテ居ッタノデアアル、ツレカラ其次ノ證據トセラル、則チ甲第一號證トアルノハ矢張速記録ノ中ニアリマスルケレドモ、ツレハ井上伯ガ當時藤田組ノ主宰ヲナシテ則チ後見ヲシタト云フヤウナ部類ノ證據デ、其事實ヲ申シマスルト藤田傳三郎ト云フ者ハ支配人ノ心得ヲ以テ藤田家ヘ仕ヘル、凡テ井上伯ノ差圖ヲ受ケル、又井上伯ノ利益ナコトヲ言フテ見レバ井上馨ハ親切懇切ト上世話ヲヤイテヤルノデアツテ、利益ヲ受クルノ限リデナイト云フヤウナコトヲ記載シテアル、全體ヲ見マスルト委員會ノ多數ノ意見ハ井上馨ト云フ人ガ藤田組ノ衰ヘタル際ニ於テ其財政ヲ整理スルト云フコトニ大ニ盡シタト云フダケノ事實ヲ此證據物ニ依ツテ見ルコトガ出來ルト思ヘル、併ナガラ之ヲ以テ井上馨ト云フ人ガ自身商業ヲ營ンダト云フダケノ證據ヲ認ムルコトガ出來ナイ、先ヅ其結果ダケヲ申シテ置キマス、其次ハ甲第二號證ト云フモノデアツテ、之ガ齋藤君ノ御演說中ニアル所謂賄賂帳トカ稱セラル、モノデ、其表題ハ接待簿ト云フモノデアリマス、此接待簿ト云フモノハ厚一ノ帳面デアリマス、其模様ヲ諸君ガ御承知セラル、タメニ速記録ノ中ニ記載シテ置キマシタガ、金高ハ多イガ四十圓少シト思ヒマシテ、極ク少ナイノガ三十圓位デアアル、サウシテ日附ハ明治九年七月ト九年十二月ニナツテ居ル、委員會

ノ多數ノ意見ハ其中ヲ見ルノ三十錢カラ五十錢、或ハ一圓、品物ヲ見ルト砂糖一斤茶一斤ト云フモノガ澤山列記シテアル、尤モ四十圓トカ三十圓トカ云フ中ニハ餘リ大キイ聲デ云フコトガ出來ナイモノモ附ケテアルノデス、ツレモ速記録ニアリマスガ、或ハ金若クハ銀ノ瓶トカ鎖トカ其他言フヲ憚ル如キモノモ一箇所二箇所見エテ居リマス、サリナガラ委員會ノ多數ハ時ヲ見ルト丁度盆ト暮ト云フ所ニ當ル、又帳簿ノ大體ヲ見ルト所謂益暮ノつけとけニ當ル、ツレデ高位高官ノ人ガ金高ノ高イモノヲ受取り、又小使等ニ至ルト三十錢五十錢貫ツテ居ル、或ハ段物ヲ一段貫ツテ居ルトカ、併シ其段物ノ價ガ甚ダ安イトカ、中ニハ酒一斗ナドト云フコトガアリマス、兒玉政府委員ナドモたゞ御賞ニナツタヤウニ書イテアリマス、大體ガ所謂益暮ノつけとけト云フモノニ吾ハ見テ、之ヲ以テ高位高官ノ人ニ賄賂ヲ行使シタリト認メルコトガ出來ナイト認メマシテ、此甲第二號證ナルモノモ亦井上ガ商業ヲ營シタト云フコトノ證據ノ舉ガラスト認メタノデアリマス、ツレカラモウ一ツアリマス、ツレハ乙第二號一ト云フモノ、是ハ單ニ藤田傳三郎ガ京都ノ木屋町ニ於テ邸宅ヲ買求ムル時ニ、藤田傳三郎ノ名義デハツレガ買取ルコトガ出來ナカッタト見エテ井上馨ト云フ人ノ勢威ヲ用ヒテ買フタラシク、即チ榎村正直トアリマスガ、多分ハ榎村サント思ヒマス、榎村カラ井上サニ宛テテ手紙デアリマスガ、是ハ最初メなガ買フ積リテ自分モ骨ヲ折ツタ、戸長等モ骨ヲ折ツタ之ガ藤田傳三郎ノ家トナツテハ困ルト云フ如キ苦情デアリマス、サウシテ見レバ是ハ藤田傳三郎ガ家ヲ買フ時ニ井上馨ト云フ人ガ此勢威ヲ貸シテヤッタト見ルコトガ出來ル、是ニ依ツテ以テ井上ガ商業ヲ營シタ、商業ハ藤田傳三郎ノ商業ハ……皆井上馨ノ商業ト認メルコトガ出來ナイト云フ意見、況ヤ其手紙ハ寫デアリマシテ本書デナイ、果シテサウ云フ手紙ガアツタカ否カト云フコトハ疑ハシイ事實デアリマスカラ、是レ以テ身高官ニアリナガラ商業ニ從事シタリト云フコトヲ認ムルニ足ラヌト云フコトデアリマス、モウ一ツ證據物ノ中デ重ナル意見ヲ言フテ置キマス、ツレハ井上サレガ歐羅巴カラ送ッタル手紙デアリ、此手紙ヲ一見シタ所ガ自筆ラシイ、最モ郵便デ送ッタルモノデナイ、ナイト見エテ郵便切手ハ貼ッテナイ、サリナガラ歐羅巴カラ送ッタル手紙デアリ、其手紙ノ中ニ藤田組ノ商業ニ關スル決算報告ヲ井上氏ニ藤田カラ送ッタルラシイ、ツレヲ見テ大ニ満足ヲスルト云フ趣意ノコトガ書イテアリマス、是ハ先刻御報告ヲ申シマシタ通り井上馨ト云フ人ガ藤田組ノ後見ヲ爲ス即チ其處ノ家ノ世話ヲ燒クト云フ事實ガアツテ見ルト、決算報告ト云フモノヲ送ルト云フ事實ハ自然湧キテ來ルコト考ヘル、即チ之ヲ以テ是ダケノコトヲ以テ井上馨氏ガ商業ヲ營シタト云フコトハ出來ナイ、大體結果ハ斯ウデアリマス、而シテ委員會ノ殆んど全體ノ考ト云フモノハ是ダケノ決定ヲ委員會ガ爲シタト云フテ、是デ以テ井上馨ノ身體ガ清淨潔白金無垢ニナツテ仕舞ッタノデハナイト云フ皆サンノ御意見デアリマス、唯此委員會ガ見タダケノモノヲ以テ井上氏ガ商業ヲ營シタト云フコトヲ認ムルコトガ出來ナイ、而シテ井上氏ニ就イテハ委員會以外ニ於テ吾ハガ評判又ハ其他ニ依ツテ聞イテ居ルコトガ冥々ノ中ニアリマス、ツレハ其儘殘ッテ居ルノデ委員會ノ見タダケノコトニ就イテハ彼ノ人ガ商業ヲ營シタト云フコトヲ認ムルニ足ラヌト云フ是ダケノ決定ニナルノデゴザリマス(質問)ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 質問ノ御思召ト思ヒマスガ、大分本日ハ重大ノ事件モ多クゴザリマスカラ、茲ニ於テハ報道ヲ止メテ置イテ、是ハ決議ヲ致ス時ニ十分ニ質問シマシテ宜シイト思ヒマス、此處デハ少數者ノ意見ヲ報道致シマス

○小松三省君(二百九十九番) 二百九十九番ハ請願委員長トシテカラ、今ノ特別委員會ノ權限ニ就イテ御質問シタイト思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 後トデ 此場合ニ齋藤圭次君

(齋藤圭次君演壇ニ登ル)

○元田肇君(百八十四番) 鳩山君ニ一寸此處デ承ッテ置キマスガ、三月二十二日ニ立ッタル云フノハ二月ト御間違デハナカッタカト云フコトヲ、ツレカラ今一ツハ多數ノ意見トシテ最後ノ決定ガナイト思ヒマス

○鳩山和夫君(二百十番) 一寸漏レマシタカラ正誤ヲ致シテ置キマス、唯今元田君カラ御尋ノ通り三月ト云フノハ二月ノ誤デアッタノデアリマス、ツレカラ委員會ノ意見トシテ御報告ヲスルコトガモウ一ツ漏レテ居リマス、ツレハ假リニ明治五年乃至十一年ノ間ニ於テ井上馨君ガ官吏デアリナガラ商業ヲ營シタト云フコトガ事實デアルトシテモ、之ヲ以テ今日ノ政治問題ト爲スニ足ラズト云フコト、即チ假リニ井上君ガ明治五年乃至十一年ノ頃ニ商業ヲ營シタ者トシテモ、今日ノ井上内務大臣ニ對スル所ノ政治問題トスルニハ足ラナイト云フ所ノ委員會ノ意見デアリマス

○齋藤圭次君(百九十九番) モウ宜シウゴザリマスガ、私ハ少數者ノ意見ヲ報告致シマス、少數者ニ於キマシテハ此本問題ヲバ井上君ガ全ク商業ヲ營シタ者デアルト斷案ヲ下シマシタ、ツレハ段々申シマスルガ、前段ノ石代ガ事及山縣氏ニ對スルコトハ鳩山君ノ申サレタル如ク事實明瞭ニナリマシタガ事、是ハ無論委員會ニ於テノ通りデゴザリマス、ツレカラ鳥尾氏ノ事モ左様デゴザリマス、尤モ鳥尾氏ノ事ハ私ノ委員ヲ設ケテ調査ラセント希望シタル時ニ於テハ問題デハナカッタノデアリ、サリナガラ殘ッテ居ル電報ガ鳥尾君ノ名前デアッタト云フコトカラ、委員會ニ於テ新聞問題ガ顯ハレテ、即チ鳥尾氏ニ就イテモ調査ヲスルコト云フコトニナツタノデゴザリマス、コレダケハ先ヅ委員會ニ於テハ吾ハ一致ヲ致シマシタ、併シ井上氏ニ對シテハドウシテモ委員會ノ說ニ同意ガ出來マセヌノデ、少數者ノ意見ト云フモノハ出シマシタ、第一明治五年即チ井上氏ガ大藏大輔在職中ニ於テ商法ヲ營シタ事實ト云フ事柄ヲ見マスニ、是ハ先刻鳩山君ノ言ハレタル所ノ中野梧一ナル者ノ日記ノ抄録ニ依ツテ之ヲ徵スルコトガ出來マス、ツレハ私ガ過日茲ニ於テ演說ノ時ニモ申上ゲマシタルガ如クニ、既ニ明治四年中ニ於キマシテ山口縣ノ平原平右衛門ト云フ者ニ浪華及山口ノ米六千石ヲ安ク賣ッテ吳レト云フコトヲ巴縣令中野梧一ニ依頼ラシテ、此賣買ヲサセタト云フコトハ明カニナツテ居リマス、勿論是ハ平原ナル者ニ賣レヨト云フコトデアアルガ故ニ、此點カラ見レバ或ハ自分ノ知己デアリ朋友デアルト云フモノニ賣ッタルト云フコトデアリマス、左程其事柄ガ實際違ッタト云フコトニハ影響ガゴザリマスマイガ、免ニ角ニ是ハ既ニ四年ニ於テモ米ノ賣買ニ附イテ井上君ハ關係ヲ有シテ居ルト云フダケニハ認メ得ラル、ノデアリ、續イテ明治五年井上氏ガ大藏大輔ヲ免官ニナリマシタルハ五月デゴザリマスルガ、其翌月ノ中野梧一ノ日記ノ中ニ徵シマスレバ、則チ井上氏ニ豫テ約束ノ二萬三千石ハ南海米ヲ以テ

渡スト云フコトモ書イテアル、即チ辭職シタ翌月デアル、未ダ滿三十日経タル時ニ於テ中野梧一ノ日記ノ中ニ、豫テ約束ノ米ト云フコトガアル以上ハ、其間僅ニ三十日ヲ經ザル間ニ於テ、豫テ約束云々ノ事ガアル以上ハ、井上氏ハ大藏大輔在職中ニ此事ニ手ヲ出シテ居ッタ、商業ヲ營ンダト云フコトハ、是ハ明カニ推測シ得ラレル、又其翌日ノ條ニ杉浦ト云フ者ガ中野縣令ヲ訪フテ米ノ拂下方ガ井上氏ニ偏スルハ穩カナラズ、斷然一般入札ト致スベキ旨懇々論セリト云フコトガ書イテアル、其次ニ頗ル至當デアルガ、今更サウ出来ヌト云フコトガ書イテアル、即チ是モ井上氏ガ辭職ヲシテ滿一箇月ヲ經タヌニ此杉浦ナル者ガ中野縣令ニ向ッテ此議論ヲスルシタナラバ、井上君ガ辭職ヲシテ商法ヲシタ、米ノ商法ヲシタト云フコトダケデ拂下ガ井上ニ偏スルト云フコトヲ言フ答ハナシ、未ダ三十日経タヌニサウ度々偏スルト云フコトヲ言ハレ程ノ事ハ出来ヌ答デアル、然ルニ此議論ガ山口縣ニ起ッタト云フハ既業ニ辭職セザル以前ヨリ米ノ賣買ヲシタト云フコトハ明カニ分ル、故ニ先ヅ第一段ト云フモノハ井上君ガ明治四年大藏大輔在職中ニ於テ其米ノ賣買ヲ爲シタカ否ヤノ點ニ就イテハ吾々少數者ハ此當時井上氏ハ既ニ縣令タル中野梧一ト謀リ米ノ賣買ニ關係シタル者ト認ムト云フ判定ヲ下シマシタノデゴザリマス、ツレカラ第二段ニ明治九年後則チ躬元老院議員トナッテ以來商業ニ從事シタルヤ否ヤノ點ハ是レ亦鳩山氏ノ引證サレタ藤田組ノ契約デアル、此契約ニ依レバ成程井上氏ハ藤田組ノ維持ノタメニ厚意ヲ以テ世話ヲスルト云フコトデアッテ、利益等ノ配達ヲ受クルノ謂ニアラズト云フコトハ、此條約ニ書イテゴザリマス、併ナガラ段々此規約ヲ讀下シマスレバまるデ藤田組ノ家ノ規則ト云フモノヲ立ッテサウシテ萬事萬端井上ノ許可ヲ受ケナケレバ一事モ爲セヌト云フコトニナッテ居ル、而シテ井上氏ハ如何ナル人デアルカ、元老院議員ノ職ニアル人デアレバ、サウ萬事萬端一カラ十マデノ指揮ヲスルト云フコトハ餘程困難デアル、若シモ後見人ト云フガ如キ性質トシテモ、斯様ニ一カラ十マデ元老院議員ガ世話ヲスルト云フコトハ出来ヌ答デアル、普通ノ厚意ト云フコトカラ遣ルト云フ以上ハナカク、サウ手ノ居ケモノデハアルマイト思フ、況ヤ雇人ノ事ニ至ルマデ誰ハ幾ラノ給料、誰ハ幾ラノ月給ト云フガ如ク定メテ全ク藤田家ノ財產藤田家ノ主宰ト云フ者ハ井上氏ノ專有ニ屬スト云フコトニ此規約ト云フモノガ出来テ居ル、故ニ吾々此規約カラ言ヒマスレバ井上氏ハ表面其利益ハ受ケザルト致シマシテモ、此間ノ關係タルヤ誠ニ緻密ニシテ普通ノ之ガ厚意ヲ以テ致ス所ノ規約デナイト云フ一ノ疑點ガ起ルノデアル、而シテ當時ノ事情ヲ考ヘマシタナラバ、中野梧一及井上馨氏ノ如キハ此以前ニ於テ、即チ此藤田組ノ成立以前ニ於テ、大阪ニ先收會社ナル米會社ヲ立ッテ而シテ夫ノ山口ノ石代ヲ安ク買ウテ利益ヲ得テ居ッタ會社ヲ立ッテ居ッタ、ツレハ過日色ノ讀上ゲマシタ中ニ中野梧一ニ宛テ、「利益ハ折半可仕候」ト云フ書狀ヲ發シタ、會社即チ先收會社ナルモノガアッタノデアル、所ガ此會社ヲ仕舞ッテ後トニ藤田組ト云フモノヲ主宰スルト云フコトニナッテ上カラ考ヘ、又此書類ヲ携帶シ居タル所ノ實札事件ニ就イテ糾問ヲ致シタ所ノ時ノ權大警部佐藤志郎ナル者ノ言ニ因ッテ見デモ、中野梧一ハ藤田組ノ株主ノ一人ト云フコトハ明カデアル、而シテ井上氏ノ分ハ其金高ハ明瞭ニナラザルモ、中野ハ二万五千圓入レテ居ルト云フコトハ確ニ是ハ分ッテ居ルト云フコトハ、私共ハ聞イテ居ルノミナラズ、大阪デ

高等官ノ商業ヲ爲スト云フコトハ川路大警視ナル人ガ洋行以前ニ於テ既ニ此事ヲ探知シ、始テ洋行スル當時ニ之ヲ後任者タル安藤中警視ニ書遺シテ往ッタ書類モ吾々ハ此間實物ヲ見タ、此等ノ事實カラ考ヘマシタナラバ、則チ井上ト云フ者ガ藤田組ノ商業ニ陰ニ關係シテ居ッタデアラウト云フコトハ推測スルニ難カラザル話デアッテ、而シテ當時ノ側トシテ官吏ガ商法ヲ行フニ就イテハ表面ハ人ノ名ヲ用ヒ、他人ニ資本ヲ與ヘテ商業ヲシタ例ハ乏シカラザルコトデアル、此間モ委員會ニ於テモ説ガ出マシタガ、既ニサウ云フコトガアル、度々アルコトカラ見レバ、苟モ此顯官——躬元老院議員デアル以上ハ、此人ノ家ヲ主宰スルニ至ッテハ利益ト云フモノヲ受ケルノ故ニアラズト云フコトハ普通書クベキ答デアルト思フ、斯ノ如ク普通ノ腦髓以上ノ知識ヲ持ッテ居ル井上君デアルナレバ——躬元老院ノ職ニアルト云フコトヲ考ヘマシタナレバ、此利益ヲ受ケナイ者デアルト云フコトヲ契約書ニ書クノガ普通ニ考フベキ答デアル、故ニ此意味ハ世間ニ對シテ躬元老院議員デアルト云フ事柄ヲ自ラ考ヘテ利益ヲ受ケハセヌト云フ言ヲ以テ指揮シテ、其實ハ陰ニ商業ヲ營ンダ者デアルト云フコトヲ私ハ斷定スルヲ憚カラヌノデアル、ノミナラズツレト附帶ヲ致シテ則チ此藤田組ノ接待簿ナルモノハ鳩山君ノ言フガ如クニ四十圓以上ノモノカラ三十圓位マデハ成程アリマスケレドモ、ツレハ小使等ノ者ニ與ヘタモノデアッテ重モニ吾々ガ言フヲ憚ルシニ向ッテ少クモ十圓以上ノ品物若クハ三十圓四十圓ノ品物ヲ贈ッテ居ル、而シテ贈ッテ時期ハ豈ニ獨リ節季ノミナラズ、即チ盆暮バカリデハナシ、即チ九月若クハ八月ト云フ月ニモアルト思フテ居ル、斯ノ如キモノヲ藤田組ガ行ッタト云フ事柄ハ井上君ガ知ラザルヤ否ヤト云フモノニ、苟モ井上君ニシテ藤田組ノコトヲ萬事萬端主宰スルト云フ事柄ヲ持ッテ居ル以上ハ、此行方ハ井上君モ探知シタモノデアルト云フコトヲ是又斷定スルニ憚ラヌノデアル、引續イテ又京都ノ木屋町ノ家則チ鳩山君ノ言ハレタ家及土地ヲ買入レタ如キモ一小社ノ藤田組ガ買フコトガ出来ナイノヲ、井上君ガ工部卿デアルト云フコトノ威勢ヲ持ッテ居タレバコソ知事——京都府知事ガ戸長等ニ命ジテ周旋ヲサセテ家ヲ買ッタ事柄ノ如キ、其家ハ藤田組カラ金ヲ以テ立換ヘテ、井上君ノ名前ヲ出シテ置テ、遂ニ京都府廳ノ勸業局ノ金ヲ以テ立換ヘテ、井上君ノ名前ヲ出シテ置テヤウナ事柄ガ顯ハレテ居ルヤウナ上カラ見レバ、即チ井上君ハ自分ノ權勢ヲ藉ッテ而シテ藤田組ニ此等ノ土地、此等ノ家屋ヲ買ハシムル所ノ手立ヲシタモノデアアル、即チ藤田組ノ隆盛ヲ圖ルニ就イテ井上君ガ關係スルコトガアルガ故ニ、井上君ハ參議ノ職ニアリナガラ斯様ナコトヲシタモノデアッタ斷定ヲ作ルニ憚ラヌノデアル、故ニ以上申上ゲマシタモノハ極ク大要ノコトデゴザリマスガ、先ヅ斯ノ如キ有様デアッテ而シテ尙鳩山君ノ申サレタ所ノ洋行中ノ書面ニ即チ精算勘定ハ——藤田組ノ精算勘定ヲ送ラレテ誠ニ有難イ、吾ハ實ニ死スマデモ勉強シテ飽マデモ盡力スル積リデアルト云フガ如キ意味ヲ顯ハシテアル、以上カラ見マスレバ自分ノ利害得失ニ關係シタモノガアルカラ斯ノ如キ精神ヲ凝ラシテ意味ヲ含ンダ書面ガ出来タラウト吾々ハ思フノデアアル、即チ斯ノ如キコトガ鳩山君ノ引カレタ例證デゴザリマスガ、吾モソレト同一ニ引キマシテ申上ゲタ譯デ、是等ノ事柄ニ就イテ鳩山氏ガ證據物ガ信ジラレヌト云フ御報告カラ、又サウ云フ御報告ニナリマシタガ、吾モハ證據物ヲ信ズル者デゴザリマス、何故トナレバ此前後相對照致シマシテ

總テ信用ヲスルニ足ルト云フ事柄ハ既ニ此本書デナイ、寫デアルト云フ書面
ノ中ニ就キマシテモ電報ノ如キ陸軍ノ政府委員ニ開合シテ見レバ、陸軍ニモ
ソレダケノ電報ガアルト云フ事柄ガアル、又吾ミト意見ヲ異ニスル元田君ノ
如キモ藤田組ノ契約ニ就イテハ實印ガ押シテアル——井上君ノ實印ガアル、
是等ハ決シテ嘘デアルマイト言ハル、位ノ有様デアル、斯ノ如キ事柄デ見マ
シタナラバ、此中ノ或ル部分ハ信ゼヌ、或ル部分ハ信ズルト云フガ如キハ誠
ニ吾ミハ困難ナ譯デアツテ、殊ニ中野梧一ガ日記ノ如キハ紙ノ質ガ變テ居
リマス、其當時ノ山口縣ノ事情、山口縣ノ景況ヲ寫シ得テ十分餘ス所ナキ事
柄ヲ書イテアルモノト見マシタナラバ、私共ハ誰カ之ヲ他日構造シタモノ
デアルトハ思ハナイノデアアル、則チ前後種々ノ書類ヲ引較ベ、其當時ノ有様
ニ較ベテ中野梧一ノ日記抄録ガ誠ニ事情ニ適當シテ居ルモノトスレバ、何ゾ
紙ノ質ガ違フテ居ルト云フコトヲ以テ之ヲ排撃スルニ足ラヌ、而シテ若シ出
シタ者ガ別ノモノデアルトスレバ尙更ノコトデアアルガ、即チ佐藤志郎如キ者
等ガ是ヲ綴ツテ持ツテ來タモノデアレバ、之ヲ一部分ハ信用シ、一部分ハ信
用セヌト云フコトハ君ミハ致サヌノデアアル、即チ是ハ事實デアアル、私ハ認メ
テ眞實デアルト認メマスガ故ニ、此證據物ハ信用スル、即チツレ等ノ斷定ヨ
リ明治九年後井上君ハ躬顯要ノ地位ニアリテ藤田組ニ關係シ陰ニ商業ヲナ
シ高官ニ賄賂ヲ贈リシコトヲ探知シタルモノト認メ、斯ノ如ク認定スルヲ以
テ井上君ノ行爲ヲ不當トス、斯ウ云フ斷定シタ次第デゴザリマス、而シテ
尙ホ之ニ就イテ細カイコトハ他日討論ノアリマス時ニ又辯明ヲ致ス考デゴザ
リマス

〔政府委員内務次官松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松岡康毅君) 諸君、唯今特別調査委員カラ報告ニナリマシタ事
件ハ何レ他日當院ノ會議ニナリマセウガ、其會議ニ先チマシテ唯今ノ報告ヲ
承ツタ所ニ對シテ一言申述ベテ置キマス、デ此事ハ今報告ノ通り本題ハ山口
縣周防國佐波郡佐波村金子辰次郎外十四名明治六七八三箇年ノ地租引當米過
剩金下戻ノ事柄ヲ政府ニ要求スル請願デゴザリマス、諸君ニ此六年七年八年
ト云フ年數ノコトハ能ク御記憶ヲ請ヒタイノデゴザリマス普通ノ手續デ申
シマスレバ請願ナラバ請願委員ニ於テ採擇スベキモノト云フ以上ハ、議場ニ
報告シ議場ニ異議ガナケレバ政府ニ其儘送付ニナルベキモノデゴザリマス、
處ガ不思議ニツレヨリ齋藤圭次君ノ緊急動議ニ依ツテ政治上ノ問題ニ大關係
ガアルト云フコトノ動議デ、ツレヨリ特別委員ヲ設ケラレテ今日ノ報告ヲ承
ル次第デアアルスルガ、第一申述ベマスルノハ齋藤君ノ此緊急動議ヲ起シ
タ所ノ目的ハ忍ラク請願ノ趣旨ノ外ニ出デタルモノデアラウト思ハレマス、
ナゼナレバ今申ス通り請願者ノ目的ト云フモノハ縱令請願者ノ自己ノ意見
カラ出タレバモセヨ、或ハ世ノ中ノ無賴徒ノ煽動教唆ニ依ツテ起ツタモノモ
其邊ノコトハ敢テ問フ所デモ七九年八年ノ間ニハ人民ニ割戻スベキ許多ノ
金額ノアルノヲ割戻サナイデ其儘ニ居ル、其金下ダテ貴ヒタイト云
フ、過剩金下戻シテ貴ヒタイト云フ請求ノ一點ヨリ外ニハナイノデアアリマ
ス、然ルニ此動議ノ發議者ハドウ云フ次第デアアルカ、殆ド何等ノ關係モナ
イ、人身攻撃又ハ已ニ既往ニ屬シテ人ノ記憶ニモ殆ド絶エテ居ル犯罪ノ嫌疑
デス——嫌疑ニ關スル事項ヲ拾集メテ、ツレヲ合シテ來テ殊更ニ政治上ノ問

題ダト大ニ主張セラレタルコトデアリマスルガ、然ルニ其主張スル所ノ事柄
ニ就イテ甚ダ確實ナル證據ガアルト云フヤウナ提出者ノ演說デモゴザイマ
シタ、然ルニ勿論裁判上ノ調ノヤウニ證據調ヲ互ニスベキ筈ノモノデモアリ
マス、然レドモ確實ナル證據ガアル、大變ニ政治上ニ關係ノアルト言ハレ
ル所ノ其證據ト云フモノハ、蓋シ大率ノ所想像カ、訛傳カ、然ラザレバ捏造
物デアアル(のーく)「政府委員ハ何ヲ言ツテ居ルカ」ト呼フ者アリ「ソレ位ノ
(河島醇君)何ヲ言ツテ居ルカ政府委員ハ弄花事件ノコトデモ述ベルノカ」
ト呼フ(追ヒ分リマス、其說ト云フモノハ隱微ノ些末ノ事ニマデ涉ツテ居ル
(議論ヲスルナラ討論ノ時ニセヨ)ト呼フ者アリ)折田兼至君「討論ヲスルハ
無用ダ」ト呼フ「ソレヲ今一々多クノ枝ニ涉ツタコトハ辯駁スル必要モナシ、
政治ニ關係シタコトデモナシ、スルカラ、兎モ角モ此請願ノ主トナツテ居ル、引
當米ノ成立チ協同會社トナツテ居ル其點ヲ明瞭ニシタナラバ、發議者ガ主張
シタ事柄ト云フモノハ事實ヲ失ツテ政治上ノ問題ニモ何ニモナラヌト云フコ
トハ自ラ分ルニ至ルデアラウト信ズルノデアアル(折田兼至君)議長ハ討論ヲ許
シテ居ルノデスカ」ト呼フ然ルニ其請願ノ主タル請願書ト云フモノ、採擇
……(折田兼至君)獨リ政府委員ニモ討論ヲ許スト云フ筈ハナイ」ト呼フ既
ニ調査委員ノ多數ニ於キマシテモ此請願ト云フモノハ遂ニ採擇スベキモノデ
ナイト云フコトハ殆ド全會一致決セラレタヤウナコトデアリマス(討論ヲ
スル勿レ)ト呼フ者アリ又「貴重ノ時間ヲ費ス勿レ」ト呼フ者アリシテ見ル
ト引當米ト云フモノガ政府ガ金ヲ預リ置イテ其金ト云フモノヲ人民ニ還サ
ズ、行キ端ノ知レナイヤウニナツタ、ツレガ根原トナツテ今日ノ内務大臣其
節ノ大藏大臣カラ後ノ議官デアツタト言ハレル所ノ人達ノ商賈ヲシタ賄賂ヲ
使ツタナンノト云フコトガ根原ニナツテ皆關聯シテ居ルト言ハレタ所ノ其引
當米ノ行道モ始末モ鮮カニ分ツテ見ルト、關聯シテ居ルト折角言ハレタモノ
モ關聯シテハ居ラナイト云フコトニナルノデアリマス、其事柄ヲ先ヅ第一ニ
明瞭ニスルコトガ要用デアラウト思ヒマス、山口縣廳ハ明治六年ニモ七年ニ
モ八年ニモ唯ノ一度モ人民ノ引當米ト云フモノヲ預ツタト云フコトモナケレ
バ固ヨリ賣拂フ筈ガナイ、縣廳ガ發議者ノ言ハル、如ク委託販賣ヲナシタ
ト云フ(志波三九郎君)「今ノ政府委員ノ說明ハ無用ト思ヒマス請願ノコトデ
ハナイ」ト呼フ如何トナレバ(山田東次君)松岡サンニ問ヒマスガ、ツレハ否
決シテ居ルノデ、あなタハ誰ニ對シテ何ヲ述ベルノデスカ」ト呼フ追ヒ分リ
マス……

○議長(楠本正隆君) 政府委員ニ申スガ、議院法四十二條ニ依ツテ發言ノ請
求ガアレバ、發言ヲ許サヌ譯ニハイカニ依ツテ、議長ハ發言ヲ許シマシ
タ、許シタ以上ハ發言ヲ御停メ申ス譯デハナイガ、先刻議場ニモ注意シタ通
リ、質問モ止メテ討論ノ時ニ方リテ十分ノ質問ヲ許スト云フコトヲ宣告シマ
シタカラ、政府委員ハ宜シク此德義ヲ保タレンコトヲ注意ヲ致シマス

○政府委員(松岡康毅君) 宜シウゴザイマス

(止メ給ヘ止メ給ヘ)ト呼フ者アリ

(中村彌六君)政府委員ハ德義ヲ守ラナイカト呼フ

○政府委員(松岡康毅君) 然ラバ……(安田倫逸君)一寸政府委員ニ御尋申シ
マスガ、ドウ云フ御趣意デ何ヲ仰シヤルノデス」ト呼フ「ソコデ委託販賣ナド
ト云フコトハ痕跡ノナイコトデアリマス(あなタハ井上君ノ御辯護ヲナサル

ノデスカ」ト呼フ者アリ又「何ノ議論ヲナサル」ト呼フ者アリ。追々分リマス

○議長(楠本正隆君) 強テ拒絕スル譯ニハイキマセヌガ、四十二條ニ依ッテ發言サレハ御停メ申シハセヌガ、議場ノ整理ニ於テ困リマスカラ、是ハ互ニ德義ヲ守ルト云フコトハ社會ノ上ニ互ニナクテナラヌモノデアルカラ

○井上君ノ身上ニ就イテナラバ討論ヲ開イタ時ナサレバ宜カラウ」ト呼フ者アリ

○吉本榮吉君(井上一己人ニ對シテ何モ辯護ハイリマスマイ)ト呼フ

○政府委員(松岡康毅君) 是ハ其請願ノ……

○中村彌六君(九十七番) 議長——今政府委員ハ何ヲ言ッテ居ルノデスカ

○政府委員(松岡康毅君) 政府委員ハ許可ヲ得テ居ルカラ申シテ居ル

○中村彌六君(九十七番) 政府委員ニ聞キハシナイ、議長ニ聞クノダ、だまッテ御座レ

○政府委員(松岡康毅君) 妨害ヲナサラヌヤウニナサイ

○中村彌六君(九十七番) 譯ノ分ラヌ者ガ其處ニ出テ居ル筈ガナイ、議長——ドウ云フ譯デ其處ニ出テ居ルカ

○議長(楠本正隆君) 松岡君ニ申シマスガ、サウ云フ譯デアリマスカラ德義ヲ保タレテ、更メテ討論ノ時ニ述ベラレルヤウニ、ソコロ一ツ御考ヲ乞ヒ

○政府委員(松岡康毅君) 宜シイ

○内務大臣臨時代理司法大臣(芳川顯正君) 議長——議長

○議長(楠本正隆君) 今談判中デス

○内務大臣臨時代理司法大臣(芳川顯正君) 政府委員——ヤリ給ヘ

○議長(楠本正隆君) 宜シイト呼フ者アリ又「議長——退場ヲ命ズベシ」ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 神鞭知常君

○議長(神鞭知常君演壇ニ登ル)

○議長(神鞭知常君演壇ニ登ル)

○議長(神鞭知常君演壇ニ登ル)

此議場ハ大臣ヲ責メルノ權利ハナイ

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

○議長(楠本正隆君) 靜ニナサイ靜ニ……

本員ハ此處ニ於テ報告ヲ致シタラバ、日程ノ變更デモ請フテ急ニ是ハ議決ヲ仰ギタイト思フコトアリマスガ、協議會ノ——協議會ノ經過ハ昨日午前十時過ヨリ始メマシテ、或ル修正ノ發議ガアリマシタレドモ、文章等ノ精鍊ヲ考ヘマスルタメニ一時半ニ休憩ヲ致シテ、本日午前九時三十分再ビ開會ヲ致シマシテ、則チ御手許ニ廻ッテアル通りニ結了致シタノデゴザイマス、此案タル最早細ニ辯明セズトモ諸君ハ一覽ヲシテ能ク御分リニナル案デアリマス、要スル所ハ行政處分ニ於テ新聞紙ヲ停止致シマスルコトヲ止メテ、司法裁判ヲ仰ガシムルコトニ致シマシテ、則チ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ科シマスルコトニナル、アトハ之ヲ取扱フ上ノ手續ニ於テ成ルベク不都合ナカラシメンコトヲ期シテ斯ノ如クナツタモノデゴザイマス、之ニ就イテハ一々細釋ヲ要セヌト考ヘマスカラ、ドウカ速ニ御決シニナルコトヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 一寸御待ナサイ、あまたハマダ許サヌ
(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

ニ明白ナリト考ヘル、故ニ將來ニ於テモ本大臣ガ申ス通りニ御了解ニナレバ間違ナシ

○中村彌六君(九十七番) 井上大臣ニ質問ガアリマス、九十七番ガ質問ガアリマス

○山田東次君(二百六十八番) 井上大臣ハ何ヲ言フカ——何ヲ言フ

○文部大臣(井上毅君) 何デモ言フ權利ガアル

○中村彌六君(九十七番) 井上文部大臣ニ質問ガアリマス、政府委員ガ演壇ノ上ニ登ッテ居ル人ニ向ッテ指圖ヲスルト云フコトガ何處ニ極メテアル、斯ノ如キ無法ノ條項ガ何處ニアル

○文部大臣(井上毅君) 本大臣ハ其事ニ就イテ申述ベナイ、其事ニ就イテノ質問ハ本大臣ハ承ル答ハナイ

○中村彌六君(九十七番) 現ニ内務大臣ハ指圖ガマシイコトヲ言フタノデア

○文部大臣(井上毅君) 其事ニ就イテハ關係ガ違フノデア

○中村彌六君(九十七番) 答ヘ能ハザルナラバツレデ宜シ

○折田兼至君(五十五番) 政府委員ニ御尋致シマス、政府委員ハ憲法竝ニ議院ヲ引イテ來テ井上文部大臣ノ言ハレルニハ、政府委員ハ何時デモ出席シテ發言スルコトヲ得タル、故ニ差支ナイト言ハレタ、而シテ此憲法竝ニ議院法ニアル所ノ何時タリトモ出席及發言スルコトヲ得タルノハ、井上文部大臣ハ議長ノ許可ヲ得ナクテモ差支ナイト云フ御解釋デアアルヤ否ヤト云フコトヲ御尋スルデアアル、議場ガ整理スル者ハ議長デアアル、縱令國務大臣デアラウガ、政府委員デアアラウガ、議員デアアラウガ、議院内ニ於テハ議長ノ許可ヲ受ケナケレバナラヌ、議長ノ指揮ニ從ハナケレバナラヌ答ノモノデアアル、然レニ井上文部大臣ハ政府委員ハ議長ノ指揮ニ從ハズ、議長ノ許可ヲ得ズトモ發言スルコトヲ得タルト云フ御解釋デアリマスルカ

○文部大臣(井上毅君) 本大臣ハ正當ニ議長ノ許可ヲ得テ發議シタ、先刻松岡政府委員ノ演説ヲ議長ガ差止メラシナイ、法律ノ明文ニ依ッテ差止メラシナイ、差止メル權利ハナイト云フコトヲ認メラレタ、而シテ德義上云々ト云フ注意ヲ與ヘラレタト云フコトハ、本大臣ハ議長ノ處置ヲ至當ナリト認メテ居ル(速記録ニ殘ルガ宜イカ)ト呼フ者アリ(今一ツ言フコトガアル——諸君、大キナ誤解ガアル、政府委員ヲ引出ス退場ヲ命ズル(命ニ從ハナイカラダ)ト呼フ者アリ)内閣大臣政府委員ハ憲法ニ依ッテ此席ヲ與ヘラレテ居ル、諸君ノ命令ニ依ッテ進退スルコトハ出來ナイ、現在モ此ノ如シ、將來モ其通り、御心得ナサイ

○中村彌六君(九十七番) 法律ニ依ッテツレダケノ權利ハ與ヘラレテ居リマセウガ、秩序ヲ紊シテモ構ハヌト云フノデアアルカ

(大養毅君「靜ニ質問シ給ヘ此人ハ餘程逆上シテ居ルカラドンナコトヲ言フカモ知レナイ」ト呼フ)

○志波三九郎君(百五十三番) 文部大臣ハ茲ニ出ラレテ辯解サレルハ何ノ必要ガアリマスカ、其處ヲ御尋ヲスル、其事ハ抑々曩ニ政府委員ノ演説ハ議長ト話シ合ノ上デ止メルト云フコトガ出來タデアリマセウ、其際ニ内務大臣ガやれ(ト云フ言葉ヲ出シテ此閣著ヲ喚起シタノデアアル、此問題ニ文部大臣ノ演説ハ何ノ效用ガアツテ言ハレルノデアリマスカ、議長ノ許可ヲ得テ文

部大臣(井上毅君) 本大臣ハ正當ニ議長ノ許可ヲ得テ發議シタ、先刻松岡政府委員ノ演説ヲ議長ガ差止メラシナイ、法律ノ明文ニ依ッテ差止メラシナイ、差止メル權利ハナイト云フコトヲ認メラレタ、而シテ德義上云々ト云フ注意ヲ與ヘラレタト云フコトハ、本大臣ハ議長ノ處置ヲ至當ナリト認メテ居ル(速記録ニ殘ルガ宜イカ)ト呼フ者アリ(今一ツ言フコトガアル——諸君、大キナ誤解ガアル、政府委員ヲ引出ス退場ヲ命ズル(命ニ從ハナイカラダ)ト呼フ者アリ)内閣大臣政府委員ハ憲法ニ依ッテ此席ヲ與ヘラレテ居ル、諸君ノ命令ニ依ッテ進退スルコトハ出來ナイ、現在モ此ノ如シ、將來モ其通り、御心得ナサイ

○中村彌六君(九十七番) 法律ニ依ッテツレダケノ權利ハ與ヘラレテ居リマセウガ、秩序ヲ紊シテモ構ハヌト云フノデアアルカ

(大養毅君「靜ニ質問シ給ヘ此人ハ餘程逆上シテ居ルカラドンナコトヲ言フカモ知レナイ」ト呼フ)

○志波三九郎君(百五十三番) 文部大臣ハ茲ニ出ラレテ辯解サレルハ何ノ必要ガアリマスカ、其處ヲ御尋ヲスル、其事ハ抑々曩ニ政府委員ノ演説ハ議長ト話シ合ノ上デ止メルト云フコトガ出來タデアリマセウ、其際ニ内務大臣ガやれ(ト云フ言葉ヲ出シテ此閣著ヲ喚起シタノデアアル、此問題ニ文部大臣ノ演説ハ何ノ效用ガアツテ言ハレルノデアリマスカ、議長ノ許可ヲ得テ文

部大臣(井上毅君) 本大臣ハ正當ニ議長ノ許可ヲ得テ發議シタ、先刻松岡政府委員ノ演説ヲ議長ガ差止メラシナイ、法律ノ明文ニ依ッテ差止メラシナイ、差止メル權利ハナイト云フコトヲ認メラレタ、而シテ德義上云々ト云フ注意ヲ與ヘラレタト云フコトハ、本大臣ハ議長ノ處置ヲ至當ナリト認メテ居ル(速記録ニ殘ルガ宜イカ)ト呼フ者アリ(今一ツ言フコトガアル——諸君、大キナ誤解ガアル、政府委員ヲ引出ス退場ヲ命ズル(命ニ從ハナイカラダ)ト呼フ者アリ)内閣大臣政府委員ハ憲法ニ依ッテ此席ヲ與ヘラレテ居ル、諸君ノ命令ニ依ッテ進退スルコトハ出來ナイ、現在モ此ノ如シ、將來モ其通り、御心得ナサイ

○中村彌六君(九十七番) 法律ニ依ッテツレダケノ權利ハ與ヘラレテ居リマセウガ、秩序ヲ紊シテモ構ハヌト云フノデアアルカ

(大養毅君「靜ニ質問シ給ヘ此人ハ餘程逆上シテ居ルカラドンナコトヲ言フカモ知レナイ」ト呼フ)

○志波三九郎君(百五十三番) 文部大臣ハ茲ニ出ラレテ辯解サレルハ何ノ必要ガアリマスカ、其處ヲ御尋ヲスル、其事ハ抑々曩ニ政府委員ノ演説ハ議長ト話シ合ノ上デ止メルト云フコトガ出來タデアリマセウ、其際ニ内務大臣ガやれ(ト云フ言葉ヲ出シテ此閣著ヲ喚起シタノデアアル、此問題ニ文部大臣ノ演説ハ何ノ效用ガアツテ言ハレルノデアリマスカ、議長ノ許可ヲ得テ文

部大臣(井上毅君) 本大臣ハ正當ニ議長ノ許可ヲ得テ發議シタ、先刻松岡政府委員ノ演説ヲ議長ガ差止メラシナイ、法律ノ明文ニ依ッテ差止メラシナイ、差止メル權利ハナイト云フコトヲ認メラレタ、而シテ德義上云々ト云フ注意ヲ與ヘラレタト云フコトハ、本大臣ハ議長ノ處置ヲ至當ナリト認メテ居ル(速記録ニ殘ルガ宜イカ)ト呼フ者アリ(今一ツ言フコトガアル——諸君、大キナ誤解ガアル、政府委員ヲ引出ス退場ヲ命ズル(命ニ從ハナイカラダ)ト呼フ者アリ)内閣大臣政府委員ハ憲法ニ依ッテ此席ヲ與ヘラレテ居ル、諸君ノ命令ニ依ッテ進退スルコトハ出來ナイ、現在モ此ノ如シ、將來モ其通り、御心得ナサイ

部大臣が言ハレタ所ノ精神ヨリ此騒ヲ起シタモノデアリマセヌ

○文部大臣(井上毅君) 其事ハ甚ダ明白デアアル、本大臣ノ辯解ヲ俟タヌ、何

トナレバ議長ハ松岡委員ニ命ジテ曰ク、差止ハシナイ、併シ德義上注意ヲ與

ヘルト云フタ、此場合ニ於テ松岡ガ演説ヲ續ケルト續ケザルトハ松岡ノ意中

ニアルコトヲ議長ハ差止ハシナイ、則チ速記録ニ明カデアアル、故ニ芳川ハや

れやれト松岡ニ注意シテ續ケルト云フタノデ、決シテ議長ニ干渉シタノデナ

○志波三九郎君(百五十三番) 然ラバ今何故ニサウ云フ演説ヲスル、何ノ效

用モナイ

(發言ヲ求ムル者多ク議場騒然タリ)

○議長(楠本正隆君) 數人デハイカヌ、百九十八番

○蒲生仙君(百九十八番) 唯今御説明中ニ芳川大臣ガ松岡委員ニ注意シタト

云フコトヲ言ハレマシタガ、其事ガ吾ハ甚ダ惡ルイト云フノデアアル、如何

トナレバ議場ヲ整理スルハ獨リ議長ニアルノデアアル、然ルニ芳川大臣ハ何故

ニ内務次官ニ向ッテ斯ノ如キ注意ヲ議長ヲ經ズシテ與ヘタト云フコトヲ答メ

ルノデアアル、外ニ何モツカハコトヲ申スノデアハナイ

(栗屋品三君) 自分ノ次官ニ言ヒ付ケルニ構フカイト呼フ

○文部大臣(井上毅君) 其問題モ明カナ問題デアアル、モウ一遍御聽ヲ願ヒタ

イ、故ニ芳川大臣ハ議長ノ命令ヲ拒マズニ則チ秩序ヲ守ツタノデアアル

○厚地政敏君(二十八番) 唯今井上大臣ノ答辯ニ依ッテモウ一つ問ハナケレ

バナラヌコトガアリマス、則チ松岡君ハ此辯明ヲシテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

長ノ注意ニ依ッテ退クニ當ツテ、然ラバ德義ヲ守ツテ退クニ當ツテ、議

フ質問ガアツタ、此事ハ兩段ニ別タナケレバナラナイ、議長固ヨリ注意ヲ與

フル權ガアル、併ナガラ内閣大臣ヲ懲戒スルノ權ハ決シテナイ

(發言ヲ求ムル者多ク議場騒然タリ)

○議長(楠本正隆君) 長谷川泰君

(長谷川泰君演壇ニ登ル)

(星亨君) 僕ニ言ハシテ呉レ給ヘ、是ハ極メテ置カナケレバナラナイ、政

府ト此議會トノ例ニナルコトデアリマスカラ、極メテ置キタイト考ヘ

ルカラ、願ハクハ許サレタイト考ヘル、決シテ文部大臣ガ言フ如キ例

ハナイト呼フ

(此時「星君ニヤラシ給ヘ」ト呼フ者多シ)

○議長(楠本正隆君) 四十八番——長谷川君著席

(長谷川泰君演壇ヲ降ル)

○星亨君(四十八番) 一寸諸君、私ハ發言ノ許ヲ得マシタ

(演壇々々ト呼フ者アリ)

(星亨君演壇ニ登ル)

○星亨君(四十八番) 私ハ先ヅ始テ是カラ饒舌ルノデゴザリマスカラ饒舌

ルコトハ下手カモ知レマセヌ、ケレドモ精神ニ於テハ諸君ノ贊成ヲ得ルコト

ト考ヘルノデアアル、今政府ト此議會ト權限上ノ爭ガ起ツテ居ルト考ヘルノデ

アル、故ニ此事ハ能ク極メテ置カナケレバナラヌコトデアラウト考ヘル、決

シテ輕々ニ付スベキモノデナイ、則チ政府ノ一人ノ人間ガ言フニモ輕々ニ付

スベキモノデナイト云フコトヲ言フテ居ルノデアアル、ソレデ文部大臣ノ議論

ハ政府ハ何時デモ發言ハ出來ル、成程ハ分ツテ居ル、何時デモ出來ルニハ

違ヒナイ、併ナガラ何時デモ出來ルト云フ中ニ斯ウ云フコトヲ言フテ居ルノ

デアアル、甲ノ問題ヲ論ジテ居ル間ニ於テ、乙ノ問題ノコトヲ話シテ出來ル

ノデアアルト云フコトハ、決シテ是ハ出來ナイト議院ハ極メナケレバナラヌト

私ハ考ヘル、斯ウ云フ様ナ無法ノ解釋ヲスルコトハ決シテ議院ハ許サナイト

言ハナケレバナラヌノデアアル(拍手起ル)若シサウデアッタナラバ議員ガ饒舌

席ニ登ツタト同シモノニシテ、治外法權ノ席ニ居ルモノナリト云フコトハ決シテ出來ナイモノト思フノデアル、故ニ——故ニ若シ政府ニ於テ此演壇ニ登ラントスルトキニ方テハ、議長ノ許可ヲ得ナケレバナラヌト云フコトモ亦出テ來ナケレバナラヌノデアル、勝手氣儘ニ出テ來ルコトハ決シテ出來ナイノデアル、又政府ニ於テ此演壇ニ於テ不都合ナルコトヲ致シタナラバ、則チ此演壇ヨリ退場セシムルコト、云フコトハ議長ノナリ、則チ議長ノ權ナリ議長ノ權内ナリト言ハナケレバナラヌト私ハ考ヘル、是ヲ問違ヘテ彼處ノ席ハ(此時星亨君國務大臣及政府委員ノ席ヲ指ス)則チ治外法權デアル、議長ノ權利ノ及バヌ所デアルト云フノヲツレヲ持出シテ、此處マデモ尙ホ此演壇マデモ議長ノ權ノ及バヌモノナリト云フコトハ大間違ノコト、言ハナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアル、斯ウ云フコトハ將來ノ例ニナリマスカラシテ則チ文部大臣ノ今マデ言ツタコトハ總て間違ナリ、則チ甲ノ議論ヲシテ居ル所デ乙ノ議論ヲスルト云フコトハ出來ナイ、又演壇ニ登ツタ以上ハ是ハ則チ總テノ議院ノ法律ニ從ヒ、議院ノ慣例ニ從ハナケレバナラヌ、則チ議長ノ命令ニ從ハナカッタナラバ、此席ヨリ逐出スト云フコトハ相當ナリト考ヘマスカラシテ、諸君ニ於テ御不同意デナカッタナラバ、私ノ今述べタ所ヲ以テ此院將來ノ規則トナサルコトガ相當ト私ハ考ヘルノデゴザイマス(拍手起ル)

○議長(楠本正隆君) 諸君

○文部大臣(井上毅君) 答辯ヲスル必要ガアルニ依ツテ、登壇ヲ許サレタイノ議長(楠本正隆君) 今宣告中デアル、此席ハ則チ兒玉君ガ此席ニ於テ議長ノ許可ヲ受ケテ進ミ出テニ就イテ議長ハ之ヲ退ケタ、此場所ハツレヨリ松岡君ハ先刻述べタル通り德義上自ラ願ミセシメテ席ニ復セシメマシタ、サウ云フ譯ニナツテ居リマス、ソコデ唯今茲ニ一ツ注意ヲスルコトガゴザイマスガ、決議ヲスルト云フコトニナルトキニハ議事日程ヲ變更セシメレバナラヌ、話ト致シテ——話ト致シテ諸君ガ腦裏判定下シテ置カレルト云フコトデ止メルヲ相當ト考ヘマス——文部大臣井上毅君

(文部大臣井上毅君演壇ニ登ル)

○文部大臣(井上毅君) 再び相當ノ許可ヲ得テ演壇ニ登リマシタ(笑聲起ル)「其通ニ從ヘバ宜イ」ト呼フ者アリ(御互ニ何モ法律學ノ研究見タ様ナ事ヲスル必要ハナイケレドモ、止ムヲ得ズ本大臣ハ再應繰返スト云フノハ、内閣ノ憲法上ノ權利ニ關係スル故デアル、星君ノ云ハレタ所ノ要領ハ二段デアル先ヅ後ノ段ヨリ申サウ、星君ノ此政府委員ノ席ハ則チ治外法權デアル、併シ演壇ニ於ケルノ議長ノ許可ニ依ラナケレバナラヌト云フタハ則チ本大臣モ認ムル所ノモノデアル、本大臣モ是認スル所ノコトデアル、併シ先刻本大臣ノ演說スル時ニハ則チ此席ニ居ツテわざ／＼手ヲ以テアノ(此時井上文部大臣ハ國務大臣席ヲ指シ)席ヲ指シテ居ル、星君ハ其位置ガ違フテ居ル故ニ、此本大臣ガ指シタ所ノ其態度ガ見エナカッタデアラウ、或ハ目鏡ヲ懸ケテ居ラレル故ニ近視眼カ知ラヌガ、見エナカッタカモ知レヌト思フ、本大臣ハ明カニ彼ノ席ヲ指シテ居ル、ソコデ此問題ハ共ニ爭フ必要ハナイ、溯ツテ(モウ宜シイシヤナイカ)ト呼フ者アリ)今一ツ甲ト乙トノ問題デアル、是ハ星君ノ申サル所ガ違フテ居ル、勿論本大臣モ則チ議院法ニアル通り他人ノ演說ヲ中止スル權利ハ内閣員ニモ之ナシト云フコトハ是認シテ居ル、今議員ノ演說中ニ内閣大臣ガ飛出シテ演說スルト云フコトハ出來ナイ、ソレ故ニ先刻神鞭君ノ登壇ノ際ニハ本大臣發言ヲ求メタリト雖モ敢テ神鞭君ヲ押除ケテ演說ハシナ

カッタノデアル、斯ノ如ク秩序ヲ守ツテ居ル、併ナガラ問題ノ外ノコトハ内閣タリトモ臨時演說スルコトガナラナイト云フコトハ大變背イテ居ル、違フテ居ル、其證據ハ則チ斯ノ如シ(此時發言スル者アリ)證據ヲ御聽ナサイ、此問題ト云フモノハ日々議事日程ニ依ツテ極マルモノデアル、議事日程ニ於テ極マルモノデアルニ拘ラズ(臨時ハ別デアル)ト呼フ者アリ)内閣大臣ハ何時デモ或ハ政治上ノ大體ナリ、或ハ臨時必要ナル演說ヲスルシヤアリマセヌカ(臨時ハ別ダ)ト呼フ者アリ)假令政治上ノ方針ト雖モ其日ノ日程ヨリ見レバ事ニ大小ノ差コソアレ、問題ノ外デアル、然ルニ政府ハ何時タリトモ演說スルデハアリマセヌカ、則チ議院法ノ所スル所デアル、故ニ決シテ内閣大臣ハ問題ノ甲乙ニ拘ハル答ノモノデハナイ、唯他人ノ演說ヲ中止スルコトハ出來ナイ、此二ツノ間ニ星君ハ混雜ノ考ヲ起サレタモノト見エル——惜イカナ星君ハ混雜シテ考ヘラレタト見エル、故ニ内閣大臣ハ何時タリトモ何等ノ事モ演說スル、現在斯ノ如シ、未來永遠此通りデアル

○議長(楠本正隆君) 長谷川泰君

(長谷川泰君演壇ニ登ル)

○長谷川泰君(二百十七番) 諸君、本員ハ茲ニ一ノ質問ノ梗概ヲ述ベマスルデゴザイマスルガ、甚ダ緊要ナル時間ヲ拜借シテ相濟ミマセヌガ、是ハ人命ニ關係スル問題デアリマスカラ、ドウゾ暫時御清聴ヲ願ヒタイデアリマス(簡單)ト呼フ者アリ)極テ簡單ニヤリマス、ドウゾ暫ク願ヒタイ

○東眞三郎君(二百二十六番) 一寸御待チ——質問ノ演說ガアリマス

○議長(楠本正隆君) 一寸御待チ——質問ノ演說ガアリマス

○東眞三郎君(二百二十六番) 質問ヲ成ルダケ簡單ニ願ヒタイト云フノデス

○長谷川泰君(二百十七番) ソレデドウゾ相願ヒマス、本員ガ此赤痢ノ豫防ニ就イテ政府ニ質問シマスル箇條ガ五箇條アリマスルカ一寸其梗概ヲ述ベマスルノデアリマス、第一ハ赤痢ノ流行ノコトヲ更ニ豫防致サヌカ、斯ウ云フノデアリマス(政府ハ何ヲ以テ此赤痢ノ流行ノコトヲ更ニ豫防致サヌカ、斯ウ云フノデアリマス)「簡單々々」ト呼フ者アリ)極テ簡單ニヤリマス、甚ダ御嫌デデアリマセウガ、暫時願ヒマス、其赤痢ノ流行ハ明治二十四年二十五年二十六此三箇年間通算シテ見マスルト云フト、總計二十八万四千五百五人、此三箇年ノ患者ヲ合計致シマスルト云フト、總計二十八万四千五百五人、其中死亡ガ六万九千四百二十五人、死亡ガ四万一千三百八十五人ト云フ非常ノ數ニ上ツテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク人命ヲ暴ス所ノ日本ノ此九州カラ中國四國ヨリ東北諸州ニ蔓延シテ彼ノ養蠶地方デマデ將ニ蔓延セントスル所ノ有様ナルニモ拘ラズ、政府ハ更ニ之ヲ願ミヌノデアリマス、一體政府ハ何ニスルガ職掌デアリマス、政府ハ無形ノ政治上ノ世話ヲシ保護ヲ致スノト、有形的ノ保護ヲスルニ箇條ヨリ外ナイノデアリマス、所ガ斯ノ如ク病病ノ流行ガ饅上リニ一年一年上ツテ三箇年間ニ二十八万四千某ト七万人モ死ンデ居ルト云フ有様ナルニモ拘ラズ、政府ハ更ニ度外視シテ願ミヌノデアリマス、凡ソ立憲政治ヲ爲シマスル所ノ邦國ニ於テ傳染病ノ流行ヲ度外視スル政府ハ何レノ國ニアリマス、諸君昨年ノ亞米利加合衆國ノ議會ノ劈頭ニ於テ大統領ハ如何ナル

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ事項論說ヲ記載スルコトヲ得ス犯ストキハ編輯人ヲ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 前條ノ事犯アリト認ムルトキハ内務大臣ハ直ニ其新聞紙ヲ差押ヘ二十四時間内ニ之ヲ告發スヘシ

無罪ノ宣告アリタルトキハ差押ヘタル新聞紙ハ當然解除セラレタルモノトス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 御異議ガナクバ全會一致ヲ以テ可決セラレタモノト認メマス(拍手起ル)

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ豫算ノ海軍省ノ所管ヲ議題ト致シマス

第一 明治二十七年豫算追加案

○田中正造君(百六十一番) 此間ニ少々登壇ヲ御許ニナランコトヲ

○議長(楠本正隆君) 何デアリマス、質問デスカ

○田中正造君(百六十一番) 長短ハ暫ク置イテ言ハヌ、ドウデアリマス

○議長(楠本正隆君) 修正ガアリマセヌ朗讀ハ省イテ決ヲ採リマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可決ト認メ、次ニ移リマス、文部省所管ヲ議題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 修正ダケノ朗讀ヲ致シマス

〔町田書記官朗讀〕

第一項 帝國大學工科大學應用化學及探鑛冶金學教室新營費金三萬三千三百二十四圓十錢

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可決ト認メマス

〔町田書記官朗讀〕

第二款 帝國大學工科大學應用化學探鑛冶金學教室新營費金三萬三千三百二十四圓十錢

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可決ト認メマス、其他第三款ヨリ以下皆可定ト認メマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 合計モ同斷

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 次ハ遞信省所管

〔朝讀モ省略ヲ願ヒマス〕ト呼フ者アリ

〔修正共異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 修正ノ方モ朗讀ヲ省キマス、遞信省所管ハ御異議ナクバ次ニ移リマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 第三款モ同シク異議ナキヲ以テ可決ト認メマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 是ハ豫テ御報道致シテ置イタ通り合計ノ處ハ議長ノ整理ニ御任セテ請ヒマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 次ハ乙號ニ掛リマス、乙號ハ繼續費ノ部分デアルニ依ッテ第一ヨリ第七マデヲ併セテ議題ニ供シマス、第八號ハ橫濱築港ノ費用デ是ハ昨日削除ニナリマシタカラ七號マデヲ議題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 御異議ナクバ是モ可決ト認メマス、第八號ハ削除デ、第九ヨリ結末マデ凡テ議題ニ供シマス、此削除ノ分ハ則チ決議ノ結果ト御認ヲ請ヒ置キマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 皆異議ナキヲ以テ可決ト認メ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 次ハ前ニ還リマシテ歲入全部ヲ舉ゲテ議題ニ供シマス

〔修正通り異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○木村誓太郎君(二十二番) 此歲入ノ第六款第一項ノ金額ハ自ラ修正ノ結果ヨリ變更致サレタモノト信ジマス、是ハ議長ノ御手許ニ修正ニナッテ居ルノデアリマス、本員ノ算出シタ所デハ百五十二萬八千八百八十云フモノ、修正額百二十九萬八千二百四十圓八錢六厘トナルヤウニ思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 二十三番、モウ一度分ラヌカラ……

○木村誓太郎君(二十二番) 第六款ノ第一項デス、即チ前年度繰入金、金額ハ百二十九萬八千二百四十圓八錢六厘トナルヤウニ考ヘマス

○議長(楠本正隆君) ツレハ議長ノ方デ整理スルコトニ致シマシタ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 歲入全部ハ異議ナキヲ以テ可決ト認メマス、ツレヨリ遞信事業費ノ中法律ノ結果デ政府ノ同意ヲ求メネバナラヌ——大藏大臣渡邊君

〔大藏大臣渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○大藏大臣(渡邊國武君) 明治二十七年總豫算追加案ノ中憲法第六十七條ニ關スル費額ノ減削ニ向ッテ政府ヲ代表シテ同意ヲ表シマス

〔拍手起ル〕

○議長(楠本正隆君) 次ハ丙號ヲ議題ニ供シマス、朗讀ヲ省イテ議題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可決ト認メマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 次ハ豫算ノ三十七頁ニ還リマス、第一條、第二條、第

三條は豫算ノ確定議デゴザリマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)第一條ハ修正ガアツテ計算ガ變リマスカラ、異ル所ハ議長ノ整理ニ御任セ置キヲ願ヒマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)御異議ガナクバ豫算ハ是デ確定ヲ報ジマス(東尾平太郎君「豫算外國庫ノ負擔ガアル」ト呼フ)是カラ豫算外ナリマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ、是ハ皆取束ネテ議題ニ供シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 修正ノ通り御異議ガナクバ決定ト認メマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ特別會計歳入歳出、是モ總テ取束ネテ議題ニ供シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ガナクバ同ジク可定ト認メマス

(中野武營君「是ニハ少シ修正ガアリマス」ト呼フ)

(「修正ノ通り」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ乙號鐵道公債、是モ議題ニ供シマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)御異議ガナクバ可定ト認メマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ特別會計豫算第一條第二條

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ガナクバ是モ可定ト認メマス、二百五十七番

(中野武營君演壇ニ登ル)

○中野武營君(二百五十七番) 二十七年年度ノ歳入歳出總豫算追加即チ國事ニ關スル犯罪ノタメニ云々ト申ス此追加案ハ豫算委員會ノ結果ヲ御報道申上ゲマス、豫算委員會ニ於テハ此追加案ハ過日本院ニ於テ可決セラレマシタ國事ニ關スル犯罪ノタメ諸祿ヲ沒收セラレタルモノニ關スル法律案、此法律案ノ結果ニ依ツテ提出セラレマシタ追加案デゴザリマス、故ニ豫算委員會ハ是ヲ以テ調査ヲ致シマシタ、其結果ハ諸君ノ御手許ニ御廻シ申シテゴザリマス通り、修正ヲ加ヘマシテ八万四千二百五十六圓八十九錢四厘、是ダケヲ減シマシテゴザリマス、其次第一應申述ベマスデゴザリマスガ、政府委員ニ此豫算ノ編製ヲ致シタ次第ヲ尋ネマシタ所ガ、此豫算ヲ積リマシタノハ斯ウ云フ計算ニ相成ツテ居ル、長崎縣ニ此法律ニ依ツテ復祿ヲ——祿ヲ即チ給與ヲ致スモノガアル、其人員ハ六人其祿高ハ五十九石餘、是ニ七分公債ニ當ルモノ、金ヲヤランナラヌ、其金高ガ三千四百二十二圓四十六錢九厘トナツテ居ル、ツレカラ佐賀縣ノ人員ガ三百十八人アル、其石高ハ二千二百九十九石餘、是ニ七分公債ニ當ルモノ、五千二百二十八石餘、此分ノハ六分公債ニ當ルモノ、金ヲヤランナラヌ、之ヲ合セテ三十八万四千三百二十六圓三十二錢一厘ト云フモノニナル、ツレカラ山口縣ニ人員四十一人アル、是ニ二分四十七石餘ハ七分公債、五百四十一石餘ハ六分公債、此金高三万九千

九百十九圓七十四錢五厘、熊本縣ニ二十九人アルデ二百九十二石餘ニ七分公債、百七十一石六分公債、此金高ガ二万五千四百八十九圓三十錢三厘、福岡縣ガ百六十三人七石餘七分公債、三百四十九石餘六分公債、此金高八万五千五百五圓五厘、是ダケガ先ツ縣ニ於テ國事犯罪デ則チ此法律ノ結果ニ依ツテ給與ヲ受クベキモノデアル、是ハ縣ノ區別ハ分ツテ居ル、然ルニ此外ニマダ八十八人程アルト云フ見込デアル、併ナガラ此八十八人ハ未ダ此人ハ何所ノ縣ニ今現在シテ居ルヤラ、ドウ云フ人ガ其跡ヲ嗣イデ居ルヤラハつき分ラヌデアル、其犯罪ノ何ハ如何ナル人デアルカト言ヒマスレバ、明治四年頃ニ愛宕通旭ト云フ人ノ國事犯罪ノ事件ニ關係シタ人達ノ分デアル、其當時諸所ノ縣カラ出會フタ人達デゴザリマスカラ、其人ハ今何處ニ現住シテ居ルヤラ、其子孫ガ何處ノ縣デ跡ヲ嗣イデ住居ヲ致シテ居ルヤラほんのり分ラヌダ、而シテ祿高モ判然セヌデアル、ツレ故ニ前ニ申シマシタ五縣ノ人員ニツレカラ其金高ト云フモノヲ平均致シテ一人當リヲ拵ヘテ、サウシテ八十八人ニ乘ジテ其金ヲ生ミ出シテ、其積リ出シタ金高ガ八万四千二百五十六圓八十九錢四厘、是ダケ積ツテアル、之ヲ合セテ政府ガ要求ヲシテ居ル、六十一万七千五百六十四圓七十三錢七厘ト云フ金額ヲ出シタノデアリマス、固ヨリ豫算ノコトデゴザリマスカラ、確トシテ動カナイ數ヲ出スコトハ難イデゴザリマス、併ナガラ豫算委員會ノ多數ハ斯様ナ決議ヲシタ、此長崎佐賀山口熊本福間此五縣ノ分ハ先ツ縣名ガ分ツテ居ルカラ、ツレハ宜シイトシテ、其外ノ八十八人ト申ス者ハ所在サヘモ今日ハ不判然デアルト政府委員ハ申スノデ、サウシテ其祿高モドレ程カ分ラヌ、故ニ唯平均數ヲ以テ算出ヲ致シタト申スコトニ依ツテ見レバ、是等ハ先ツ漠トシタコトデアルカラ、豫算ニ今日組入レテ置クニハ及ブマイト云フノデ、左様致シテ此給與ヲ致スノハ畢竟法律ノ結果ヨリ生ズルコトデアルカラ、好シ澤山積ツタカラト云フテモ證明ヲ得テ、其手續ヲナシテ來ヌ限リハ與ヘルコトハ出來ナイノデアアル、又縱令此唯今政府ガ調ベテ居ル縣々ノ外ニモ國事犯罪ニシテ、サウシテ祿ヲ沒收セラレタモノガアツテ則チ此法律ニ適合シ、此法律ヲ適用スベキモノガアツタナラバ、無論ツレハ法律ノ結果トシテ採用シテ遣ラナケレバ、ナラヌコトデアルガ、今日ハ一向各縣ノコトガ分ラナイカラ、大藏省ハ唯大藏省デ見得ラレタ分ダケヲ豫算ニ積ツタニ過ギナイノデアアルカラ、他日實際ノ調ノ出來タ以上ハ其時ニ於テ法律ノ結果トシテ是ダケノモノヲ與ヘテ遣ルノハ少モ妨ナイ、差支ナイコトデアルカラ、今ヨリ餘リ漠然タルモノヲ豫算ニ組入レルニハ及ブマイ、ツレ故ニ縣々ノ分ツタ分ダケヲ積ツテ、縣々ノ分ラナイ八十人ノ分ハ豫算ヨリ除キ置ク方ガ宜カラウト云フ多數ノ意見デ、之ニ決シタノデアリマス、即チ其修正額ハ五十三万三千三百七圓八十四錢三厘、斯様ニ相成リマス、是ダケヲ御報告ヲ致シマス、ツレカラ議長ニ——續イデマ——明治二十七年年度ノ文部省所管ノ分ガゴザリマスカラ、宜シウゴザリマス

○議長(楠本正隆君) 宜シ一度ニ……

○中野武營君(二百五十七番) 今一ツ御報告ヲ申シマスルノハ、是モ明治二十七年年度歳入歳出總豫算追加デゴザリマスガ、即チ文部省ノ所管ニ係ル實業教育獎勵費ノ要求デゴザリマス、豫算委員會ニ於テハ是モ先日本院ガ實業教育費國庫補助法案ヲ決議致シタコトデゴザリマスカラ、其決議ノ結果ニ依ツテ要求セラレルトコトデゴザリマスカラ、當然ノ要求ト認メタノデゴザリマ

ス、而シテ調査ノ上此金額ハ全部政府ノ要求ノ通り可決ヲ致シマシテゴザイマス、別ニ廉ヲ舉ゲテ御報告申スベキ必要ノ點モゴザイマセヌカラ、簡單ニ是ダケ報告致シマス

○木村誓太郎君(二十三番) 政府委員ニ此場合デ質問シテ宜シウゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 宜シ

○木村誓太郎君(二十三番) 政府委員ニ御尋シマスガ、此二十七年ノ追加案ノ六十一万七千五百六十四圓ト云フ歳入ノ所デゴザイマスガ、是ハ二十七年ノ剩餘金ヲ以テ支辨スル所ト云フコトニナリマスガ、一方ノ二十六年ノ剩餘金ノ方カラ支出スル金額ハ最早二十六年ノ剩餘金ニ依リマスルト十九萬圓程シカアリマセヌガ、決算上此六十餘萬圓ノ剩餘金ヲ生ズルト云フコトハ確ニ見エテ居ルノデアリマセウカ、此點ヲ御尋致シマス

(政府委員大藏省國債局長曾根靜夫君演壇ニ登ル)

○政府委員(曾根靜夫君) 唯今御尋ノ二十七年ノ剩餘金ハ三十三萬圓バカリシカナイ筈デアアルガ、此六十一萬圓餘ノ財源ニ差支ナイカト斯ウ云フ御尋ノヤウデアリマスガ……

○木村誓太郎君(二十三番) 豫算上デ見マスルト十九萬圓バカリシカナイヤウニ見エ

○政府委員(曾根靜夫君) 豫算上ノ剩餘金ノ残りハ三十三萬六千餘圓デアリマス、之ヲ提出致シマシタノハ豫算ノ説明ニモ書イテアリマス通り、是ハ決算上ニ於テ生ズル剩餘金ノ見込デアアルノデゴザイマス、勿論政府ハ二十六年度ノ會計ト申シマスレバ既ニ相當年度ハ經マシテ唯今整理期限中ニ這入ッテ居リマスカラ、是ダケノ剩餘ト云フモノハ決算上決シテ差支ナイ見込デアリマス

○木村誓太郎君(二十三番) 尙ホ御尋シマスガ、二十六年度ノ豫算上ノ剩餘金ハ六百九十九萬七千餘圓デアリマシテ、其中六百餘萬圓ト云フモノハ水害其他ノ支出濟ニナッテ居リマスガ、サウシマススト十九萬五千圓餘ト考ヘマスガ、三十餘萬圓トナリマスノハドウ云フ計算上カラ起リマシタノデアリマスガ

○政府委員(曾根靜夫君) 蓋シツレハ二十六年度ノ會計ト申シマスレバ二十五年ノ剩餘金モ既ニ會計法ノ二十條ニ依ッテ繰込シテ來マス譯デアリマスカラ、もッテ全體剩餘金ト云フモノガアリマスノデゴザイマス、ソコデ此水害費補助等ニ使用シタノハ必ズシモ二十六年度ノ剩餘金バカリトハ指定メラレマセヌノデアリマス、ソレ故ニ計算ガ少シ間違ッテ居ラウカト思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 復祿ニ關スル追加案ヲ議題ニ供シマス

(修正ニ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 修正ガゴザイマスルデ、修正ノ金高ヲ以テ可定致サレタモノト致シマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 歳入歳出合セテ……

○金井貢君(八十二番) 此場合ニ委員會ノ報告ヲ致シマス

○議長(楠本正隆君) 次ニ教育費文部ノ部ニ移リマス

○議長(楠本正隆君) 歳入歳出合セテ議題ニ供シマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバモ可定ト認メマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ日程ノ第二ニ移リマスル——金井貢君

第二 東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル

法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員報告)

(金井貢君演壇ニ登ル)

○金井貢君(八十二番) 東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案——此委員會ノ報告ヲ致シマス、例ニ依リマシテ此二十八日ノ午前十時ニ委員會ヲ開キマシタ、不肖貢ガ委員長ニ當リマシテ理事ニハ高橋九郎君デゴザイマス、ソレカラ其翌二十九日再ビ委員會ヲ開キマシテ段々質問ノ末ニ是ハ原案ニ決シマシテゴザイマス、一體此案ハ既ニ衆議院ニ於キマシテ昨年異議ナク通過致シマシテ、貴族院ノ特別委員會ニ於キマシテ解散トナッテ問題デゴザイマス、ソレ故ニ別段ニ異議ナク矢張原案ニ決シマシタ、之ヲ報告致シマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○吉本榮吉君(二百三十三番) 讀會ヲ省略シテ直ニ確定

○議長(楠本正隆君) 二百三十三番ノ讀會省略ノ請求ガアル

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ直ニ確定ヲ表シテ宜シウゴザイマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可定セラレタモノトシマス、次ハ第三ニ移リマスル——武富時敏君

第三 國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付)

第一讀會ノ續(特別委員報告)

○武富時敏君(六十六番) 此一時貸借ニ關スル法律案ハ委員會ニ於テ原案ヲ可ト致シマシタ、報告ト云フモノハタツタソレダケデアリマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 是モ讀會省略デ宜シウゴザイマス

○吉本榮吉君(二百三十三番) 讀會省略

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 二百三十三番ノ讀會省略——異議ナクバ確定ト認メマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ第四ニ移リマス——江原素六君

第四 明治二十六年ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件(政府提出)

(特別委員報告)

(江原素六君演壇ニ登ル)

○江原素六君(二百二十四番) 諸君、明治二十六年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件同二十六年度ニ於テ中央備荒貯蓄金ヲ以テ豫算超過支出ニ對スル特別委員會ノ經過及其結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ五月二十一日ニ委員長及理事ノ互選會ヲ開キマシテ、委員長ニハ不肖江原素六ガ當選ニ相成リマシタ、理事ニハ折田兼至君ガ當選サレマシテゴザイマス、ソレヨリ此問題ハ憲法ニモ關係シマスルカラ頗ル丁寧ニ審議討論ヲ致シマシタ、今日ハ豫算追加案ニ就キマシテ憲法第六十七條ニ依ッテ政府ニ同意ヲ求メタトキニ、政府ハ快ク之ニ同意ヲ表シマシタニモ拘ラス、委員會ニ於キマシテハ此支出ハ憲法ニ違反シタルモノト認メマシテ承諾ヲ與ヘザルコトニ決シマシタ、憲法六十四條ノ第二項ニ「豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス」トゴザイマスレバ、ドンナ豫算外ノ超過デモ如何ニモ差支ナイヤウニ一寸見エルデゴザイマス、併ナガラ尙ホ又其外ノ所ヲ讀シテ見マスルト「避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ」トアリマスカラ、豫算外ノ支出或ハ避クベカラザルコトニ於テ突然起リマス、故ニ豫備費ノ外ニハ決シテ何所カラモ出ス財源ノナイコトハ明デアアルノミナラズ、此憲法ノ義解ヲ見マシテモ、其事ガ明ニ書イテゴザイマス、勿論義解ハ一己ノ義解デアリマスルケレドモ、併ナガラ隨分責任ノアル義解デアリマスレバ、其義解ニ依ッテ見マス、矢張此豫算外ニ支出スル金ハ財源ト云フモノヲ極メテ置カナケレバナライ、即チ豫算外支出ノ財源トシテ豫備金ヲ設クルト云フコトガ明デアリマスレバ、決シテ此豫備金ノ外ニ政府ハ恣ニ支出スルコトノ出來ナイト云フハ憲法ノ明示スル所デアリマス、又會計法第七條ニハ「豫算ノ中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ別ツ第一豫備金第二豫備金第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス第二豫備金ハ豫算ノ外ニ生ジタル費用ニ充ルモノトス」ト斯ノ如ク明瞭ニ書イテアリマスニ依ッテ、決シテ此國庫剩餘金等カラ漫ニ政府ガ出スベキモノデナイノデゴザイマス、然ルニ政府ハ六百萬六千八百八十六圓七十九錢六厘、及中央備荒貯蓄金ヨリ二十五萬四千四百六錢五厘總計六百二十五萬七千七百三十圓八十六錢一厘ノ支出ヲ致シタノデゴザイマス、大藏大臣ノ渡邊國武君ニ質問ヲシマスレバ、政府ハ豫備金ニアレ、剩餘金ニアレ、凡ソ國家ノ急務トシテ拾置クベカラザル時ニハ何レノ財源ヲ問ハズビツチカラデモ出スコトガ出來ルト云フ答辯デゴザイマシタ、併ナガラ憲法ノ第六十四條ハ其支出シタル時ニ對シテ議會ノ承諾ヲ求メネバナライト云フ迄デ、唯其出シタル後ニ議會ニ届ヲスレバ宜イト云フヤウナ風ニナリマシタナラバ、議會ハ財政ノ監督權利ト云フモノハ殆ド無クナッテ仕舞フヤウニナル、然ルニ政府委員ハ憲法六十四條ニ於テ事後ノ承諾ガ規定シテアルノミニシテドツカラ出シテモ出ス方ハ禁ジテナイカラ、勝手デアルト云フヤウニ答辯サレノデゴザイマス、勿論此事ハ第三議會ニ於テモサウ云フ風ニ渡邊大藏大臣ハ答辯ニナツタヤウニ記憶シテ居リマス、併ナガラ更ニ一步ヲ退キマシテ大藏大臣ノ言フ如クニ第一第二ノ豫備金ノ支出ノミナラズ、孰レノ財源カラモ政府ハ國家急要ノ事業ナレバ出

スコトガ出來ルトシマシタナラバ、即チ憲法ノ制定者ハ憲法ヲ解釋スルノ權能ヲ有スルモノト假定シテ、實際ニ己レノ都合ノ宜イヤウニ憲法ヲ解釋シマシテ、憲法ニ明記シテナイコトハソレハ犯シテモ決シテ憲法違反デナイト云フコトヲ主張シマスルナラバ、私共ハ同時ニ其行爲ニ就イテ當局者ハ責任ト云フモノヲ持タナケレバナライト思フ、成程憲法ニ於テ之ヲ犯シテハナライト云フコトノ明記シタルモノヲ犯シタナラバ明ナル憲法違反デアル、併シテナラナイト云フコトモナケレバ、スベシト云フコトモナク、憲法ガ不文デアルナラバ其不文ヲ行ツタノハ決シテ違反デナイト云フコトナラバ、即チ其行爲ニ就イテハ當局者ハ責任ヲ持タナケレバナライ、少クトモ二ツノコトハ持タナケレバナライノデアアル、其事ガ全ク必要デアリ、其仕事ガ適當デアツタト云フテ承諾ヲ受ケレバ宜シ、若シモ其事ガ不適當デアリ、其行爲ガ非デアツタト云フ時ニハ責任ヲ以テ自ラ處決シナケレバナライノト、今一ツハサウ云フヤウナ斷定ガアルナラバ、ソレト共ニ一定ノ方針ヲ立ッテ置カナケレバナライノデアリマス、然ルニ政府ニ向ッテ質問シマスレバ、憲法ノ六十四條ハ使ツタ後ニ議會ニ届ケマスルダケノコトデ、別段ニドコカラ支出スルコトハナラナイト云フ明文ガナイ、故ニ其事ニ就イテ其行爲ニ就イテ責任ヲ背負フ背負ハヌト云フヤウナコトハ論ズルコトガ出來ナイト云フノデアリマス、今一ツハ政府ガ幸ニ剩餘金ガアツタカラコソ、斯ノ如キ金ヲ出シタガ、若モ剩餘金ノナイ時ニハドウ云フ方針ニスルト聞キマシタレバ、ソレハ別段方針ハナイ、金ガアツタカラ出シタダケノコトデアツテ、金ノナイトキノ方針ト云フモノハちツともナイト云フノガ大藏大臣ノ答辯デゴザイマシタ、シテ見マスルト此金ヲ出シタコトニ就イテ政府ノ行爲ノ得失ニ就イテ責任ヲ負フコトナク、剩餘金ノ無イトキニハ如何ナル方針ガ立ッテ居ルカト云フト、ソレモ確定シテ居ラナイト云フナラバ、誠ニ吾々ハ會計監督ノ任トシテ之ニ承諾ヲ與ヘルコトガ出來ナイト云フノハ誠ニ止ムコトヲ得ナイノデアリマス、憲法ニ就イテノコトハ斯ノ如キコトデゴザイマスガ、更ニ事實ニ就イテ見マスレバ、帝國議會ニ於キマシテ彼ノ岐阜愛知震災ノ時ニ政府ハ殆ド四百萬圓ノ金ヲ兩縣ヘ出シマシタ、其事後承諾ヲ求ムルトキニ議會ノ形勢ハ如何デアツタカト云フト、當時選舉干渉ト云フ魔力ガ議會ノ中ニ猖獗ナル勢ヲ逞ウシテ居ルニモ拘ラズ百三十二萬ニ對スル百四十六萬票ノ差ヲ以テ辛フシテ事後承諾ヲ與ヘルト云フ様ナ譯デアリマシタ、第四議會ニ於キマシテハ十九萬なんぼト云フモノヲ事實ニ於テ是ト認メタルニモ拘ラズ所謂涙ヲ揮ッテ馬糞ヲ斬ルデ、憲法ノ明文ニ依ッテ殆ド満場一致ヲ以テ之ニ反對シタコトデアリマス、斯ノ如キノ有様デアリマシタナラバ、此間起リマシタ所ノ岡山外五縣ノコトニ就イテハ曩ニ二回ノ有様ニ於テ政府ハ德義上大ニ注意スベキモノナルニモ拘ラズ、斷然タル處置ヲシテ前ニ申シタ所ノ六百有餘萬ノ金ヲ支出シナリマシタ、實際ニ就イテ見マスレバ成程工事ノ設計其他ノ事ニ就イテ豫メ政府ガ補助スル所ノ金額ガゴザイマセヌケレバ、工事ノ設計ニ甚ダ不便ヲ與ヘルカハ知リマセヌガ、サリナガラ未ダ四月中ニハ工事ノタメニ支出シタル金ハ甚ダ僅々デゴザイマシテ、若モ政府ガ第三ノ時ニ第四ノ時ニ議會ノ景況ニ照シテ注意シマスレバ、未ダ斯ノ如キ豫算外ノ支出ヲセズシテ、議會ヲ早ク召集シテ、適當ノ順序ヲ履ミ、圓滑ニ此局ヲ結

プロトガ出来タラウト思ヒマスノニ、政府ガ議會ニ對スルノ行爲ヲモ無視シ、又憲法ニモ違反シテ斯ノ如キ支出ヲナシタコトハ、誠ニ止ムヲ得ズ反對シナケレバナラナイ譯デアリマス、併ナガラ彼ノ五縣ニ對スル金額ノ上ニ於キマシテハ、委員會ニ於キマシテハ、決シテ異議ヲ唱ヘタモノデハゴザイマセヌ、ソレト附隨シテ彼ノ中央備荒貯蓄金ノコトモ事實ニ於キマシテハ誠ニ止ムコトヲ得ナイト見マスルガ、是レ亦憲法上違反スルモノトシテ委員會ニ於キマシテハ之ニ承諾ヲ與ヘザルコトニ決シマシテゴザイマス、此段御報告ニ及ビマス

○目黒貞治君(二百七十四番) チョット質問ガアリマス、此剩餘金支出ノコトニ就イテハ唯今委員會ノ經過報告ト云フコトデアリマスガ、此憲法ノ上ニ就イテハ如何ナル天災地變、又人民ガ如何ナル不時ノ災害ニ遭フテモ豫備費ノ外金ヲ支出シテ之ヲ救済スルコトガ出来ナイゾト云フ、今日ノ憲法デアアルト云フ譯デアリマセウカ、將タ其他ノ箇條デ之ヲ救ヒ得ルノ途ガアル、則チアルニモ拘ラス、六十四條ノ第二項ヲ適當シテヤッタノデ、甚ダ憲法ヲ誤解シタモノデアルト云フデアリマセウカ、此件ニ就イテ承リタイ

○江原素六君(二百三十四番) 憲法解釋ノコトハ銘々ガ隨意デアリマスカラ、委員會ノ意志ヲ御報道シタコトデアリマシテ、憲法ノ解釋論ハドウカ別ニ願ヒタイ

○目黒貞治君(二百七十四番) 解釋論ヲ問フノデハナイ、有ルカ無イカラ問フノデアアル

○小島相陽君(十二番) 委員長、質問ガアリマス、私ハ委員長ノ江原君ニ質問ヲ致シマス、ソレデ此國庫剩餘金ヲ支出シマシタ事柄ト云フモノハ澤山アル、ソレヲ總テ皆憲法違反ト云フノデスカ、其處ヲ一ツ確メテ置キタイ

○議長(楠本正隆君) 二百三十四番、答辯ハドウデス

○江原素六君(二百三十四番) ドウモ失禮デスカ伺ヒ損ヒマシタカラ

○小島相陽君(十二番) スウ云フコトデス、國庫ノ剩餘金ト云フモノハ澤山種類ガゴザイマス、獨リ岡山外五縣ノ水害補助バカリデハナイ、其他法律ノ結果トシテ支出ヲシナケレバナラヌ所ノ種類ノモノモ澤山アルノデゴザイマス、ソレヲ皆悉ク東ネテ憲法違反ト云フコトニ御決定ニナリマシタカト云フコトヲ尋ネマス

○江原素六君(二百三十四番) ソレハ私ノ報告ヲ御聽漏シデアリマシタカ、私ハ冒頭ニ明治二十六年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件ト云フコトヲ言ヒマシタカラ、此内ニ皆含ンデ居ルモノデゴザイマス

(大藏大臣渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(渡邊國武君) 諸君、明治二十六年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過豫算外支出ノ件ニ附イテ唯今特別委員長江原君ヨリ報告ニナリマシタ、就イテハ此時ニ於テ政府モ其意見ヲ表明シテ置クコトガ必要ダト考ヘマスカラ、本大臣ハ之ヲ宣言シマス、本大臣ノ見ル所ニ依リマスレバ委員長ハ是ハ憲法違反デアルト云フコトヲ言ハレル、又此報告書ニモ違憲ノ處分デアルトアリマスガ、是ハ政府ニ於テハ違憲トハ見マセヌ、此臨時支出ノ如キハ成程憲法ニ於テ之ヲ許スノ明文ハナイ、是ハ蓋シ或ハ濫用スルコトアラントコトヲ慮ッテデアアル、是ト同時ニ又之ヲ禁ズルノ明文モナイ、是ハ斯ノ如キ臨時

非常ノ場合ガアルコトヲ慮ッタモノデアアル、而シテ其後ヲ結束スルノ道ハ則チ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スト云フコトヲ以テ、政府ニ義務ヲ負ハシメテアル、是ハ則チ憲法上法律上權利上ノ問題トモベシテ政治上事實上ノ問題ニ止メテ置イテ、所謂憲法ノ妙用活機デアラウト考ヘマス(のーく)故ニ此事ノ事實ガ果シテ不當デアルト云フコトヲ以テ之ヲ承諾セラレヌト云フコトハ憲法ノ許サレタル所ノ權能ヲ行フコトデアアルカラ仕方ガナイ、違憲ナルガ故ニト云フコトハ政府ガ反對ヲ表シテ置キマス譯デアリマス、序ニ今一言辯明シテ置カナケレバナラヌコトガアリマス、先刻江原君ノ御報道ノ中ニ政府ヨリ出タ渡邊大藏大臣ハ此事ニ就イテハ議會ニ届ケテ置ケバ宜イト云フタト云フ様ニ承リマスガ、憲法ハ明カニ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スト云フ義務ヲ負ハシメテアリマス、決シテ届ケテ置ケバ宜イト云フコトヲ言ハナイコトハ實ニ明デアリマス、モウ一ツハ責任ハ取ルカト云ヘバ取ラヌト云フ様ニ御話デアリマシタガ、憲法ハ則チ命ジテ「國務大臣ハ 天皇ヲ輔弼シ其責任ニ任ス」トアツテ明ニ國務大臣ノ責任ハ豫算ノ施行法律ノ施行皆責任ニアラザルナシト云フコトヲ命ジテアル、然ラバ此責任ハ如何ニ取ルカト云フニ、其責任ヲ取ルコトハ今日明言スルノ必要ハナシト云フデアリマス、此事ハ序ナガラ一言辯明シテ置キマス

○大久保端造君(二百七十二番) 質問ガアリマス、今渡邊大藏大臣ノ御演說ニ依リマス、憲法ニ規定ガナイカラト云フ最初御演說デゴザイマシタガ、後ニ至ルト憲法ニ從ッテ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルモノデアルト云フ様ニ辯ゼラレタ様デゴザイマスガ、サウスルトどちらノ方ニナリマスカ、憲法ノ規定ノアルト云フ箇條ニ組込ム方デスカ

○大藏大臣(渡邊國武君) 本大臣ノ申シタノハ憲法ニ於テ出シテ宜シイト云フ

(演壇々々ト呼フ者アリ)

(大藏大臣渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(渡邊國武君) 憲法ニ於テ支出シテ宜シイト云フ明文ハナイ、又是ハ同時ニ支出スルコトヲ禁ズルノ明文モナイ、故ニ其後ヲ結束スルノ方法ヲ設ケ、後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スト云フ義務ヲ政府ニ負ハシメテアル

○大久保端造君(二百七十二番) 何處ニアリマス

○大藏大臣(渡邊國武君) 是ハ則チ憲法六十四條第二項ハ豫備費ニ就イテノ規定

○大久保端造君(二百七十二番) 憲法六十四條第二項ハ豫備費ニ就イテノ規定

○大藏大臣(渡邊國武君) ソレハ則チ特別委員長ノ報告、政府ハ左様ニ見ナイ、何等ノ條件ヲ附ケズニ、豫算外ニ支出シタルモノアル時ハ……

○大久保端造君(二百七十二番) ソレガ所謂憲法ノ妙用デスカ、サウスルト其方ノ議論ハ斯ウナル、支出ノコトヲ憲法ニ定メテナイ、定メテナイモノハ承諾ヲ求ムルコトガ憲法ニ定メテアルト云フコトニナツテはおどんニナリマス

○大藏大臣(渡邊國武君) 其通デス、憲法ニ定メテアルコトハ仕方ガナイ、憲法ハ其通り命ジテアル

○大久保端造君(二百七十二番) 支出スルコトヲ命ジテナイモノヲ憲法ニ

依ッテ承諾ヲ求ムルト云フコトニ……

○大藏大臣(渡邊國武君) ソレデハ支出スルコトハ何處ニ命ジテアリマス
○大久保端造君(二百七十二番) 普通ノ道理ニ依ルモ支出スルコトヲ憲法ニ於テ命ジテナケレバナイモ、承諾ヲ要スルコト云フコトハ要スル方バカリ規定シテアル筈ハナイ

○大藏大臣(渡邊國武君) ソレナラバ憲法ノドノ條ニ命ジテアリマス
○大久保端造君(二百七十二番) サウスルト今ノニ就イテ明答スルコトハ出来ヌト云フノデスカ

○大藏大臣(渡邊國武君) 憲法ニ豫算外支出豫算超過ノ支出ヲ許スノ條項ハナイノデス

○大久保端造君(二百七十二番) 私ノ問フノハサウ云フ趣意デハナイ、憲法ノ支出ヲ命ジタモノナラバ一方ニ於テ事後ノ承諾ヲ要スルコト云フ結果ヲ規定シテアル、支出スルコトヲ命ジテナイト云フ大藏大臣ノ答辯……

○議長(楠本正隆君) 憲法ノ解釋ハ……

(加藤政之助君演壇ニ登ル)

○加藤政之助君(二百十四番) 諸君、此問題ハ前年來引續ノ問題デゴザイマシテ、モウ私モ前年來意見ヲ述ベマシタコトデゴザイマスカラ、大抵極テ居ルコト、思ヒマス、サリナガラ今日此問題ニ就イテ矢張贊成ノ演説ヲスルモノガ出タ以上ハ、矢張反對ノ演説ヲスルコトハ憲法違反ト云フコトノ意義ヲ明ニスルコトハ極メテ必要デアルト思フ、ソレガ故ニ茲ニ立チマシタノデゴザイマス(ソレダケデ宜シイ)ト呼フ者アリ、扱テハ私ハサウ長クハヤリマセヌケレドモ、サリナガラ憲法違反ト云フ大問題ダケニ憲法ノ責任ヲ負ハセナケレバナラナイト云フ重大ノコトデアルカラ、一應理窟ヲ言ハナケレバナラヌト思フ、扱テ大藏大臣ハ先刻此憲法ノ第六十四條ノ第二項ガ剩餘金ノ支出ヲ許シテアル、而シテ此剩餘金ヲ支出スルコト云フコトヲ許スト云フ明文モ其他ニモ別ニナケレバ又禁ズルト云フ明文モナイ、ソコガ憲法ノ妙用活機デアツテ、臨機處分ガ出來ル、所デ是ガ大變善イノデト云フコトヲ言ハレマシタ、併ナガラ私ハ先刻江原素六君カ段々述ベラレタル所ノ此會計法及憲法ノ解釋以外ニ尙ホ此會計法ノ條項ニ就イテ考ヘテ見マスルト云フト、斯ル支出ト云フモノハドウシテモ許スベカラザルモノ、禁ジテアルモノデアルト云フコトガ自ラ推察サレル所ノ條項ガ書イテアルト信ジテ居ルノデアアル、扱テ其條項ハ何處ニ在ルカト申シマスルト云フト、會計法ノ第三條ニハ斯ウ云フコトガ書イテアル「各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ニ充ツルコトヲ得ス」ト斯ウ云フノハ此條項ヲ以テ見テモ、此帝國議會ト云フモノガ協賛ヲシタト云フ指定ノ費目ノ外ニハ年度ヲ越エテ政府ガ之ヲ使フコトハ出來ナイト云フコトヲ明ニ會計法ニ規定シタモノデアルト思フ、又會計法第十二條ガ國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ズ」ト斯ウ規定致シマシタモノ、是モ帝國議會ガ明ニ指定シタ、此費目ハ之ニ使フベシト命ジタル以外ニ甲乙ノ費目ヲ流用シテ之ヲ使フコトハ出來ナイ、若シ餘裕ガアルナラバ、其餘裕ハ明ニ剩餘金ノ中ニ組込メサウシテ翌年度ニ持越サナケレバナ

ラナイト云フコトヲ明記シタルモノデアアル、デスノ如ク會計法ニ條項ヲ設ケ、此衆議院ノ議決致シタ外ハ一文半錢モ内閣ノ大臣タルモノハ國庫ノ金ヲ使用スルコトハ出來ナイト云フ條項ヲ設ケタノハ何デアアルカ、此意味ヨリシテ推シテ見マシテモ憲法ノ第六十四條ノ第二項ト云フモノハ無限ノ意味ヲ持タシテ、内閣大臣ハ幾ラデモ剩餘金ガアルナラバ、其剩餘金ノアル限り國債ヲ起シ、若クハ租稅ヲ増サシムル限ハ之ヲ支出スルコトガ出來ルモノデアルト云フ權能ヲ任シタモノデアナイト云フコトハ、誠ニ意義ガ明デアルト私ハ斯様ニ考ヘルノデゴザイマス、ソコデ先刻江原君ノ申サレタ通り、第三議會ニ於テ此事ハ既ニ憲法違反デアアル、剩餘金ヲ支出スルコトハ憲法ノ意義ニ背イタル所ノモノデアルト吾ハ主張シタノデアアル、然ルニ不幸ニモ此第三議會ニ於テ吾ハ意見ト云フモノハ少數ニシテ倒レタ、併ナガラ第四議會ニ於テ吾ハ此憲法違反ナリト云フ説ハ本院ノ大多數ヲ以テ可決サレテ、サウシテ剩餘金ノ支出ハ違憲デアルト云フ認定ヲ下シタノデアアル、然ラバ若シ今ノ内閣諸公ニシテ院議ヲ重ンズルナラバ、又德義ヲ重ンゼラル、ナラバ、我日本ノ憲法ト云フモノハ大切デアルト云フコトヲ考ヘルナラバ、斯ノ如キ舉動ヲ再ボスル筈ハナイノデアアル、其前ノ行ノ非ナルコトヲ顧ミテ、則チ此院議ヲ敬重シテ、剩餘金支出ノ如キハ恣ニシナイト云フコトヲ方針ヲ執ラナケレバナラナイ、然ルニ内閣諸公ハ此方針ヲ執ラズシテ吾ハ此議決シタル所ノ意見ニ背イテ、一度ナラズ二度迄モ斯様ナル憲法違反ノ支出ヲ爲スト云フコトハ内閣ガ此院議ヲ侮蔑シタル所爲デアルト私ハ考ヘルノデアアル(無責任ダカラ)ト呼フ者アリ、又伊藤伯爵ハ憲法六十九條ガ六十四條ノ二項ノ支出ニ應ズル豫備費ヲ設ケタモノデアルト云フコトヲ憲法義解ニ解釋シテアル、則チ伊藤伯爵ハ現在ノ内閣總理大臣デハナイカ、縱シ一步ヲ讓ツテ伊藤伯爵ガ内閣總理大臣デアツテモ内閣ノ一人デアアル、内閣ノ多數ハ之ニ反對デアアル據處ナシ、斯ノ如キ支出ヲ致シタ處ガ、伊藤伯爵ハ若シ責任ヲ重ンズルハデアアルナラバ、德義ヲ重ンズルハデアアル、内閣ノ多數ガ己ノ意見ニ反對デアアルナラバ、ナゼ斷然其職ヲ退イテサウシテ自分ノ意見ヲ貫カナシタト云フモノハ、所謂自分ノ節ヲ賣ツテモ亦日本ノ基礎タル憲法ニ背イテモ、此内閣總理大臣ト云フ椅子ガ惜シイ、所謂後藤伯爵ノ二ノ舞デカチリ附主義ヲ執ラレル所ノモノデアアルト言ハナケレバナラヌ、又此憲法ト云フモノハ日本ノモナラズ彼ノ立憲政體ノ國ニ於テハ何レモ國家ノ基本デアルト云フノデ、國民ハ鬼神ノ如ク之ヲ貴ビ、之ヲ重ンシテ居ルノデアアル、ソレガ故ニ歐米列國何レノ所ニ往ツテモ總令黨派ハ烈火ノ如ク爭フ爲ストモ、官ト民トノ間ニ如何ナル爭ガアラウトモ、少數ノ人ガ此少數ノ勢力ヲ回復スルタメニ憲法以外ノ支出ヲセザルノモナラズ、縱令其當時多數ヲ制シテ居ル所ノ黨派ト雖モ政府ト雖モ、此憲法以外ニハ一步モ踏出スコトハ爲サヌノデアアル、其一步モ踏出サヌノハ何故デアアルカト申シマスルト云フト、憲法ハ則チ國ノ基礎デアアル、若シ憲法以外ニ一步ヲ踏出シタナラバ、其踏出シタ人ハ所謂國體ノ謀叛人デアアル、大罪人デアアルト云フコトニ致シマシタ、歐米立憲國ニ於キマシテハ憲法以外ニ足ヲ踏出サナイノデアアル、然ルニ今内閣諸公ガ此重ンズベキ此日本ノ國體ノ基本タル所ノ憲法ニ向ツテ、憲法違反ナル所ノ爲ヲ行フタト云フコトハ取モ直サズ我ガ日本ノ代議政體ニ向ツテ謀叛ヲ致シタル所ノ大

罪人デアルト私ハ斷言スルコトヲ憚ラヌデアアル、斯様ナル處置ヲ内閣諸公
ガ致シマシタ以上ハ吾ハドウシテモ其儘ニ置クコトハ出來ナイノデアアル、
ソレガ故ニ是非ニ向ッテハ責任ヲ負ハシメルト云フコトヲ計ラナケレバナ
ラヌ、若シ斯ノ如キ處置ヲシタル所ノ内閣ヲ其儘ニ置キマスルコトナレバ、日
本ノ憲法重シト雖モ、之ヲ犯ス所ノ者ガ第二ニモ第三ニモ續々出テ來テ、我
ガ日本ノ憲法ハ是ヨリ意義ガ動搖スル憂ヲ與ヘルノデアアル、日本ノ基礎ト云
フモノハ動搖ノ虞ヲ招クモノデアアル、吾ハガ本案ヲ非認スルコトハ勿論併セ
テ此伊藤内閣ヲシテ此憲法違反ノ處置アルガ故ニ、曩ニ江藤新平ガ自分ノ作
タル所ノ刑法ノ下ニ倒レタト同様、此伊藤伯自ラ參與シタル所ノ憲法ヲ以
テ、現在ノ内閣ニ政治上ノ死ヲ遂ゲシメナケレバナラヌト、斯様ニ考ヘルノ
デアアル、若シ政府ニシテ此責ヲ引カレ、バ宜イ、若シ此責ヲ引カレヌト云フ
コトデゴザイマシタナレバ、吾ハ縱令如何ナル手段ヲ取ツテモ、如何ナル
方法ヲ取ツテモ、此憲法違反ノ處置ニ對シテハ其責ニ任ゼシムルト云フ此
四千萬人ノ人民ハ覺悟ガナケレバナラヌト斯様ニ考ヘマスル

○議長(楠本正隆君) 小島相陽君

(小島相陽君演壇ニ登ル)

○小島相陽君(十二番) 私ハ此案ニ就キマシテハ憲法違反ニアラズト云フ
意見ヲ有ッテ居リマス(憲法ヲ知ラナイ者ナリ)「憲法ヲ學ベ」ト呼フ者ア
リ)ソレハ虚心平氣デ私ノ良心ガ左様ニ主張スルカラ、願ハクハ諸君モ矢張
虚心平氣デ聽イテ不服ガアツタ男ヲシテ演壇ニ來テ反對ヲナサイ(大
キナ聲ヲ給ヘ)ト呼フ者アリ)御互ニ惡口ハ止メニシヤウ、聽イテ居ッテ
後ト御ヤンナサイ(大キナ聲ヲシロト云フ)ハ惡口デハナイ)ト呼フ者ア
リ)ソレデ私ハ憲法違反ニアラズト云フコトハ道理上憲法違反ニアラズト云
フコトダケヲ論斷スルノデアアル、政府ノ爲シタル所ノ行爲ガ果シテ被害ノ程
度則チ和歌山其他諸縣ノ被害ノ程度ニ於テ政府ガ法律執行ノ上ニ於テ已ムヲ
得ズ支出シタモノデアアルカ否ヤト云フ事實上ノ問題ニ至ッテハ、固ヨリ私ハ
論ズルコトハ致シマセヌ、唯道理ノ上デ政府ノシタル所ノ處置ガ正當デアルト
云フダケヲ論ズル積リデゴザイマス、ソレデ先刻江原君或ハ加藤君等ガ言
フ所ヲ聽キマスルト、政府ガ憲法ノ第六十四條ニ基イテ此金員ヲ支出スルト
云フコトハ大變惡ルイト云フコトヲ言ハレタノデアアル、併ナガラ政府ガ此金
ヲ出シタト云フノハ第六十四條ノ第二項ニ依ッテ出シタノデアアル、憲
法第六十四條ノ第二項ニ依ッテ帝國議會ノ協贊ヲ求メラレタト私ハ信ジテ居
ルノデアアル、若モ當局大臣ニシテテカラニ此費用ト云フモノヲ憲法ノ六十四
條ノ二項ニ依ッテ支出シタト云フナレバ(當局者ガ明言シテ居ル)ト呼フ者ア
リ)則チ當局大臣ノ意見ガ間違ッテ居ルノデアアル、唯政府ハ憲法ノ六十四
條ノ二項ニ依ッテ帝國議會ニ後日ノ承認ヲ求メタト云フニ過ギナイノデア
アル、此條ニ依ッテ此費用ヲ支出シタト云フコトハ決シテナイノデアアル、若モ
大臣ガ左様ニ言ヘバ間違ッテ居ルノデアアル(笑聲起ル)然ラバ政府ハ此費用ト
云フモノハ何ニ依ッテヤツタカト云フト、凡ッ政府ノ職分トシテハ必シモ
法律ト云フモノヲ執行シナケレバナラヌ所ノ職分ガアルダラウト私ハ思フ、
是ハ私ガ思フノミナラズ滿場ノ諸君モ幾御異論ハナカラウト思フ、其法
律ヲ執行シツ、行ク際ニ、是非共入用ナル所ノ入費ガ出來致シタナレバ、

此時ニハドウスルカ、費用ガ無イト云フテ法律ヲ執行ノ運用ヲ止メルト云フ
コトハ出來マイト思ヒマス(要合即三君)其通り)ト呼フ)例ヘバ(七十條ヲ見
ルヘシ)ト呼フ者アリ)政府ガ議會ニ向ッテテカラニ同意ヲ求メテ來ラレタ費
用ノ中デアアル、現ニ金八万幾ラト云フ陸軍ノ軍隊ニ給與スベキ費用ニ不
足ガ出來タト云フコトデ請求ヲシテ來タノデアアル、其時ニ當ッテテカラニ若モ
費用ガナイト云フタナラバドウスルカ、先刻加藤君杯ハ大變慷慨悲憤ノ
語ヲ吐イテ演說ヲサレタケレドモ、若モ加藤君ニシテ時ノ政府ヲラシメバ、
此軍隊ト云フモノヲ解除ナサルカ、之ヲシテテカラニ豫備費カラ出シタクモ豫
備金ガナイ、本費ハ無論ノコト、豫備モ何モナイトスレバ、如何ニシテ費用
ヲ支出シテ軍隊ヲ繋イテ行クカ(議會ノ協贊ヲ求ムベシ)ト呼フ者アリ)僅カ
八万圓ヤ三万圓ノタメニ議會ノ協贊ヲ求ムルト云フコトガ出來ルカ、利害得
失ハ自ラ分ルノデアアル、ソレナ馬鹿ナコトハ決シテ出來ナイノデアアル(義解
ヲ知ラヌカ)ト呼フ者アリ)又此中ニハ或ハ因人費ノ如キ或ハ(田中正造君)討
論終結)ト呼フ)訴訟費用ノ如キモ澤山アル(唯今ノハ政府委員デスヨ)ト呼
フ者アリ)其他ノ訴訟費用ヲ支拂フスルタメニ待ッテ吳レト云フコトガ言ヘ
ルカ、若モ待ッテ吳レト云フハレルナレバ政府ニ對スル所ノ債權者ノ如キモノ
ハ政府ノ財産ヲ差押ヘルカモ知レマセヌ(ソレナ詰ラヌコトヲスルモノハ
大臣ニアリヤシナイ)ト呼フ者アリ)道理ノ上ガサウナル、サウナツテ來タナ
レバ其時ニハドウスルカ、ソレモ僅ニ一百圓ヤ或ハ千圓、或ハ二千圓ノ費
用ノ不足ノタメニ帝國議會ヲ開カケレバナラヌ、是ハドウナサル、仕方
ガナイ(憲法ノ結果ダ)ト呼フ者アリ)サウ云フ詰ラナイコト、云フモノハ
天下ノ公論トシテ見ル譯ニ往カヌノデアアル(笑聲起ル)畢竟政權ヲ奪フタメニ
何ニガナ口實ヲ設ケテ政府ヲ攻撃シヤウトスル人ノスル仕事デアッテ、決
シテ斯ウ云フコトハ正當ノ道理ト見ルコトハ出來ナイ、元來事ノ實際ノ必要
トガアルカハ幾ラモ法律ニむつかいコトガアルノデアアル、唯法律ト云フモ
ノガアルカハ其法律ノ通りニシテ往カケレバナラヌト云フケレドモ其必
要ニ迫ッタ上ニハ隨分法律ニ打勝ツコトガアルノデアアル、則チ此事柄ノ如キ
モノハソレト同一ノモノデアアル、僅千圓五百圓ノタメニ議會ヲ開クト云フヤ
ウナコトハ決シテ出來ナイ(守屋此助君)數千萬兩使ッタラドウナサル)ト呼
フ)其時ニハ格別ノ事、ソレハ德義上ノコトダ(止メロ止メロ)ト呼フ者アリ)
斯ウ云フ場合ノ上カラシテ考ヘ起スト云フト、ドウシテモ此剩餘金ヲ支出シ
タト云フコトハ憲法違反ナドトハ見エナイノデアアル、私ニハ言ヘナイ、
ドウシテモ……(君ノ學問デハ見エナカラウ)ト呼フ者アリ)ダカラ是ダケノ
コトヲ言フテ置キマス

(討論終結)ト呼フ者アリ)

(贊成々々)ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 通告ガアリマスガ、討論終結ノアル以上ハ決議ヲ採リ
マス、討論ノ終結ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 多數、決議ヲ採リマスル、決議ヲ採リマスル前ニ諸君
ニ御注意申シテ置キマスル(ハイ)ト呼フ者アリ)規則ノ精神慣例ヨリ原案ニ
承諾ヲ與ヘルト云フ積極的ヨリ決議ヲ採リマスガ規則ノ慣例デゴザイマス、
委員會ノ承諾ヲ與ヘヌト云フノハ此場合ニハ起立ヲシナイノデアアル、原案贊

成ノ方カラ決議ヲ採リマス（原案ハどちらデス）ト呼フ者アリ（原案ハ政府案
政府案ニ承諾ヲ與ヘルト云フ方ニ就イテ決議ヲ採リマス、政府案ニ承諾
ヲ與ヘルト云フコトニ同意ノ諸君ハ起立
起立者 少數
議長（楠本正隆君） 少數
（拍手起ル）
（栗谷品三君「與ヘヌト解散スルゾエ」ト呼フ）

○石田貫之助君（百八十五番） 議長、發言ヲ求メマス
○議長（楠本正隆君） マダノ議事日程ノ第五ニ移リマス

第五 明治二十六年ニ於テ中央備荒儲蓄金ヲ以テ
豫算超過支出ノ件（政府提出）

（特別委員
長報告）

○議長（楠本正隆君） 江原素六君
○江原素六君（二百三十四番） 甚ダ粗漏ナコトヲ致シマシテ、前ノト二項ヲ
合セテ……

（「省略シ給ヘ」ト呼フ者アリ）
（「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル）

○井上角五郎君（二百二十番） 此第五ノ議事日程ニ就イテ發言ヲ求メマス
○議長（楠本正隆君） 宜シイ、井上角五郎君
（井上角五郎君演壇ニ登ル）

○議長（楠本正隆君） 石田貫之助君ハ原案ニ反對ノ方デスカ
○石田貫之助君（百八十五番） 第五ノ問題ニ就イテデハアリマセヌ
○議長（楠本正隆君） ヲレデハマダ通告ガアリマス、重岡薫五郎君
（井上角五郎君演壇ヲ降ル）

（井上君ヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ）
（「大忠臣カラヤッテ、ツレカラ小忠臣ガヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ）

○議長（楠本正隆君） 重岡薫五郎君ヤリマス
（井上君ニ譲リ給ヘ」ト呼フ者アリ）

○井上角五郎君（二百二十番） 私ニ譲リマシタ
○議長（楠本正隆君） 井上角五郎君
（井上角五郎君演壇ニ登ル）

○井上角五郎君（二百二十番） 此問題ニ就キマシテ私が演説シマスノハ、既
ニ此議場ニ於テハ徒勞ニ屬スルコトハ能ク承知シテ居リマス、前ノ問題ト
第四ノ議事日程ト第五ノ議事日程ト比較シテ見マスルト、滿場諸君ノ
認ムル所ニ於テハ第四ガ既ニ委員ノ説ニナリマシタ以上ハ、第五モ亦承諾ス
ベカラズト云フコトニ決スルコトハ分ツテ居リマス、併ナガラ此際私共三
四ノ者ガ——三百人中僅ニ三四ト云フ此言葉ヲ以テ現サナケレバナラヌト云
フ少數ノ者ガ、茲ニ於テ承諾スベシト云フ議論ヲ出スノハ果シテドンナ趣意
デアルカト云フコトヲ唯茲ニ表明シテ置キマス、極ク簡單ニ表明シテ置ク、之
ヲ表明シマスルニハ何ヲ以テ言フカ、固ヨリ贅辯ヲ費シマセヌ（野平樓君
「君ノ如キ忠臣ナキヲ如何セン」ト呼フ）君ハナンドラウ——憲法第六十四條
ノ「豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出」ト云フ此意味ハ反對者
ノ意見ヲ代表スルモノト認メテ宜シイ所ノ加藤政之助君ガ曰ク、會計法第三

條ノ「本年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ——」各年度ニ於テ決定シ
タル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ニ充ツルコトヲ得ス」トアリ
マス、定額ガ極ツテ居ル、定額外ノ金ヲ使ヘヌ、ツレハ則チ平常ノ話、ツレ
カラ又第十二條ヲ引出シテ來テ「國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額
ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス」ト斯ウアルカラシテ定
額外ノ金ヲ使フ譯ニハ往カヌ、又モ此六十四條ノ比較ニ違ヒハシマセヌカ
（加藤政之助君「ツレハ江原君ノ議論デ濟ンダ後デカラ……」確メルハ當リ
前「ト呼フ）六十四條ノ議論ヲ證明スルニ此二條ノ引キヤウハ違ヒハシマセヌ
カ、若シ法律ガ憲法ノ解釋ヲ確メルモノトシマスレバ、會計法第六條ニドウ
書イテアルカ（耳ガ曲ツテ居ッテハ困ル）ト呼フ者アリ（歳入歳出ノ總豫算ハ
之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ是ヲ款項ニ區分シナケレバナラヌト書
イテアル、必ズ豫算ト云フモノハ款項ニ分ツテ之ヲ區分シナケレバナラヌト書
イテアル、其次ノ第七條ニ於テ「豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ
第一豫備金第二豫備」此第一豫備第二豫備金ハ如何様ニ豫算ニ出デ居ルカト
云フニ、大藏省ノ部デ確定シテ居ルデハナイカ、會計法ガ憲法ノ解釋ヲ證明シ得
ルナラバ、憲法第六十四條ノ豫算ノ款項ニ超過シト云フノハ、即チ豫備費マ
デ籠メテ豫備金マデ籠メテ、豫備金ノ款項ノ内ニアル豫備金マデ籠メテ、
併ナガラ憲法ヲ解釋スルニ會計法ヲ以テ之ヲ確メ得ルヤ否ヤト云フニ、私共
ハ會計法ハ憲法ヨリ重シト言ハヌヲ以テ之ヲ確メ得ルヤ否ヤト云フニ、私共
タル會計法ハ第三條第十二條ノ引證ヲ以テ此解釋ヲ確メントスルナラバ、第
六條ヲ如何ニスベキカ、即チ豫算ノ款項ニ超過シト云フコトヲ以テ剩餘金
ヲ以テ支出シタルハ少シモ差支ナイ話デアル、又如何ニモ憲法ト云フモノハ
大切ナモノデアル、鬼神ノ如シ、加藤君能ク言ハレタ、此憲法ノ御研究ハ伊
藤伯ガ嘗テ拵ヘテ憲法ヲ解ノ外ハ加藤君ニ於テハ御研究ガナカッタト見エテ如
何ニモ憲法ヲ解ハ能ク御暗誦デアル、憲法ノ六十四條ノ註釋ニハ豫備費ナル
モノハ第六十四條第二項ノ場合ニ於テ設ケル、勿論サウデアル、ツレデ宜イ
ケレドモ、此豫備費ト云フモノハ大概此位金ガアレバ通常ノ場合ニ豫備費ニ
充テルニ足リル、即チ六十四條ノ第二項ノ場合ニ設ケテアルケレドモ、あ
ハ之デナイ、豫備金ガ餘ツタ、足ラナケレバ他ニ金サヘアレバ持ツテ來テ出
ス用意ノ金、此間丁度昨年ノ夏ニ加藤君ハ私ト北海道ニ偶然一緒ニ往ツテ歸
路デアッタ、能ク御考ナサイ、用意ノ金ト云フモノハ人ハ大概ツレ相應ニ持ツ
モノデ足ラナクナルト、途中デ借リテ來ル、加藤君據處ナイダラウ、用意
ノ金ヲ以テ旅行ヲスレバ、途中デ借リルコトハナイガ、ツレダッテ病氣ガアッ
タラドウスル、ツイ誤ッテ二日遊ンダラドウスル（ツレハ一個人ノ用意
ノ金ダト呼フ者アリ）一個人然リ一國然リ、一家然リ、總テ同ジ、然ル
ニ憲法ヲ解ノ豫備費ノ此項ノ金ニ充ツルノデアルト云フカラ、其以上ノ金ハ
使ヘナイト云フコトデアルト云フガ如キハ、實ニ困ツタ話ト思フ、ツレカラ
更ニモウ一ツ進ンデ加藤政之助君ガ如何ニ言ハレタカ、此政府ハ一度ナラズ
二度マデ憲法違反ノ處置ヲシタト言ハレタ、加藤君能ク記憶ナサイマセ（笑
聲起ル）此前ノ豫算外支出ノ事後承諾ノ事件ハ議會ハ立派ニ協賛ヲ與ヘテ居
リマス（加藤政之助君「第四議會デハ與ヘナイ」ト呼フ）憲法違反ノ處置ヲ二

度マデ爲シタル云ツテモ、其當時ノ人民ヲ代表シタル議會ハ承諾ヲ與ヘテアル(加藤政之助君)第四議會ハ與ヘナイト呼フ又「サウ忘レテハ仕方ガナイ」ト呼フ者アリ決シテツレハ問題ニナツテ居ラヌ、ツレデアルカラ一度ノミナラズ、二度ト云フガ如キコトヲ以テ之ヲ論ズルト云フノハ間違デアルト思フ、併ナガラ事既ニ議場ノ大勢ヲ以テ徵スベキ此問題ニ就イテ私ハ彼此ハ申シマセヌ、又今日ハ此後ノ問題ニ就イテ諸君ガ何カトナク憲法ヲ誤ツテ解シ、何カトナク動モスレバ一國ノ政機ヲ妨ゲルコトニ付イテハ論ズベキ時ガアラウカラ、コレダケ申述ベデ置ク

○議長(楠本正隆君) 板倉中君
(討論終結)ト呼フ者アリ

(板倉中君演壇ニ登ル)

○板倉中君(二百二十九番) 勿論此問題ニ就イテ議論スル必要ハナイト考ヘマシタガ、有名ナル井上君ガ何時モ隣ニ居テ色々やまゝい事ヲ仰セラレラカ、止ムヲ得ズ憲法ノ問題デハアルシ、旁々一言井上君ノ論ヲ駁シテ置ク、此問題ノ即チ憲法違反デアルト云フコトハ苟モ憲法ヲ通観スレバ明デアラウト思フ、何カ伊藤伯ノ憲法義解トカ何トカ云フ論ガ澤山出マシタガ、左様ナル者ニ據ルニ及バナイ、所謂經ヲ以テ經ヲ解スル如ク、憲法ヲ以テ憲法ヲ解シテ明デアアル、誠ニ法律ヲ以テ憲法ヲ解シテ誠ニ明デアアル、憲法第六十四條ニ「豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス」トアリマスノハ則チ夫ノ會計法ノ第七條ノ豫備費ヲ以テ之ヲ遣ツタ所ノモノヲ承諾ヲ求ムル意味タルコトハ誠ニ明デアアル、何トナレバ彼ノ豫備費ナルモノハ憲法第六十九條ニ避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フタメニ、又ハ豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツタルタメニ豫算ノ外ニ生ジタル避クベカラサル費用ニ充ツタルタメニ豫備費ヲ設クベシトアル、而シテ會計法第七條ノ豫備金ハ第一豫備金ハ云々、第二豫備金ハ豫算外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス、所謂豫算外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツタルタメニ豫備費ヲ設ケテアル必要ノ生ジタル場合ニ豫算ノ外ニ生ジタル支出アルトキハ、憲法第六十四條ノ二項ト文章モ文字モ同一デアアル、斯様ナ場合ニ於テハ即チ豫備費ヲ遣ヘバ事後承諾ヲ求ムルコト云フコトハ必要デアアル、法律ト法律ト互ニ照合シテ明ニ分ツテ居ル話デゴザリマス、若モ他ノ諸君ノ論セラレタル如クニ彼ノ必要ナ場合ガアツテ法律ヲ執行シ、政機ヲ運轉スルコトガ出来ヌ時分ニハドウスルト云フコトヲ言ハレテ居ル、即チ是レ憲法第四十三條ノ有ル所以デアアル、必要ナ場合ニ於テハ緊急ナ場合ニ於テハ帝國議會ヲ召集スルガ宜イ、若モツレモ間ニ合ハナケレバ是レ實ニ止ムヲ得ヌ場合デアアル、ツレ等ノコトノ豫メ豫備ヲシテ間違ナイタメニ豫備金ト云フモノヲ第一第二ニ分ケテ豫メ設ケテアルカラ、決シテツレ等ノ事ニハ頓著ナイノデアアル、其豫備ヲ爲シテモ尙ホ間ニ合ハヌト云フノハ實ニ止ムヲ得ナイ話デアアルケレドモ、其場合ニ於テハ緊急ノ場合ニハ帝國議會ヲ召集シテ之ヲ爲スニ就イテ決シテ差支ナイ筈デアアル、憲法法律皆相照シテ此精神ヲ明ニ出シテアルニモ拘ラズ、井上君及小島君等ノ誤解アリ、此諸君ハ誤解ガアツテモ宜イガ、堂々タル我帝國ノ内閣大臣ニシテ斯ノ如キ間違ヲ爲シテカラニ、斯ノ如キ曲解ヲ爲シテ將來ニ於テモ爾後ノ政ヲ爲スニ我儘ナ

ル便利ナルコトヲ爲サント試ミタノハ、甚ダ本員ノ憤慨ニ堪ヘヌ所デゴザリマス、因テ一言茲ニ申シマス

(討論終結ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 決議ヲ採リマス、決議ハ先例ノ通り原案ニ承諾ヲ與ヘルト云フコトニ就イテ決議ヲ採リマス、政府案ニ承諾ヲ與フルニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數、次ハ第六ニ移リマス

○安東九華君(四十二番) 此際緊急動議ヲ提出シタイ

○石田貫之助君(百八十五番) 私ハ此際ニ於テ議事日程ノ變更ヲ請ヒタイ、先決問題

○議長(楠本正隆君) 政府案ガゴザリマスガ

○石田貫之助君(百八十五番) 其前ニ

○議長(楠本正隆君) 政府ニ同意ヲ求メマスガ

○石田貫之助君(百八十五番) 左様、第四ノ問題ニ就イテ即チ當議會ニ於テ決定致シタイカラ 第六ノ問題ノ政府案ノアルコトハ知ツテ居リマスルケレドモ、此處デ先決問題トシテ決議シテ政府ノ同意ヲ求メタイ

(後トニシテハドウデス)ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 何ニ就イテ同意ヲ求メマスガ、何ニ據ツテ日程ノ變更ヲ求ムルノデアリマスガ

○石田貫之助君(百八十五番) 議事日程ノ變更ノ旨意デゴザリマスガ

○議長(楠本正隆君) 左様

○石田貫之助君(百八十五番) ツレハ此第四ノ議事日程デゴザリマスル、剩餘金支辨ノコトニ附キマシテ、本員ハ即チ憲法違反事後ノ承諾ヲ與ヘヌト云フコトニ決シマシタ、決シタルニ就イテ私ハ一ノ問題ヲ提出シテ、當院ノ決議ヲ望ムデゴザリマス

(角田眞平君「ドウ云フ問題デス」ト呼フ)

○議長(楠本正隆君) 贊成ガアリマスガ

(贊成々々)ノ聲起ル

(問題ガ分ラヌ)ト呼フ者多シ

○議長(楠本正隆君) 問題ガ分ラヌト云フ聲ガ多イ、登壇ヲ促シマス

(石田貫之助君演壇ニ登ル)

○石田貫之助君(百八十五番) 私ガ今此處デ議題ノ變更ヲ求メテ決議ヲ致シタイト云フノハ一應讀上ゲマシテ申シマス、是ガ簡便デ宜カラウト考ヘマス、其事ハ

剩餘金支出ニ對スル決議案

本院ハ既ニ明治二十七年三月政府カ水害補助費トシテ剩餘金ヲ支出シタルモノヲ以テ憲法ニ違反シ且ツ事實上ニ於テ不當ナリト決セリ因テ内閣大臣ハ其責ニ任シ自カラ處決スル所ナカルヘカラス 茲ニ之ヲ決議スト云フノデゴザリマス(拍手起ル)ツレデ私ハ此旨意ダケヲ唯一言申スノデゴザリマス、既ニ帝國議會ノ下院ニ於キマシテ事後ノ承諾ヲ與ヘヌト云フコト

ニナリマシタナレバ、此承諾ヲ與ヘヌト云フコトニハ必ズ制裁ガナケレバナ
ラヌコトデアアル、唯承諾ヲ與ヘヌト云フコトニハ此局ガ無カッタナラバ、所謂
報告のモノニ成ツテ仕舞フノデアアルト云フ趣意デゴザリマス、何レ問題ニ
ナリマシタナラバ其委細ハ詳細ニ陳辯スル積デアリマス

○新井章吾君(十一番) ちよつと石田君ニ相談ヲ致シマス、此緊急動議ハ第
六第七ノ議事日程ガ終ツテカラニ致シタラ如何デス、政府ノ同意ヲ求メルニ
時間ヲ費スハ無駄デゴザリマスカラ、是ハ其第六第七ノ議事日程ヲ終ツテ後
ニ御廻シニ成リタイ(ひやく)ト呼フ者アリ又「其方ガ宜シイヨ」ト呼フ
者アリ)満場ノ諸君ガコレデモ宜イト仰シヤレバ達テハ申シマセヌ、唯決議
ヲ致シマシタ際デアアルカラ、是ガ順序デアアラウト思ヒマス、併シ是ハ達テ申
ス譯デハゴザリマセヌ

○石田貫之助君(百八十五番) ツレデハ諸君私ハちよつと一言シタイノデ
ゴザリマスガ、唯今政府ノ同意ヲ求メルハ面倒シ、後トニ廻シタラ宜カラウ
ト云フ御請求ジャアナイ、御忠告モゴザリマス、私モ敢テ前後ヲ爭フ譯デハ
ゴザリマセヌデ、其政府案ノ決議ヲ致シマシタ後ハ直ニ之ヲ問題ニ付セラレ
ンコトヲ御約束申シテ後トニ廻スコトニ致シタイノデアリマス

○議長(楠本正隆君) 唯今石田君ノ動議ハ見合セニナリマシタニ依ッテ第六
ノ議事日程ニ移リマス、朗讀ヲ省キマス、大藏大臣渡邊君

第六 紙幣模造取締法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

紙幣模造取締法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ依テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也

明治二十七年五月二十八日

衆議院議長楠本正隆殿

(原字ノ塗抹ニ係ルモノハ字傍ニ「」ヲ附シ其修正ハ「」ヲ附
シ新ニ増加シタル文字ニハ「」ヲ附ス)

紙幣模造取締法

第一條 政府發行紙幣日本銀行兌換銀行券國立銀行發行紙幣ニ紛ハシキ外
觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ニシテ製造者又ハ販賣者以外ノ者ノ所有持
ニ屬ス係ルモノハ警察官ニ於テ之ヲ沒收スルコトヲ得

「第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス」
(大藏大臣渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(渡邊國武君) 唯今議ニ付セラレタ紙幣模造取締法案ハ別ニ込
入ツタコトハナイ、近來紙幣ヲ模造スル品ヲ作ッテ人ヲだます徒ラ者ガ多イニ
依ッテ之ヲ取締ル必要ガアツテ提出致シマシタカラ、成ルベク速ニ協賛セラ
レンコトヲ希望シマス

○草刈親明君(百四十番) 一寸質問ヲ致シマス、是ハ大變ニ法律上ニ關係係

有スルコト、信ジマスカラ、一寸質問ヲ致シマス、政府ハ紙幣模造——模造
紙幣ト云フモノハドノ邊マデ言フノデゴザリマス、則チ此項模造紙幣ト
云フモノガ澤山ノ種類ガゴザリマシテ、五圓ノ紙幣ノ何所モ變リマセヌデ、
圓ノ字ヲ圖ノ字ニ直シタモノガアリマス、僅ニ一字直シタダケデアアル、サウ
云フモノマデ模造紙幣ト稱スルモノト云フ御考デゴザリマス、即チ此模
造紙幣ト云フモノ、範圍ヲ承ッテ置キタイ

○議長(楠本正隆君) 渡邊君

(大藏大臣渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(渡邊國武君) 全ク同ジモノデアリマスレバ偽造トナルガ、壹圓
ト書クベキヲ一圖ト書キ日本銀行ト書クベキヲ日本銀行ト書イタノガアル、
サウ云フノ模造ト稱スルノデアアル、

○草刈親明君(百四十番) ツレデハ一箇所デモ違ツタモノ即チ紙幣ニ對シテ
見テ一字一箇所デモ違ヒマシタ所ハ、直チニ之ヲ模造紙幣ト言ハレマス、カ
○大藏大臣(渡邊國武君) 紙幣ニ類似シテ人ヲだましテ徒ラノ出來ルモノ總
テ……

○草刈親明君(百四十番) ソコデだまサレル人ノ程度ニ依ッテ是等ノコトハ

○議長(楠本正隆君) 第七ニ移リマス

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

「議長指名」ト呼フ者アリ「贊成々々」ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 指名ニ異議ガアリマセヌカ

「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○安東九華君(四十二番) 一寸此際緊急動議ヲ提出シテ議事日程ノ順序ヲ繰
上ゲタイト思ヒマス、ちよつと差支ヘルコトデゴザリマスカラ

○石田貫之助君(百八十五番) 私ハ先刻議事日程ノ變更ヲ求メマシタガ、政
府案ガアルト云フコトデアリマシタカラ私ハ控ヘマシタガ、此際ニ其先決問
題ヲ提出致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) アレデ宜カラウト思ヒマス、決議ヲ採リマス、石田君
ノ提出ノ動議ニ掛ル議事日程ノ變更ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 多數——議事日程ハ變更サレマシタ

剩餘金支出ニ對スル決議案

○初見八郎君(九十二番) 此議事日程ノ變更ヲ許サレタニ就キマシテ、私ハ
是ニ一ノ緊急問題ヲ出シタイト思ヒマス、既ニ提出シタル問題デ議長ノ手
許ニ提出ニナツテ居ル問題デゴザリマス、之ヲ議スヤウニ願ヒマス

○議長(楠本正隆君) ツレハ……

(石田貫之助君演壇ニ登ル)

○石田貫之助君(百八十五番) 諸君、私ガ今提出致シマシタ問題ハ先刻議事
日程ノ變更ヲ求メマス際ニ讀上ゲマシタ次第デゴザリマス、故ニ茲ニ又再ヒ

讀上ゲルコトハ却ッテ時間ヲ費シマスカラ省ク次第デゴザリマス、偕テ此内閣大臣ハ其責ニ任ジ自ラ處決スルコトガナカルベカラスト云フコトヲ決議スルノデゴザリマスガ、私ハ考ヘルノニ此事後ノ承諾ト云フモノハ餘程重キ事柄デアアルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデゴザリマス、ソレデ豫算或ハ法律ノ問題ニ於テ政府ガ提出ヲ致シテ議會ニ否決ヲサル、ト云フ事後ノ承認ト云フコトハ尙ホ一層重キ事柄デアアルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアアル、ソレハ何故ナレバ既ニ施行後ニ係ルコトデアアル、支拂後ニ係ルコトデアアル、若シソレガ豫算デ仕拂ヒセヌトナレバ、其執行ヲ停メルコトガ出來ル、然ルニ是ガ支拂後デアアルカラ以テ其責任ガ最モ重キ事柄デアアル、喩ヘテ言フテ見ルナラバ、玆ニ或ル人間ヲ斯處刑ニ行ハシム、斯通リノ嚴刑ニ處センカト云フコトヲ問題ニ附スル、サウシテ其問題ガ否決シマスレバ其人間ハ死刑ニモ處セラレズ、嚴刑ニモ處セラレズ、斬罪ニモ處セラレヌノデゴザリマス、然ルニ此事後ノ承諾ナルモノハ其人間ヲ死刑ニ處シ、嚴刑ニ處シ、或ハ斬罪ニ行ツテ偕テ斯ウシテ施行後デアアル、則チ承諾ヲ求ムルト云フノデゴザリマスカラ、其死刑斬罪ニ行ツタ人間ハ最早首ハ戻ラナイ、其生命ハ如何ニシテモ全クスルコトハ出來ナイ、則チ其事後ニ至ツテノ責任デアアル、若シソレガ既往デナクシテ其際ニ問題ニ附シテ、其可否ヲ問フタナラバ其人間ヲ殺サイデモ宜シイモノヲ殺シタト云フコトニナルノデアアルカラ以テ、所謂藏出ノコトニ就キマシテモ事後承諾ト云フハ餘程重キコトデアアル、之ニ承諾ヲ與ヘヌト云フコトニナリマスルナラバ、迦ッテ之ヲ豫算デ支出スルト云フナラバ、其豫算ニハ吾ヒハ協賛ヲ與ヘヌノデアアッタノダ、固ヨリ此事柄ハ中ニハ事實ニ於テ已ムベカラザルモノモアルケレドモ、兎ニモ角ニモ事後承諾ト云フコトハ前ニ言フ通り輕々ニ附スベキ事柄デナイト固ク信ズル、サスレバ此不承諾ト云フコトニ就イテ結局歸スル所ガナケレバナラヌ、歸スル所ハ何デアアルカト云フタナラバ、他ニ法ハナイ、之ヲ施行シタル者則チ内閣大臣ガ其責ニ任ズルノガ當然デ、其由ヲ他ニ求ムルコトハ出來ナイ譯デアアルト信ズル、ソレデ大體憲法ノ性質カラ事實上カラ言フテ見テモ、謂ハハス様ナ決議ト云フモノハ私ハ必要デナイト考ヘルノデアアル、何トナレバ今申ス通り承諾ヲ與ヘタ時ニ於テハ其責任ノ歸スル所ガナケレバナラヌ、其通りヲ行ヘバ是ハ無用デアアルノデアアル、然ルニ我立憲政體ニ於テ惜ムベキ哉慨クベキ哉斯様ナル決議ヲ要スルト云フコトヲ私ハ信ズルノデアアル、何故トナレバ是迄事後ノ承諾ヲ求メテ來テ不承諾ヲシタコトガアル、則チ承諾ヲ與ヘナイコトガ此帝國議會ニ於テアルノデアアル、然レドモ承諾ヲ與ヘヌト云フ決議ヲシタニモ拘ラズ、其内閣大臣ハ何時モ責任ヲ負フタコトガナイ、所謂退職シタル者ガナイ、事玆ニ至ツテハ止ムヲ得ズ此帝國議會ノ下院ハ此決議ヲ致サナケレバナラヌト云フ場合ニ遭遇致シタノデアアル、若モダ是ガ不承諾ト云フコトデ、政府ガ責任ヲ負ハナイ、議會又之ヲ不問ニ措クト云フコトデアリマスレハ、即チ事後承諾ト云フモノハ報告ト云ツテ可ナリデアアル、決シテ左様ナ事柄デナイト思フガタメニ本員ハ之ヲ決議シテ以テ斷然内閣ニ對シテ處決スル所アラントコトヲ望ムト云フ所以デアリマス、諸君幸ニ御賛成アラントコトヲ望ミマス

○元田肇君(百八十四番) ちよッ御尋申シマスガ、一昨二十九日デアリマシタガ、彼ノ初見君外一兩名ヨリ國庫剩餘金支出ニ關スル決議案ガ出テ居リマスガ、ソレトハ大變趣意ガ違フノデゴザリマスカ

○石田貫之助君(百八十五番) アレハ拜見致シマシタ、大體ハ多分違ヒアリマセヌ、併シ其文中ヲ拜見致シマスト是ト性質ノ違フ所ガアル、性質ト云フヨリハ寧ロ事實ニ於テ少シ違フ所ガアルノデゴザリマス

○元田肇君(百八十四番) 文字ガ違フノデゴザリマスガ

○石田貫之助君(百八十五番) 文字ハ違ヒマスガ、大體ノ趣意ハ違ハヌノデゴザリマス

○初見八郎君(九十二番) 議長

○議長(楠本正隆君) 質問デスカ

○初見八郎君(九十二番) 質問デハアリマセヌ

○議長(楠本正隆君) 登壇ヲ……

(初見八郎君演壇ニ登ル)

○初見八郎君(九十二番) 唯今石田貫之助君カラ餘剩金支出ニ關スル決議案ト申ス動議ガ起ツデアリマス、私ハ之ニ對シテ嘗テ餘田榮吉君木村誓太郎君ト私ト三名デ曾テ提出シテ置イタ所ノ國庫剩餘金支出ニ關スル決議案ト申ス議案ヲ以テ、此今日出タ所ノ石田貫之助君ノ提出ニ係ル議案ノ修正案ト致シタイト考ヘマス、其理由ハ別段爰ニ説明スル必要ハゴザリマセヌガ、唯嘗テ吾ノ提出致シマシタ所ノ決議案ガ最モ此事項ニ應ズル所ノ文案デアアルト考ヘマスカラ、此決議案ヲ以テ修正致シタイト考ヘマス

○藤野政高君(八十九番) 初見君ニ御尋致シマスガ、先刻委員ノ報告ノ決シタ中ニ事實上甚ダ不當ト認ムト云フコトガアル、然ルニ殊更ニ此文字ヲ此中ニ入レヌト云フノ事實上不當ト御認ニナラヌノデアアルカ、認メラレデモソレハ責任ニ任ジナイデモ宜シイト云フ御考デアアルカ、其點ヲ伺ヒタイ

○初見八郎君(九十二番) 是ハ事實上不當ト認ムルト云フコトハ此決議案ヨリ削除シテ適當ト云フ考デゴザリマス、何故サウ云フ考カト云ヘバ、此決議案ト云フモノハ元來憲法ヲ重ンズル精神カラシテ出タモノデアアル、事後ノ承諾ヲ與ヘルト與ヘヌト云フコトニハ關係ガナイノデ、事實ノコト、云フモノハ其時々ニ變ルモノデアアル、事實ハ事實デ承諾ヲ與ヘルトカ與ヘヌトカ其時ノ問題トシテ宜シイモノデアアル、併ナガラ此憲法ト云フモノハ最も大切ノモノデアアルト云フ事實トハ又違フモノデアアルカラ、殊ニ憲法ニ關シテ決議スルモノデアアリマシテ、事實上不當ト云フコトハ別ニ決議ヲ要セヌト云フノデアアリマス

○藤野政高君(八十九番) サウスレバ此決議案ヲ出サレタノハ、先ノ即チ委員ノ報告デアリタノニハ據ラナイト云フコトデアリマスカ

○初見八郎君(九十二番) 委員ノ報告ニ據ツテ此決議案ヲ出スト云フ譯デアナイ、併ナガラ順序ハ委員ノ報告ヲシテ後ニ此決議案ヲ出スノガ順序デアアルカラシテ、玆ニ修正ヲ加ヘルノデアアル、併ナガラ事柄ハ委員ノ報告ト此決議案ト云フモノハ全ク別デアリマス、委員ノ報告ハ事實ニ就イテ承諾ヲ與ヘルヤ否ヤト云フノガ問題トナツテ、ソレヲ與ヘナイト決シタノデアアル、是ハ憲法ニ違反シタト云フコトヲ主眼トシテ、其決議ヲ——ソレニ就イテ後來此惡例ヲ防カンガタメニ——憲法ニ違反スル所ノ惡例ヲ防カンガタメニ、玆ニ殊更ニ決議シテ置クノデアリマスカラ、全ク違ヒマス

○吉本榮吉君(二百三十三番) 提出者ニ伺ヒマスガ、今石田貫之助君——出

サレタ案ニ對シテ修正ヲ加ヘルト云フトキハ、其石田君カラ出サレタノガ惡ルイ、故ニ是ヲ修正シタイト云フコトデナケレバナラナイ、何所ガ惡ルイト云フコトヲ……

○初見八郎君(九十二番) 唯今申シマシタガ、御分リニナリマセヌカ、ドウカ能ク御聽キ下サイ、是ハ唯今ドナタデシタカアチラヘモ答ヘマシタ通リ(無用々々)呼フ者アリ)ドウゾ答辯ヲシマス中ハ御靜ニ願ヒマス、御靜ニナサラヌト分リマセヌ

○議長(楠本正隆君) 諸君、石田貫之助君ノ提出ニナタル議案ヲ朗讀シ、初見君ノ修正ヲ朗讀シマス

(水野書記官長朗讀)

本院ハ既ニ明治二十七年三月政府カ水害補助費トシテ剩餘金ヲ支出シタルモノヲ以テ憲法ニ違反シ且事實上ニ於テ不當ナリト決議セリ因テ内閣大臣ハ其責ニ任シ自ラ處決スル所ナカルヘカラス茲ニ之ヲ決議ス

提出者 石田貫之助

(モウ一遍)「ト呼フ者アリ」

(水野書記官長朗讀)

本院ハ既ニ明治二十七年三月政府カ水害補助費トシテ剩餘金ヲ支出シタルモノヲ以テ憲法ニ違反シ且事實上ニ於テ不當ナリト決議セリ因テ内閣大臣ハ其責ニ任シ自ラ處決スル所ナカルヘカラス茲ニ之ヲ決議ス

提出者 石田貫之助

○議長(楠本正隆君) 修正案

(水野書記官長朗讀)

明治二十六年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算ノ不足及豫算外ニ生シタル費途ニ充用シタルハ憲法ヲ無視シタルモノナリ依テ本院ハ内閣大臣カ其違憲ノ責ニ任スヘキモノト決議ス

○木村哲太郎君(二十二番) ちよと石田貫之助君ニ質問ヲ致シマスガ、石田君ノ御提出ニナリマシタル文面カラ考ヘマシタル、憲法違反ト申サレマスノハ唯二十七年三月ニ水害費トシテ支出サレタモノニ限ルト云フ御意見デアリマセウカ、本員等ガ豫メ前ニ提出致シタル居リマスル憲法違反ノ決議ヲシヤウト云フノハ、總テ豫備費外ノ金ヲ支出シタルモノハ則チ憲法第六十九條ノ精神ニ違フモノデアリマシテ、皆違反ト認メルノデアリマスガ、石田君ニ於キマシテハ唯二十七年三月支出ニナリマシタル所ノ水害ニ限ッテ違反デアルト云フノ御意見デアリマスガ、ツレヲ一應御尋致シタイ

○石田貫之助君(百八十五番) 二十三番ニ御答致シマスガ、剩餘金ノ支出ト云フモノハ先刻特別委員長カラ報道致サレマシタ通り、拙者ニ於キマシテモ悉皆違反ナリト信ジテ居ルノデゴザイマス、而シテ茲ニ決議ノ即チ水害ト云フコトニ就イテ、且ツ事實上ノ不當ナリト記載シ以テ決議ヲ要スルコト云フコトハ、多少茲ニ意見ガアルノデゴザイマス、ツレハ大體此事後ノ承諾ト云フコトニ致シテ、承諾ヲ決議シタナラバ、即チ之ニ制裁ガナカサネバナラヌト云フコトハ、今更申ス事柄デハナイト私ハ信ズル、然ルニ此第三期及第四期ニ於テ事後ノ承諾ヲ求メマスルニ就イテ、政府ガ申シマスル所ハ大體憲法ニ違反シタルモノデハナイ、先刻大藏大臣モ述べラレマス如ク支出ヲセラレヌト云フ禁止ノ箇條モナイ、又之ニ依ッテ支出スルト云フ箇條モナイ、唯此事後

ノ承諾ト云フコトハ憲法第六十四條ノ第二項ニ示シテアル、事實止ムヲ得ザルトキニ於テハ政府ノ義務トシテ是非シナケレバナラヌト云フ事柄デアルト云フコトハ信ジテ居ル、且ツ憲法ニ抵觸ヲセヌト云フデアリマス、ツコニ於テ此水害費ニ彼レ即チ内閣大臣ノ言フ所ノ意志ニシテ、調査ヲ致シマスン云フト、即チ止ムヲ得ヌト云フコトハ言ハレナイノデアアル、實ニ憲法ヲ重シ帝國議會ヲ尊重シマスルナレバ、決シテ此水害費ニ於キマシタル殊ニ殆ド六百萬圓ニ近イ云フ大金ヲ支出シマスルニ就イテ、斯様ナ違反ナル處置不當ナル所置ヲセヌデモ事業ニ妨ガナイト云フコトハ本員ハ信ジテ居ルノデアリマス、ツレハ何カト申シマス、此水害事件ハ岡山ニ於テハ明治二十六年ノ八月、他ノ縣ハ明治二十六年ノ十月デゴザイマス、デ最早其當時ニ於テ金額コト確定致シマセヌガ、昨年ニ於テモ……政府ノ方ニ補助金ヲ要求致シタコトデアアル、實ニ大層ナ金額デアアル、然レバ此政府ガ帝國議會ヲ大事件ガアツタト云フテ解散後ノ議會ヲ早ク開キマシタナラバ、多少ノ餘地ヲ與ヘテ……四月中旬ニ此帝國議會ガ開ケネバナラヌノデアアル、然ルニ又一方ヲ調ベマスモト云フト、殆ト六百萬圓ノ金額デ三月三十一日マデニ支拂命令ヲ出シタルモノハ二十九萬五千七百八十四圓デゴザイマス、而シテ中央政府カラ支拂命令ヲ出シタルモノハ此通リ、而シテ又各府縣ヨリ現金支拂ヲ四月末日ニ致シマシタルガ則チ三萬九千二百二十四圓五錢二厘、ツレヲ則チ唯今申ス通り四月中旬ニ此帝國議會ヲ開キ、四月三十日マデニ殆ト六百萬圓ノ中ヲ現金支拂ヒマシタルガ三萬九千九百九十九圓ノデアアル、既ニ然リトセバ帝國議會デ立派ニ協賛ヲ經テ以テ支出ガ出來ル、第三期以來彼ノ唱フル所ハ即チ事實上止ムヲ得ヌトキニ於テハ政府ハ國家ニ對スル責任トシテ支拂ハナケレバナラヌト云フコトヲ言フノデアリマス、ツレニ至ッテハ責任トシテ差支ナイ、サスレバ如何ニ政府ガ茲ニ至ッテ責任ノ歸スル所ハ彼レ一步譲ッテモ、彼ハ通辭ヲ設ケルコトハ出來ナイ答デゴザイマス

○工藤行幹君(百四十五番) 私ハ石田君並ニ初見君ニ質問ガゴザイマス、ト云フモノハ其趣意ハ同シコトデアアル、唯文字ガ少シ違ッテ居ルガタメニ、雙方爭ツテ共倒レヨト云フ様ナコトバ宜シト思ヒマス、思フノデアリマシマス、故ニちよと是ガ變ッタルバ宜シト思ヒマス、思フノデアリマシマス、一應折合ガ附キマスマイカ、之ヲちよと御兩君ニ伺ヒマス

○川上源一君(百五十七番) ドウデスカ、私ハ是ハ委員ニ付託スルコトノ建議シマス、其委員ハ議長ノ指名ト云フコトニ致シタイ

(贊成々々)「ト呼フ者アリ」

○肥塚龍君(百八十二番) 唯今何番デゴザイマシタカ、百四十五番デゴザイマスガ、石田君ノ説トツレカラ初見君ノ説ノ趣意ガ同ジコトデ、唯文字ガ違ッテ居ルタメニ相爭フト云フ様ナコトガアツタハ、甚ダ遺憾デアルト云フコトヲ述ベラレタデゴザイマスガ、是ハ私ハ至極同意デアツタデモ此旨モ政府ニ責任ヲ問ヒタイ思フテ居ル矢先キデアアルコトガレドモ、僅ノ文字ノ差アルタメニ相爭フ兩方共ニ倒レタル様ナコトガアツタハ、遺憾ノコトデゴザイマス、唯今隣席ノ百八十五番ニ尋ネマスレバ、百八十五番モたいシタ異存ハナイト云フコトデゴザイマス、私ハ茲ニ於テ委員ヲ選ンテ委員ニ付託ヲサセテ、雙方折衷シテ一ノ完全ナルモノト致シテ此議場ヲ無事ニ通過サセタイト考ヘマスカラ、委員説ヲ提出致シマス、委員ハ議長ノ指名デ九名

(贊成々々)「ト呼フ者アリ」

○議長(楠本正隆君) 百八十二番ノ……

○議長(楠本正隆君) 百五十七番ガ出シテ居ル「ト呼フ者アリ」

○議長(楠本正隆君) 百五十七番ガ既ニ委員説ガ出テ居リマス

○議長(楠本正隆君) 御一名ノ御異議ガナカラヌケレバ、別ニ決ヲ採リマセ

○議長(楠本正隆君) 此委員ハ議長ノ指名ニシテ誰モ異存ハアルマイ

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

○議長(楠本正隆君) 指名ニ委託シテ委員説ニ決定セラレタモノト決シマス

田君ノ右手中指第三節之背面ニ深二ミリめーとる巾二ミリめーとるノ傷ヲ

負セ又右ノ耳ノ上方即チ顚頂部ニ腫起ヲ認メ之ヲ按ズルニ少シク血漿アル

ガ如キ感アリ其面少シク赤色ヲ呈ス

○綾井武夫君(十一番) 緊急動議ガアリマス、十一番ハ此處デ議事日程ヲ變

更シテ本日ノ日程第九ヲ議スルト云フコトノ緊急動議ヲ提出致シマス

○議長(楠本正隆君) 十一番ノ御説ニ係ル議事日程ヲ變更シテ上奏案ヲ議ス

ルト申ス

○議長(楠本正隆君) 異議ナクバ可定サレタモノト致シマス、議事日程ヲ

變更シマス

第九 上奏案

上奏案

衆議院議長臣楠本正隆誠惶誠恐謹

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

奏

恭ク

大詔ニ遵ヒ努メテ經綸ヲ行ヒ盡シ至誠以テ

天意ニ奉答セント欲スト雖モ閣臣ノ所爲既ニ斯ノ如シ常ニ和協ノ道ニ背キ

臣等ヲシテ默セシト欲シテ默大政實ヲ重責ヲ全フスル能ハサラシム

「此ヲ以テ臣等閣臣ニ信ヲ置ク能ハサルナリ今ニシテ之ヲ匡正セシム

臣等竊ニ恐ル憲政内ニ紊亂シ國威外ニ失墜センコトヲ是レ臣等カ默セ

ント欲シテ默スル能ハス敢テ赤心ヲ披瀝シ」

「閣下ニ陳奏スル所以ナリ仰キ願クハ

陛下天地覆載ノ恩ヲ垂レ臣民ノ輿望ヲ容納シ風霜嚴肅ノ威ヲ以テ閣臣ノ行

事ヲ戒飭シテ和協ノ道ヲ盡サシメラレハコトヲ數キ日月ノ照鑒ヲ垂レ

玉ハコトヲ衆議院議長臣楠本正隆誠惶誠恐謹ミ

奏ス

○議長(楠本正隆君) 上奏案ヲ議題ニ供シマスル、江原素六君

(江原素六君演壇ニ登ル)

○江原素六君(二百二十四番) 諸君、現内閣ノ行爲ニ對シテ本院ノ意志ヲ表

明スベキ議案ヲ起草セシムルタメノ特別委員會ノ經過、竝ニ結果ヲ御報道致

シマス、此委員會ハ五月十九日ニ委員長理事ノ互選會ヲ開キマシタ、委員長

ニハ江原素六君當選ニナリマシテ、理事ニハ高田早苗君デゴザリマシタ、ソ

レヨリ二十三、二十八、二十九ト云フ三日間審查會ヲ開キマシテデゴザリマ

ス、抑々此上奏案ハ銘々深ク信ズル所ガアリ、殊ニ上奏ノコトデアリマスル

カラ、既ニ提出前ニ於キマシテ深ク信ズル所ガアリ、考ヘタ所ガアリマスル

カラ、相互ニ已ノ信ズル所ヲ固執シマシテ、容易ク纏ルト云フヤウナコトガ

ゴザリマセヌデシタ、併ナガラ委員會ハ能ク相互ニ打混ジテ、少シモ隔心ナ

ク十分ニ鄭重ヲ盡シ、敬禮ヲ以テ、此案ニ就キマシテ是非共全會一致ヲ以テ

完全ナル起草ヲシタイト云フ考デゴザリマシタガ、前ニ申シタル通り事柄ガ

上奏案デゴザリマシテ、苟メナラザル所カラ各、其信ズル所ヲ互ニ容易ニ拾

テルコトガ出來マセヌデシタ、遂ニ全會一致ト云フ結果ヲ得マセヌデゴザリ

マシタ、今日御報道申シマスノハ高田早苗君ヨリ提出ニナリマシタル所ノ起

草デゴザリマシタル、起草デハゴザリマスルガ、諸ル所曩ニ片岡健吉君外諸君

ヨリシテ提出ニナリマシタル所ノ上奏案ヲ少シク修正ヲシタモノト云フテモ差

支ナイノデゴザリマス、則チ其修正ノ箇條ハ印刷ノ上諸君ノ御手許ニ配布ニ

ナツテ居リマスカラ、既ニ御熟知ト存ジマスル故ニ、別段此所デ煩ヲ省イデ

朗讀ハ仕リマセヌ、此高田君ノ案ニ付キマシテハ起立ニ問ヒマストキニ九名

ノ贊成者ガアリマシタ、而シテあゞ八名ハ更ニ少數ノ意見トシテ又諸君ノ御

口デ言フテ言ヒ惡イ字デゴザイマスガ「幣」ト云フ字ノつくりヲ取ッテイ扁ヲ
掛ケタ字デナイト「俟」ト云フ字ガ間違ッテ居ル、是ハ上書ノ正面カラ言ヒマ
スト「君ヲ俟ツ君來ラハ其レ蘇セン」ト云フコトデソコデ第五期帝國議會ヲ俟
チ來蘇ノ慶アラシコトヲ翹望ス」ト云フコトニナラヌトドウシテモ上奏文デ
アツテ見レバ、此「俟」ト云フ字ハ「俟」ト云フ字ニナラナケレバナラヌト
思ヒマス、是レ又活字ノ間違ヒデゴザイマスカラ、此所ハ御直シヲ願ヒマシ
テ、ツレカラ本文ニ就イテ他ノ案ナラ質問ハ致シマセヌガ、上奏文ノコトデ
アリマスカラ、一應質問致シマス、此「俟」ト云フコトガアリマス、「職責」ト云フコトハド
内治外交共ニ其職責ヲ失シト云フコトガアリマス、

○江原素六君(二百二十四番) 此上奏案ニ就キマシテハ高田早苗君ハ特別ニ
御盡力ニナツテ居リマスルカラ、私共ガ若シ間違ッタ御答辯ヲスルト惡ルウ
ゴザリマスカラ、高田君ヨリ御答辯ヲ願ハウト思ッテ居リマス

○野口勝一君(百十九番) どのた方デモ宜シウゴザリマス

○高田早苗君(八十番) 此席カラシテ御答ヲ致シマス

(登壇々々ト呼フ者アリ)

○高田早苗君演壇ニ登ル

○征矢野半彌君(二百四十八番) 少數者ノ意見ハ私ヨリ報道致シマスカラ
議長(楠本正隆君) 此次ニ少數者意見ヲ報道致サセマス——時間ヲ延シマ

○高田早苗君(八十番) 昨今御質問デゴザリマスガ、御答致シマス「内治外交
共ニ其職責ヲ失シ」ト云フコトハ職分ヲ盡サナイト云フ意味ノ積リデ書キマ
シタ、併ナガラ質問者ハ斯ウ云フコトニハ御委シイ様子ニ見受ケマスカラ、
若シ又字ガ穩當デナケレバ御訂正ヲ願ヒマス

○野口勝一君(百十九番) 全クサウ云フ御考カラ御書キニナツタノデ、斯ウ云
フ出所ト云フコトハナイト云フコトデスカ

○高田早苗君(八十番) 左様

○野口勝一君(百十九番) ツレカラマダアル、此ナンノ方ハ文言ノ方カラ云
ハちよツと妙ナ文字デゴザイマス、能ハズ、能ハズト云フノガ三ツアルガ、是
ハちよツと妙ナ文字デゴザイマス、是ハ暫ク置キマシテ閣下ニ陳奏スルト
云フハドウ云フ譯デゴザイマス

○高田早苗君(八十番) 申上ゲルト云フ意味デゴザイマス

○野口勝一君(百十九番) 是モ何カニアリマス

○高田早苗君(八十番) 普通ニ使フ積デ使ヒマシタ

○野口勝一君(百十九番) ツレカラマシツと仕舞ノ所ヘイッテ「陛下天地覆載
ノ恩ヲ數キ日月ノ照鑒ヲ垂レ玉ハコトヲ」是ハ二字程拔ケハセヌカト思フ

○高田早苗君(八十番) 抜ケナイ積デゴザイマス

○野口勝一君(百十九番) サウスルト此字ハ「陛下天地覆載ノ恩ヲ數キ」ト此
所ガ丁度字バカリニスルト五字バカリニナル、ツレカラ俟トノ字バカリニス
ルト八字ニナル、此八字ノ文ト五字ノ文ト、是デ宜シイ譯デゴザイマス

○高田早苗君(八十番) 宜シイ積デゴザイマス

○野口勝一君(百十九番) ツレナレバ、又修正ヲ致シマス

○高田早苗君(八十番) 外ニ質問ハゴザイマセヌカ

(「降リ給ヘ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 征矢野半彌君

(征矢野半彌君演壇ニ登ル)

○征矢野半彌君(二百七十四番) 少數意見ノ報道ヲ致シマス、私共委員ニ於
キマシテハ成ルタケ一致ヲ以テ上奏案ヲ修正致シタイト考ヘマシタ、併ナガ
ラ三回會議ヲ開キマシタナレドモ、如何セシ雙方ノ見所ガ餘程違フテ居
リマスガ故ニ、已ムコト得ズ斯ノ不幸ナル御報告ヲナスヤウニ参リマシタ、
私ニ於キルガ故ニ、殘念ノコト存ジマス、第一何故違フカト申シマスレバ、
委員會ノ中ニ於キマシテ多數意見者ノ一人ナル高田早苗君ニ向ッテ尋ネタル
時ニ外交ノコトニ就イテ質問致シテ居ル時分ニ、此外交ト云フモノ、中ニハ
條約履行案ナドモ這入ッテ居ルアルカ、這入ラナイデアアルカヲ尋ネ、竝ニ千
島艦事件モ御尋シマシタ所ガ、高田君曰ク吾ニ於テハ這入ッテ居ルト考ヘ
ル、這入ッテ居ルモノト解釋致シテ居ル、併ナガラ君方ニ於テ這入ラナイモ
又二三箇條ノ質問ヲ致シマス、是ハ速記録ニアルカラ委シク述ベマセヌデ
ゴザイマスガ、要スルニ多數諸君ノ御一人ナル高田君ノ說ニ依ッテ伺ヘバ、
此修正ヲ爲サレタル所ノ趣意ト云フモノハ、取モ直サズ最初否決致シマシタ
ル所ノ上奏案ヲ再ビ文字ヲ變ヘテ初メハ此細ヤカナ事實ヲ指シタルヲ、此度
ハ事實ヲ總括致シタル文字中ニ包意ヲ致シテ居ルニ過ギナイ、吾々ノ眼ヲ以
テ見レバ此度諸君ノ修正セラレタル所ノ文章ハ過日當院ニ於テ否決シタル文
章ヲ文字ヲ變ヘテ之ヲ出サレタルモノト考ヘラレル故、勢已ムコト得ズ此不結
果ヲ生ジタル所以デゴザイマス、序ニ私一己ノ意見ヲ述ベテ置キマスルガ、
私共ノ考ヘマスル時ニ於キマシテハ素ト此上奏案ト申シマスルモノハ第四議
會ノ中ニ於キマシテ政府ガ一錢一厘モ減シナイト云フ所ガ是ガ本ニナリマシ
テ、議會ノ大多數ハ遂ニ現政府ト竝ビ立ツコトガ出來ナイ、豫算案ニ向ッテ
ハ現政府ト徹頭徹尾反對デアアルカラ、ドウカ 陛下ニ然ルベク御處分ヲ願
ヒタイト云フ上奏案ヲ出シマシタ諸君ノ御案内ノ通り 聖天子ガ非常ニ御心配
ザイマセウ、其後ニ於キマシタ諸君ノ御案内ノ通り 聖天子ガ非常ニ御心配
遊サレマシタ、遂ニハ議院ニ勅ガ下リ閣内ノ勅ガ下リマシタ、其結果タル
カ、遂ニ閣臣ニ命ジテ再ビ行政ノ整理、海軍改革、政費節減、夥多ノ行政整
理ヲ命ゼラレタデゴザイマス、果シテ然ラバ公約履行ト云フモノ、吾々ノ
最初上奏案ヲ出シタル趣意ト云フモノハ、元々第四議會ノ上奏ガ根元ニナル、
而シテ閣臣ガ 陛下ノ思召ヲ奉ジテ爲シタル所ノ所爲ガ一般人民ノ輿論ニ副
ハナイト云フ所ノ之ヲ攻撃致シマシタ、遂ニ再ビ 陛下ニ御訴ヲ起スト云フ
ニ至ッタル場合デゴザイマス、サレバ長多クモ之ヲ手近ク申シマスレバ、兄弟ノ
者ガ互ニ爭フト云フ場合ニナリ、一軒ノ家ニモ居レナイト云フ場合ニナリマ
シタ、此事ヲ尊キ親ノ御諭シテ受ケテ天下ガ治ツタト云フモノデゴザイマス、
斯ノ如キ理由カラ原ガ起ツタモノデアラジヤニ依リマシタ、私ノ考ニ置キマス
テハ、直ニ之ヲ政府強効ノ文書ヲ書キマシタ、是マデ政府ニアルコト惡ルイコ
トヲ悉皆一括致シマシタ、陛下ニ之ヲ奉ルト云フヨリモ、寧ロ前條ノ手續ニ
依リ其上閣臣ガ仕事ヲ致シマシタノヲ、ソレヲ不相當ト認メルデアアルジヤ
ニ依ッテ、此事件ダケニ對シマシタハ、一應穩當ナ柔カナル所ノ上奏ヲ、陛下
ニ奉ッテ、陛下ノ思召ヲ同フノガ相當デアラウト考ヘルデゴザイマス、右ノ
如キ趣意ヲ以テマシタ、遺憾ナガラモ委員會ハ遂ニ滿場一致ノ結果ヲ爲スコ
トガ出來ズ、少數者トシテ別ニ意見ヲ御報道申スヤウニナツタデゴザイマス
而シテ其少數者トシテ提出致シタル所ノ文字等ハ諸君ニ配布申シテアルジヤ
ニ依リテ、前段ニ申述ベナイデゴザイマス、
○高田早苗君(八十番) 質問ガアリマス、征矢野君ニハ委員會ニ於テモ段々
御意見ヲ伺ヒマシタガ、今ニ尙ホ分ラヌコトガアルノデ、本會ニ於テ更ニ伺
ヒタイト考ヘマス、其前ニ伺ッテ置キマスルノハ、唯今離席シテ居リマシタ

ガ、高田早苗君ガ條約履行モ含シテ居ルト云フコトヲ申シタヤウニ仰セラレ
シヤウニ聞エマシタガ、此委員會ノ速記録ヲ見マシテモ、三崎君ノ質問ニ對
シテ答ヘテアルコトガアル、即チ三崎君ガ履行案ガ這入ッテ居ルト云フ御意
見デアアルカト云フ間ニ、高田早苗君ハ答ヘテ申シマス、私ノ考ニ依リマスレ
バ、自主ノ外交ト云フコトハ一端ト心得テ居ルカラ、自主ノ範圍ガ廣イ、吾々ハ履行
ヲ以テ自主ノ外交ト云フコトハ一端ト心得テ居ルカラ、自主ノ範圍ガ廣イ、吾々ハ履行
マシテ考ヘテ居ルガ、諸君ハ履行ヲ含マセヌデ考ヘテ居ルヘテ向テ差ヌデア
ル、即チ私ハ自主ノ外交ノ中ニハ履行ヲ這入ッテ居ルヘテ考ヘテ居ルコトヲ
申シテ、自主ノ外交ト云フコトハ履行ト云フコトハ履行ト云フコトハ履行ト云
デアッテ、履行案デアッテモナクテモ、自主ノ外交ハ自主ノ外交デアアルト
云フ考ヲ持チ、成ルベク折合ヲ附ケル委員會デアアルカラ、何時マデモ履行ヲ
主張スルナドト云フ考デアハナクシテ、委員會ニ望ミダデアアル然ルニ今ノ御
話ニ依ルト何カ私ガ履行ノ文字ヲ何時迄モ置カナケレバナラヌ、何處迄モ履
行ト云フコトヲ主張シテ狭イ範圍ニ限ラナケレバナラヌヤウニ聞エマスガ、
是ハ私ノ論ニ取ッテ大關係ノコトデアアルカラ、右様仰セラレナイカ知ラナイ
ガ、私ハ席ヲ離レテ居リマシタカラ念ノタメニ更ニ伺ヒマス
○征矢野半彌君(二百四十八番) 唯今御讀ニナシタ意思ヲ以テ御話シマシタ
○高田早苗君(八十四番) 宜シウゴザイマス
○(サウデナカッタ)ト云フ者アリ
○守屋此助君(百一十二番) 私ガ質問ガアルノハ少數者ノ修正案ハ一番元ト片
岡君ガ御出シニナツタノヲ少シ末ノ方ヲ御直シニナツテ居ルガ、アレハ墨デ
書イデアアルノト、朱デ書イデアアルノト……黒イノト赤イノトドウ意味ガ違フ
ノデスカ
○征矢野半彌君(二百四十八番) 格別ノ違ハナイ
○守屋此助君(百一十二番) ちよつとデモ違ヒガアレバ示シテ頂戴
○征矢野半彌君(二百四十八番) 文字ガ斯ウナツタ方ガ穩當ト考ヘタカラ
○守屋此助君(百一十二番) サウスルト字ヲ赤クシタダケデ意味ハ同ジデスナ
○征矢野半彌君(二百四十八番) 意味ハ格別違ヒナイ
○守屋此助君(百一十二番) 少シデモ違ッテ居レバ……
○征矢野半彌君(二百四十八番) ツレハ多少違ッテ居ル、文字ノ違ヒダケ……
○守屋此助君(百一十二番) 意味ガ違ハヌト云フト、ツレハひまの……ニナリマ
スゾ
○征矢野半彌君(二百四十八番) ひまの……トハ失敬ナ……
○議長(楠本正隆君) 違憲ノ問題ニ關スル委員ノ氏名ヲ報道シマス
○(水野書記官長朗讀)
綾井 武夫君 高田 早苗君 岸 小三郎君
蒲生 仙君 石田 貫之助君 山田 東次君
齋藤 珪次君 鎌田 榮吉君 初見 八郎君
○議長(楠本正隆君) 右ニ御委託ヲ致シマシタ、而シテ此問題ハ重大ノ問
題デアザイマス、十分ニ討議ヲ盡サレタイ故ニ、唯漫然ト討論終結ナドノ
出ナイヤウニ夜ガ更ケテモ御討議ヲ盡サレタイ——是ヨリ通告順ニ從ヒマス
大津淳一郎君
○(大津淳一郎君演壇ニ登ル)
○大津淳一郎君(二百一十八番) 諸君、私ハ特別委員長ノ報告ニ係ル所ノ修
正案ヲ贊成スルモノデアッテ、原案竝ニ少數ノ意見トシテ征矢野君ヨリ報告

ニナリマシタ所ノ修正案ニハ反對スルノデアル、此特別委員長ヨリ報告ニ
ナタル所ノ上奏案中ニ修正ヲ加ヘタコトニ就イテハ、斯様ナ修正ヲ致シタ
ガ故ニ、此中ニ斯様ナ意味合ガ這入ッテ居ルカラ、贊成スルコトヲ事柄ハ諸
君ニ向ッテ一ツレバ述ベルニ及バナシ、是ハ諸君ガ明瞭ニ御解釋ガ柄キマ
セウト思フテ居リマス、私ハ是カラ述ベヤウト思フハ、原案ノ不完全ナル
所、又少數ノ意見トシテ提出セラレタル所ノ修正案ノ不完全ナル所ニ就イテ
一ツレバ述ベマシタナレバ、即チ委員長ノ報告ニナッタル所ノ修正案ガ
宜イト云フコトガ自然ト分ルノデアル、抑、原案ノ公約履行ト云フコトハ世
人ノ豫テヨリ主張シテ居ル所デ、第四議會ニ當ッテ陸奥外務大臣ガ此次ノ議
會迄ニハ政費ヲ節減シ、海軍ヲ釐革スルカラ先ヅ此第四議會ハ是デ濟マシテ
吳レイト云フコトヲ述ベタコト云フコトニ就イテ、其約束ヲ履マスト云フノガ
元祖デアル、即チ和衷協同ノ大詔ガアツテ、此局ニ至ッタルハ今日ニ至ルマ
デ十分ニ改革ヲセヌガ故ニ、此公約ヲ履行セヨト云フコトヲ 陛下ニ向ッテ
上奏シ奉マシマス、閣臣ニ再ビ 大詔ヲ下サレシメコトヲ望ムト云フノ趣意ニ外ナ
ラヌト思ヒマス、斯ノ如キコトハナサベキモノデハナイ、和衷協同ノ大詔
云フモノハ則チ第四議會ニ下サレタ、第四議會ハ當時ニ在ッテ此議員タル
ベキ者ハ十分ニ其和衷協同ヲ圖ルノ實ヲ舉ゲテ、聖旨ニ奉答シ奉ラナケレバ
ナラヌ故ニ、當時衆議院ガ 聖旨ニ奉答シタ文中ニ如何ナル文ガアルカ、奉
答文ニハ「聖旨ヲ奉體シ和衷協同益々心力ヲ盡シ以テ大業ヲ補翼ノ任ヲ完
ウシ 陛下ノ隆恩ニ奉對セントス云々」トアルノデアル、斯様ニ立派ナル奉答
文ヲ奉ッテ置キナガラ、今日ニ至リ或ハ大臣ノ進辭甘言ニ欺カレシニ依ッテ、
再ビ 陛下ニ上奏ヲシテ同ジ詔ヲ下シテ下サレト云フコトハ忠愛ナル臣民ガ
爲スベキコトデハナイノデアル、戰ノトキニ綸旨節刀ヲ貫ッテ戰ニ望ム大將
ガ敵ガ強イカラト云フテ再ビ 陛下ニ強イ敵ヲ弱クシテ下サイト云フコト同ジ
コトデ、無學ナル武門デモ左様ナルコトハ出來ナイ（のひやく）ひやく）サリ
ナガラ相手ハ實ニ困ツタ相手デ、尋常ノ相手デナイガ故ニ、如何ニ議會ガ骨
ヲ折ッテモ和衷協同ノ實ヲ舉ゲルコト云フコトハ困難ナノデアル、サリナガラ
或ル一部ノ人々ノ如クニ何カ變節サヘシナケレバ和衷協同ノ實ヲ舉ゲ難イト
云フコトハナイノデアル、當時總理大臣ノ演說ニモ二十六年二月十五日伊藤
總理大臣ノ演說ニモ滿腹ノ赤心ヲ以テ國家ニ對シテ胸襟ヲ披イテ云々ト云フ
コトガ述べテアル、彼ノ人々ハ讓リ合フダケ讓リ合フト云フ精神ガアル、既
ニ此弱點ガアルカラ吾々議員ガ強ク附ケ込ンデ往ケハ降伏セシムルコトハ出
來ナイコトハナカッタ、デアル、發案者及ニ贊成ノ諸君ハ海軍ヲ改革シ、政
費ヲ節減シ左様デハナレバツレデ今日ノ日本外交共ニ其職責ヲ失スト書ハル
ガ如キハ、實ニ過般ノ大井憲太郎君ノ上奏案及ニ犬養毅君ノ決議案ノ修正ニ反
對シタル諸君ノ外ハ、日本國中認メテ今ノ内閣ハ内治外交共ニ職責ヲ失スル
ト云フコトハ是ヨリ確カナル輿論ハナイノデアル、此原案ノ如クナラバ「閣
臣ノ經營ニハ彌縫スルニ止マル」閣臣ノ經營一時ヲ彌縫スルニ止マルノハ此
公約ノミニ限ッタルコトデハナイノデアル、又「政綱未ダ振厲セズ」ト云フコトヲ
斷言スルノハ誠ニ宜シ、併シナガラ是ガ海軍ノ改革ト及ニ政費ノ節減サヘス
レバ即チ政綱未ダ振厲セズト云フコトガ振厲セリト思ハルノデアルカ、若
シ閣臣ノ經營一時ヲ彌縫スルニ止マルト云フコトヲ諸君ガ心附イテ、政綱未
ダ振厲セズト云フコトヲ慨嘆スルナラバ、ナゼ凡百ノ事柄ヲ舉ゲ彈劾ノ奏案
トスルコトガ出來ナイノデアルカ、發案者及ニ贊成ノ諸君ハ政費ヲ節減シ
海軍ヲ改革スルバカリガ御熱心デアルナラバ、今日ニ至ッテ之ヲ上奏セズレ
モ腰骨サヘ強クスレバ其次ノ議會ヲ是ダケノ事柄ナクバ諸君ガ腰骨ガ強ケレ

バ成セヌコトハナイノデアル、ツレモ軟化變節吏化シタト云フコトデハツレ
ハ出來ナイノデアル（左様ナ者此議場ニナシ）ト呼フ者アリ（即チ原案贊成者
ノ一人ナル齋藤圭次君ハ當時第四議會ニ於テ如何ナルコトヲ述ベラレタカ、
荷モ委員長ノ代理トシテ報告ヲ演說ノ如キニ至ッテハ天下輿論ヲ満足サセル
政府ヲ代表シテ外務大臣ノ演說ノ如キニ至ッテハ天下輿論ヲ満足サセル
ダケノ改革ヲ爲スト云フコトヲ公言セラレテ居ルコトデアレバ此局面一變
シタル政府ニ向ッテ此實ヲ舉ゲシムルト云フコトハ十分我々ガ爲シ得ルノ
デアル若シ之ヲ爲サナイ時ニハ鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ責メレバ宜シ
斯様ニ齋藤君ノ如キハ當時政費節減ハ海軍改革ノ如キハ吾々ガ十分爲シ得ル
ノデアル、爲サナイ時ニハ鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ責メレバ宜シトマデ強イ御言葉
ヲ言ハレタ者ガ、此軟弱ナル上奏案ノ贊成者トナッテ現レルト云フコトハ、實
ニ私ハ奇怪ナルコト、思フノデアル（のひやく）今日責メツ、アルト呼フ者
アリ）少數ノ人々ノ報告トナッタル末文ノ如キハ文字ガ變ッテ守屋君ノ質問ノ
如ク赤キ字ガ黒クナッタガ、其意味ハ變ラヌ、抑、此文案ノ中ニハ抑、本員ガ
不同意ナル所以ハ何カ故ニ不同意デアルカト云フ、此文案ニハ閣臣ノ行事
ヲ戒斷シテ和協ノ道ヲ盡シマシムルコトヲトアル、則チ閣臣ノ行事
ヲ戒斷シテ和協ノ道ヲ盡セト云フハ、陛下ニ降シ賜ハレト云フガ如キハ忠愛ナル
臣民ノ爲スベキコトデハナイノデアル、今日ニ至ッテ諸君ガ今ノ内閣ニ是等ノ
事ハ勿論閣臣等ノ行事ヲ戒斷シテ十分ニ國體ヲ傷ケザル仕事ヲサセヤウト
云フノニ、唯彈劾上奏ノ一途アルヨリ外ニ道ハナイノデアル、世ノ中ノ
人ハ盡ク知ッテ居ルノデアル、議會ノ中ノ少數ノ人ノ外ハ滿天下ノ人ハ知ッ
テ居ルノデアル、當時陸奥大臣ノ言葉ハ全ク一時ノ進辭、唯第四議會ノ無事
ニ終リサヘスレバ、此發案者及ニ贊成ノ諸君ハ何故ニ斯様ノコトガ分ラナイ
分ッテ居タノニ、此發案者及ニ贊成ノ諸君ハ何故ニ斯様ノコトガ分ラナイ
デ、今日ニ至ッテ欺カレタリト云フテ斯様ナ上奏ヲシテ 陛下ヲ煩ハシ奉ル
ト云フ行ニ出デ、加之第四議會ノ當時ニアツテハ一部ノ議員ハ斯様ノコトハ
決シテ信ゼラレヌガ故ニ、茲ニ十分政費節減ヲシテ和協ノ道ヲ盡シテ 陛下
ノ大詔ニ奉答シ奉ルト云フノヲ、彼等ハ詭辯ノ辯ヲ揮ッテ地方ノ民心ヲ買ハ
ントスルノデアルト云フ如ク詭辯シタノハ、諸君ガ御記憶ガナケレバナラ
ヌ、斯ノ如キ言ヲ放ッテ陸奥大臣ノ甘言ヲ 信ズベカラザル甘言ヲ信ジ
テ、今又上奏ヲスルコト云フガ如キニ至ルガ故ニ、世間ガ新吏軟化變節ト云
フノデアル（馬鹿ナルコトヲ言フナ、貴様ガサウ云フノダ）ト呼フ者アリ今日
ニ至ッテ當時ノ甘言ニ欺カレタルハ諸君ハ承知デ其言ヲ誤ッタノダ（馬鹿言フ
ナ）ト呼フ者アリ而シテ其以來世人ニ責メラレ世人ノ指彈ヲ受クルガ如キニ
至ッテ己ノ名譽ヲ回復スルガ如キ上奏ヲサウト云フガ如キハ衰龍ノ袖ノ下
ニ隠ルノダ（ト呼フ者アリ）斯様ナ上奏案ヲ出サウ名譽回復の上奏ヲ出サ
ウト云フノハ忠愛ナル臣民ノ爲スベカラザルコトデ、大不敬罪ニ陷ラシムル
此案ヲ出サウト云フノハ諸君ハ大不忠……（小人ノ心カラ見レバ此ノ如シ）
ト呼フ者アリ吾々ハ長ク此案ニ就イテ彼是論ズル必要ハナイノデアル、且ツ
駒林君ノ如キハ此少數者ノ意見ノ贊成者トシテ報告シテ居リナガラ、彼ノ
特別委員會ニ如何ナル言ヲ吐イタカ、斯ノ如キ手緩ルキ上奏ハ爲シテモ爲サ
ヌデモ宜シイノデアルガ、今度ダケノ爲スト云フ言ガアツタノデアル、斯
様ナコトハ（駒林廣運君「君方ノ手緩イ上奏ダト云フタノダ」ト呼フ）斯ノ
如キコトヲ述ベタト云フガ如キハ苟モ上奏案ノ議事トシテ爲シテモ爲サヌ

デモ宜イト云フガ如キ言語ヲ以テ上奏案ヲ議スルガ如キハ、私共不敬ノ至リト言フヨリ外ハナイト思フ、或ハ此上ノ議會ニ今日ハ實事問題ヲ以テ争フノデアル、何ガ事實ノ問題ニテ、大凡政治上ノ問題ハ事實ヲ以テ證據立ラシテ争フ者デナ、第二議會ノ當時ニテハ、政府ガ選舉干渉、斯様ノコトヲハ選舉干渉ト云フハ無イカト云フ時ニテ、諸君ハ第三議會ノ當時ニテハ、政府ハ選舉干渉ヲ選ニ方ツテ、凡ソ政治上ノ事ノ如キハ證據ヲ以テ争フベキモノデナ、論議シタルハナ、今日ニ至ッテモ上奏案ニハ多數ノ失體ガ政府ニアルノデ、其失體ハ是ヨリ大事ナル失體ハ棄置イテ、誠ニやさしい所ノモノヲ以テ陛下ヲ煩ハシ、而シテ此上ノ議會ニ於テ強イモノヲ以テ煩ハスト云フガ如キ、屢ニ聖慮ヲ煩ハスト云フハ是ヨリ不敬ナコトハナ、(拍手起ル)故ニ少數ノ意見ニモ原案ニモ反對致シテ此委員長ノ報告ニナツタ所ノ本案ヲ(贊成力)ト呼フ者アリ)贊成ヲ致シテ、是非此通過ヲ計ルモノデアル(拍手起ル)

○議長(楠本正隆君) 小松三省君

○小松三省君(二百九十九番) 本員ハ多數ノ報告ニナレル此上奏案ニ反對致シマスルカ、少數者ノ意見ニ贊同スル者ノ一人デゴザリマス、斯ノ如ク一方ニ反對ヲ致シ、一方ニ贊成ヲスルコト云フコトニナリマスナレバ、誠ニ議論ガ二重ニナツテ残念ナコトデゴザリマスガ、一方ニ向ッテハ政府ヲ攻撃シ、一方ニ向ッテハ此多數ノ意見トシテ出サレタ所ノ上奏案ノ主意ヲ攻撃スルコト云フ、此ノ二途ニ出デナケレバナルマ、信シマスルガ、凡ソ此一案ヲ出シ、又一建議案ヲ出スニ方ツテカラ、其建議案其案ノ價值ト云フモノハ殆ド其案ニ對スル議論ノ如何ニ依ッテ定マルコトデアラウト信シマスル、政府ヲ責メル攻撃ノ演説ノ如キハ唯彈丸バカリ其所ヘ出シタ所ガ、一向何ノ役ニモナラナイノデ、後ロニ火藥ガアツテは爆裂サセテ逐出シテ始テ其效能ガ出來ルコト云フモノデゴザリマス、諸君ハ唯内輪ノ争、黨派ノ争ヨリシテ政府ニ向ッテ急劇ナル彈丸ヲ發スルコトヲ忘レテ仕舞ッテ唯内部ノ攻撃、黨派ノ攻撃ニ狂奔セラレ居ルコト云フハ、本員ノ實ニ悲シム所デゴザリマス(拍手起ル)本員ハ寧ロ黨派内部ノ争ヲ急劇ニスルヨリモ、此政府ニ向ッテ當テ彈丸ニ十分ニ彈力ヲ籠メルコト云フハ必要ナコトデアラウト信ズルノデゴザリマス(中村彌六君)但シ空砲ナリト呼フ)諸君ハ唯ドチラノ上奏案ガドウデアラウト云フテ互ニ攻撃ヲナサル、問ニ、私ハ此政府ニ向ッテ公約履行ト云フコトヲ責メルコトヲ決シテ忘ル、コトハ致サナイノデゴザリマス(最モ然リト呼フ者アリ)サウシテ見マスレバ私ノ論ズル所ハ一方ニ於テハ公約履行ト云フコトヲ以テ政府ヲ責メ、一方ニ於テハ此多數者ヨリ出タ所ノ上奏案ト云フモノハ實ニ殘念ナガラ御不同意申サナケレバナラヌト云フノ理由ヲ述べタイト思ヒマス(田中正造君)矢張黨派ダ、中村彌六君公約ハ公約ダガ内股膏藥ダト呼フ又「簡單」ト呼フ者アリ)簡單ト云フ聲モ出マシタ、私ハ決シテ簡單ニ述べ積ガゴザリマス、十分ニ述べタイト思ヒマス(田中正造君)ドウカ簡單ニ御願ヒ申スノダト呼フ)抑、此上奏案ト云フモノハ本來如何ナル精神ヨリ出タモノデアリマセウカ、取モ直サズハ公約ヲ履行スルト云フノ主意ヲ飽迄貫徹スル、ツレガタメニ陛下ヲ煩ハシ奉ルト云フノ理ニ外ナラヌノデゴザリマス、抑、此三條ノ公約ト云フモノガ未ダ十分ニ行ハレナイニ依ッテ吾ハ是ガタメニ誑サレタノデアアル、吾ハ始ヨリ

此政府ハ決シテ公約ヲ履行致サナイト云フコトヲ信シテ居ッタカラ、或ル少數者ハ此時ニ當ッテ政府ヲ信ゼヌカラ公約ノ履行ヲ望ムノハ駄目デアリマス、當時ニ於テ言ッタト云フコトヲ評シマシタガ吾ハサウデナ、政府ノ改行改行命ゼラレタ上ニハ、畏レ多クモ、陛下ノ詔ニ背イテ漫リナ改正ハ致サナイト云フコトハ、本員等ガ確ク信シテ居ッタ所デゴザリマス、又、詔刺ノ結果斯ノ如ク信ゼザルヲ得ヌノデゴザリマス、第五議會ニ至ッテ政府ガ表發シタル所ノ行政ノ整理、海軍ノ改革、政費ノ節減ガ不十分デアラウト云フコトハ、是ハ程度ノ問題デゴザリマス、政府ノ方デハ是ダケノ改革ヲシ、是ダケノ節減ヲスレバ是デ宜カラウト思フテ、爲シタノデアラウト信ズル、然ルニ本員等ニ於キマシテハ斯ノ如キ節減ハ吾ハ始ヨリ希望シタモノデナク、吾ハハモウ一層行政ヲ整理シ、モウ一層政費ヲ節減シナケレバナラヌト云フノ考デアラウト言ヘバ、則チ政府ト吾ハト問ニハ此行政整理ト云フコトニ就イデハ程度ノ争ガ出來タト云フコトハ、明ナ事柄デアラウト思ヒマス、所謂程度ノ争デアラウト云フコトデアラナレバ、元ト此行政整理ト云フコトハ、陛下ノ詔ヨリ出テ、カラ閣臣ニ命ゼラレタ所ノモノデアラウトスルナレバ、又、陛下ヲ煩ハシ奉ッテ吾ハ意志ヲ貫クト云フハ是ハ自然ノ結果デナケレバナラヌト信ズルノデゴザリマス、サウシテ見レバ此議會ニ於テ、陛下ニ上奏シ奉ッテ、サウシテ閣臣ニ命ジテ再度吾ミヲ満足セシムルダケノ行政整理ヲ爲サル、ヤウニ御命ジサレタイト云フノハ、是ハ臣子ノ分ニ於テ自然致スベキ事柄デアラウト本員ハ考ヘルノデゴザリマス、然ルニ政府ガ今日迄爲シ來ッタ所ノ行政整理ト云フモノハ如何デアラウト云フコトヲ振顧ッテ考ヘマ

スレバ、諸君モ私ト御同感デアラウト思ヒマス、誠ニ行政整理ト云フモノハ不十分デゴザリマス、政費ノ節減ガ不十分デアラウト云フモノハ不十分デゴザリマス、吾ハ斯ノ如キ不十分ナル行政整理ヲ以テ満足ハ致シマセヌ次第デゴザリマス、政府ガ行政整理ト云フモノヲ爲シタ所ノモノハ皆僅ニ人員ヲ減ジタニ過ギナイ、僅ニ政費ヲ節減シタニ過ギナイ、サウシテ行政ノ整理ト云ヘバ、僅ニ課局ノ廢合ヲ致シテ、而カモ其改正シタ事柄ト云フモノハ頗ル不十分デ、又不權衡デアッタト云フコトハ明カナル事柄デゴザリマス、抑、此立憲政治ト云フモノハ如何ナル原則ニ依ッテ如何ナル作用ニ依ッテ出來ルモノデアラウト云ヘバ、即チ、陛下ガ明治初年ニ於テカラ五箇條ノ御誓文ヲ發セラレテ仰セラレタ如ク、即チ「萬機公論ニ決スヘシ」上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フト云フ時ニ方ツテハ、人民ノ輿論ト云フモノヲ容レナイ折柄ニハ、到底此和衷協同ノ實ハ舉ラヌ、輿論ヲ容レズシテサウシテ此立憲ノ政ヲ行フト云フコト、若クハ和衷協同ノ實ヲ舉ゲヤウト云フモノハ、是ハ人民ヲ強ヒテ己ノ意思ニ從ハシメタカラ然ル後ニ立憲ノ政ヲ行フト云フモノハ、是ハ人民ヲ強デアルカラ、論理上兩立スベカラザル事柄デゴザリマス、和衷協同ノ圖ヲシテカラ、政府ノ意見ニ人民ヲ從ハシムルニハ、即チ輿論ヲ壓セザルヲ得ナイ、輿論ヲ壓シテ立憲ノ政ヲ行フト云フノハ、是ハ自家撞著デゴザリマス、抑、吾ハ立憲政治ノ下ニ立ッテカラ直チニ多年國民ノ輿論トシテ表發シテ居ルモノハ如何ナル事柄デアラウト云ヘバ、即チ政費ノ節減、民力ノ休養、行政整理ノ如キ、明ニ是ハ國家ノ輿論ト相成ッテ居ルモノデ、種々ノ議會ニ衝突種々議會ニ顯レタ所ノ輿論ニ依ッテカラ、既ニ今日明カナル事實ニ成ッテ居ルノデゴザリマス、若シ内閣ニシテ吾ハト和衷協同ノ實ヲ舉ゲ上下心ヲ一

ニシテカラ、此盛ニ經綸ヲ行ハントスルナレバ、此議會ニ顯レ、若クハ全國ノ輿論トシテ顯レタ所ノ意見ヲ行ハズシテ、和衷協同ノ實ヲ舉ゲヤウト云フコトハ、到底心つかへず、以テゴザリマス、爲シ得ベカラザル事柄デゴザリマス、政府ガ吾ニ向テ言フデゴザリマス、然ルニ官吏ノ數ヲ減シテ多少政費ヲ節減スルヲ云フコトハ、是ハ吾ニ、大目ノデハナイ、デゴザリマス、吾ニガ目ノトシテ居ル所ノモノハ何デアルカト云ヘバ、即チ此行政ノ機關ヲ縮少シテ、成ルベク政費ヲ節減シ、且ツ官吏ノ如キモ人民ノ程度ニ能ク相應スルノ給料ヲ與ヘルト云フコトガ吾ニ宿論デゴザリマスガ、然ルニ政府ハ常ニ此人民ノ程度ニ應ゼザル所ノ國家組織ヲ以テ民度ニ應ゼザル國家組織ヲ爲シ來リ、先日來ノ改革モ未ダ以テ此程度ニ適當シタト云フコトヲ認メルコトハ出來ナイ、則チ吾ニガ官吏ノ俸給ヲ減サウト云フコトヲ言フデ居ルノニ、政府ハ未ダ官吏ノ俸給ト云フモノヲ減ジタコトハナイ、吾ニハ固ヨリ行政ノ内部ノコトニハ暗イ、政府ハ是人員ハ減ジタコト云フ以上ハ、政府ガ使デ居ル所ノ官吏ニハ隨分元員ガアルト云フコトガ分タ、元員ガアルデ之ヲ減シテ呉レルナラ吾ニハ満足スル所デアルガ、獨リ元員ニ於テ之ヲ減ズルノミナラズ、尙ホ之ヲ官吏ノ等級ニ依テ減ズルト云フコトハ吾ニハ是マデノ持論デゴザリマシテカラ、或ハ査定案ナリ或ハ議會ノ討論ナリニ現レタ事柄デゴザリマス、吾ニガ政府ニ向テ言フデカラ尙更此行政整理ヲ十分ニセヨ、政費ノ節減ヲセヨト云フコトハ、此一點ヨリ出ルノデゴザリマス、殊ニ此日本ノ官吏ノ俸給ナドト云フモノヲ考ヘテ見マスルニ、誠ニ此權衡ガ合ハナイノデゴザリマス、各國ノ高等官ノ俸給ヲ以テカラ下級ノ官吏ニ較ベテ見ルト、佛蘭西國ノ如キハ下級ノ官吏ニ對シテカラ上級ノ官吏ハ一倍九五二ト云フ比例ヲ持ッテ居ルデゴザリマス、又バミヤノ如キハ二倍三三七ト云フ割合ヲ持ッテ居ルデゴザリマス、李鴻生ノ如キハ二倍八二ト云フ割合ヲ持ッテ居ルデゴザリマス、獨逸ノ如キハ三割九〇ト云フ割合ヲ持ッテ居ルデゴザリマス、日本ニ至ッテハ如何ナル比例デアルカト云ヘバ下級ノ官吏ニ對シテ高等官ハ四割六七ト云フ割合ヲ持ッテ居ルノデゴザリマス、日本ノ高等官ノ給料ガ高イト云フコトハ明ナ事柄デ、他ノ國ニ比較シテカラ高等官ハ日本ニ於テハ過度ノ給料ヲ得テ居ルト云フコトハ明ナ事實デアラウト思フ、又此各國ノ官吏ノ俸給ヲ以テ職工ノ賃銀ニ較ベテ見ルト伊太利ハ官吏ノ俸給ハ職工ノ賃銀ノ一倍八〇デゴザリマス、李鴻生デハ一割八六デゴザリマス、又佛蘭西デハ二倍三五デゴザリマス、獨逸デハ二倍四五デゴザリマス、矢張職工ノ賃銀ニ較ベテカラ官吏ノ俸給ヲ問フ時ニハ、日本ノ俸給ノ高イト云フコトハ明ナ事實デゴザリマス、又各國歳出ヲ國民ノ所得ニ例スル時ニハドウデアルカト云ヘバ、英吉利ハ所得百ニ附キ租稅ガ九三ニナッテ居ル、澳太利ハ九五ニナッテ居ル、獨逸ハ十四ニナッテ居ル、佛蘭西ハ十三ニナッテ居ル、日本ハ十四ニナッテ居ル、伊太利ハドウカト云ヘバ、伊太利ガ一番多額デアリマセウ、二十二ト云フモノデゴザリマス、日本ハ此歳出ヲ所得ニ較ベタ所ガ、伊太利ニ次イテ日本ガ一番少額デアリマス、斯ク各種ノ統計計算ヨリ論ジ來リマシタナラバ、日本ニ於テカラ此官吏ノ俸給ガ民度ニ比シテ高過ギルト云フコトハモウ明ナ事實デアラウト私ハ思フ、此統計計算ト云フモノハ固ヨリ確實ナモノデアルガ、大體ヲ取ツタモノノデゴザリマス、之ガ誤リノ實ナモノデアルカト云フニ、私ハ誤リノナイモノトハ申シマセウ、即チ大抵隣近シタモノデ之ニ近寄ツタモノデアラウト言フコトヲ判斷シテモ不當デハナカラウト思ヒマス、マダナカノ長クヤリマスカラ(討論終結)ト呼フ者アリ)マ

ダナカノ長クヤリマスカラ(大ニヤルベシト呼フ者アリ)ウシテ又國家ノ歳入ヨリ論ジテ、ウシテ日本ノ國民ノ所得ヨリ論ジテカラ日本ノ行政機關ガ過大ナルヤ否ヤト云フコトヲ判斷致シテ見テモ、固ヨリ日本ノ所得ニ對シテカラ行政機關ノ機關ガ過大デアアルト云フコトモ、亦明ニ之ヲ推論スルコトガ出來ルノデゴザリマス、斯ノ如ク色々ノ統計ヲ舉ゲテ推論スルコト多分諸君モ御退屈ナサレデアラウト思フカラ、ソコデ此統計ナドノコトハ略シテ、先ヅ官吏ノ俸給行政組織ノ過大ニ過ギルト云フコトハ當リ前デアル、ウシテ見レバ日本ノ政府ハ内閣ハ既ニ日本ノ民度ニ對シ、日本ノ歳入所得ニ對シテカラ相當ナル經費ヲ使ヒ、相當ナル機關ヲ置クト云フコトヲ斷言シタ以上ハ、則チ更ニ此行政機關ヲ縮少シ、若クハ人員ヲ減ジ、若クハ官吏ノ俸給ヲ減ズルト云フコトハ、是ハ公約ニ對シテ已ムヲ得ヌ政府ノ責任デアラウト信ズルノデゴザリマス(簡單々々ト呼フ者アリ)且ツドウモ政府ハ始終歐羅巴各國ノ例ヲ引イテカラニ西洋ニ於テハ大變政費ヲ使フノデアアル、給料ハ高イトデアアル、然ルニ日本ハ斯ノ如キモノデアアル、之ヲ以テ過大トハ申サレヌト云フコトヲ常ニ言フノデアアルガ、是ハ大ニ其意ヲ得ヌトデアアル、則チ歐羅巴ノ如キハ行政機關ヲ過大ニシテ政府ノ費用ヲ多クシタメニ、今日ハ殆ド將ニ其國ハ亡ビシテ居ルノデゴザリマス、伊太利ハドウデゴザリマスルカ、獨逸ハドウデゴザリマスルカ、斯ノ如キ國ニト云フモノハ行政機關ヲ過大ニシテ政費ヲ夥多ニシテ弊ヲ受ケテカラ、今日ハ滅亡ニ近ヅイテ居ルト言フテモ宜シ、一千八百四十八年以來獨逸國ヨリシテ亞米利加ニ移住シタ流レノ起ツタ彼ノ大潮流ヲ御覽ナサイ、是ハ如何ナル結果カタメニ、外國ニ向テ權勢ヲ張ランガタメニ、行政機關ニ軍事ニ非常ニ金ヲ使ツタカラ、ウレガタメニ人民ノ膏血ヲ絞リ、殆ド中等社會ノ人民ハ其負擔ニ堪ヘラレヌウレガタメニ我愛スベキ故郷ヲ去ッテカラ、續々他國ニ移住スルノデゴザリマス、サウシテカラ今日ノ獨逸ハ如何デゴザリマス、極ノ貴族ト富者ト極ノ下等ノ今日やうノ食フ者トガ相合シテ彼ノ獨逸帝國ヲナシテ居ルト云フ結果ニナッテ、彼ノ軍事法案ノ如キハ議會ハ通過シタケレドモ、之ヲ執行スルノ費用ガナイト云フ眞ニ窮屈ナ財政ノ現況ニ陷ッテ居ルノデゴザリマス、又伊太利ノ如キモサウデゴザリマス、十三萬ノ何千万ト云フ不換紙幣ヲ發行シテ、人民ハ其負擔ニ堪ヘラレナイト云フ所カラ、衰微セントスル今日ノ有様デアアル、現ニいもらノ如キハ如何デゴザリマス、僅ニ雪ノ掃除ヲスルタメノ負擔ガ出來ナイノ、隣ノ都府ニ借リニ往ツタやうノ之ヲ濟マシタト云フヤウナ有様デ、財政ノ減少ヲ致シテ居ルノデゴザリマス、日本ハ唯西洋ノ行政機關ハ過大デアアル、西洋ハ政費ヲ過大ニ使フテ居ルカラ、日本モ亦其通りヤラナケレバナラヌト云フデ之ヲ眞似スル以上ハ、日本ヲシテ獨逸ノ財政紊亂、伊太利ノ財政紊亂ニ陷ラシメヤウト工夫デゴザリマセウ、私ハ日本國ヲシテ歐羅巴失政ノ跡ヲ繼イデ國家ノ衰亡ヲ招クガ如キコトハ、私ハ我内國若クハ政府ニ向テ取ラナイ所デゴザリマス、ウレデ吾ニハ總テノコトニ就イテカラ政治機關ノ縮少主義ヲ執ッテ、是マデ來タモノデゴザリマシテ、是ハ國民ノ強大ナル輿論ト相成ッテ居ルコトデアラウト信ズル、就イテハ吾ニハ此目的ヲ達スルガタメニ此目的ヲ政府ガ未ダ此目的ニ適ハザル事業ヲスルガ故ニ吾ニ十分ナル行政ノ整理政費ノ節減ヲ命ゼラレンコトヲ希望スル次第デゴザリマス(吉本榮吉君討論終結)ト呼フ(贊成々々)ノ聲起ル)マダノイケマセ

ヌ、是カラ改進黨ノ諸君ニ向ッテ言ハナケレバナリマセヌ、其外信任問題ヲ出サルハ、御方ニ向ッテモ言ハナケレバナラヌコトガアル、吾ハガ上奏案ヲ出スト云フハ斯ノ如キ理由デゴザイマス、(「無用々々」ト呼フ者アリ)「遺ルベシ遺ルベシ」ト呼フ者アリ、然ルニ此多數ノ一多數者ノ修正シテ上奏案、多數者ノ意見ヲシテカテア、出サレタ所ノ上奏案ヲ見ルニ、閣臣常ニ和協ノ道ニ背キ臣等ヲシテ大政翼賛ノ重責ヲ全フス能ハサルニ、此ヲ以テ臣等閣臣ニ信ヲ置ク能ハサルナリ、今ニシテ之ヲ匡正セシムルハ臣等竊ニ恐ル憲政内ニ紊亂シ國威外ニ失墜センコトヲ是レ臣等ガ默シテ欲シテ默スル能ハス」ト云フノ文章ガ上奏案中ニ見エマス、斯ノ如クナレバ此案ヲ出サル、所ノ諸君ハ此案ヲ以テカラニ内閣ニ向ッテカラ信任ヲ問ハレタモノデアル、則チ内閣不信任ノ茲ニ上奏ヲナサル、モノデアルト認定ヲシテ、私ハ不都合デ無カラウト信ズル(然リトモ)ト呼フ者アリ、就キマシテハ私ハ信任問題ト云フコトニ就イテ誠ニ憂フル所ガゴザイマス、其事ヲ一ツ諸君ニ赤誠ヲ以テ御聽ヲ願ヒタイト思ヒマス(「簡單々々」ノ聲起ル)先日來モ度々信任ト云フコト信ヲ措ク能ハズト云フ問題ガ此議場ニ現レタノ信任ヲ措ク能ハズ、(「討論終結」ト呼フ者アリ)諸君ニシテ若シ果シテ内閣ニ信任ヲ措ク能ハズ、(「討論終結」ト決心ヲ以テカラ此信任ヲ問フコト云フコトデゴザイマス、私ハ雙手ヲ舉ゲテ同意スル者デゴザイマス、無論吾ハ今日ノ内閣ヲ信ゼヌト云フコトハ明ナコトデゴザイマス、此信任ヲ現内閣ニ向ッテカラ直ニ信任スル能ハズ、隱退ヲ望ムト云フノ決議ヲモ能ウ致シマセヌ、其案モ出サヌト云フコトハ茲ニ大ナル理由ノアルコト、諸君ノ了セラレシコトヲ希望致シマス、此事ニ就イテハ私ハ意見ヲ述ベナケレバナリ、吾ハ固ヨリ此立憲政治ヲ起サウト云フコトニ就イテハ生命ヲ賭ケテヤリ始めタモノデゴザイマス、若シ此明治政府ガ吾ニ立憲政治ヲ與ヘナケレバ吾ハ血ヲ流シテモ此立憲政治ヲ取ラウトシテ今日ニマデ來タモノデゴザイマシテ、幸ニ吾ハ生命ガ茲ニ在ルト云フノハ陛下ノ恩召ニ依ッテカラ平和ニ此憲法ガ出來タ譯デゴザイマス、若シ此憲法ガ今日ニマデ出來ナカッタ折ニハ、吾ハ野原ノ露デゴザイマス、カモ知レマセヌ、然ルニ斯ノ如キ決心ヲ以テ生命ヲ賭シテモ此立憲政治ヲ成立タセシメントシテ出テ來タ吾ハ今日ニ至ッテカラ此信任ヲ叫ビシテカラ政府ニ迫ルコトヲ敢テセヌト云フノハ何故デアルカ、是ニハ大ニ理由ガナケレバナリ、(「簡單々々」ト呼フ者アリ)抑、此信任缺乏問題ト云フモノヲ擔出シタ以後、諸君ハ此信任問題ヲ擔出シタ後ノ責任ヲ知ッテ居ルカト云フコトデゴザイマス、吾ハ此信任問題ヲ擔出シタ後ノ責任ヲ知ッテ居ルカト云フコトヲ考フレバ、誠ニ吾ハ躊躇スル次第デゴザイマス、(「成程尤ダ」ト呼フ者アリ)其譯ヲ申シマセウ、今日ノ政府ト云フモノハ絶對的ニ申シマスナラバ專制デゴザイマス、殆ド憲法ハ立ッテ居ルケレドモ其實ハ舉ラズシテカラ、今日茲ニ一種ノ憲法政治ノ下ニ專制政治ヲ行ッテ居ルト斷言シテモ宜シ、吾等ハ昨日ノ專制政治ニ對シテカラ起シタ所ノ運動ハ飽クマデモ今日ニ於テ忘レヌノ決心デアルガ、然ルニ諸君ハ今日ノ此政府ガ不信任デアルト云フテカラ直チニ信任問題ヲ出シテカラ、此國民の最後ノ運動ヲ致スコトガ出來ルカ否ヤト云フコトハ、私ハ諸君ノタメニ危ムデアリマス、今日ハ未ダ國民ノ政治思想ガ熟シテ居リマセヌ、諸君ハ此所ニ出テ來テカラ信任缺乏トカ何トカ云フコトヲ叫ビ呼スルノデゴザイマス、決シテ日本ノ政治思想ハ未ダツレ程進ンデハ居ラナイ、或ハ賄賂ヲヤツテカラ選舉ヲ始メナケレバナリ、或ハ變應ヲ開イテカラ選舉ヲ求メナケレバナリ、種々様々ノ陰惡ノ手段

マデ行フテカラ漸ク選舉シテ出テ來ル位ノモノデゴザイマス、ソレガ此所ニ來テカラ信任投票ト云フヤウナ大問題ヲ擔出シテ、サウシテ此成效ヲ如何ニシテ告グルカト云フコトハ吾ハ大ニ憂フル所デゴザイマス、然ルニ改進黨ノ諸君ノ如キハ吾ハガ立憲政治ノ下ニ在リテカテ生命ヲ賭ケテ運動スル際ニ當ツテハ唯筆ノ先ヤ口ノ先ヲ以テ此立憲政治ヲ設ケヤウトシテカラ吾ハ粗暴過激ト云フテ居タ、其徒ガ今日此立憲政治ヲナツテカラ言語ノ外ニ腕力ハナイ、唯口デシヤベレ、宜イコト云フ時代ニナツテカラ、俄ニ強クナツテカテ信任問題杯ヲ濫シ前後モ思ハズニ擔出スト云フノハ私ノ誠ニ残念ニ堪ヘラレヌ所デゴザイマス、若シ信任問題ヲ擔出シテカラ此落著ヲ付ケルト云フナラバ、何時デモ御同意ヲ致シマスケレドモ、諸君此所デイクラ落著ヲ付ケヤウト言ッテモ、今日ノ此國家ノ形勢、選舉區ノ有様ヲ見テ見タナラバ、此所デ強ガツタ所ガ、最後ノ國民の大運動ハドウシテモ出來マセヌ最後ノ國民の大運動ガ出來ルト云フ御觀察ガアルナラバ、吾ハ何時デモ御同意ヲ申シテ舊トノ立憲政治ヲ——專制政治ノ時分ニ立憲政治ヲ打立テル時分ノ心ヲ以テ、モウ一度ヤツテ見タイト思ヒマス、諸君果シテ此勇氣アリヤ否ヤ、アルト云フナラバ直チニ同意ヲ致シマセウ、然ルニ諸君ガ驕ッテ我選舉區我日本國民ヲ御覽ナサイ、國民ハ如何ナル有様デアアルカ、斯ノ如ク唯針ノ上ニ棒ヲ立デルト云フ案ヲ出シテカラ、此結局ヲ如何ニ附ケラレドモ、年々抱ッテ提ゲテ御歸リナサイ、此政府ノ成立ッテ居ル間、若クバ此政府ニ類似シタ政府ノ成立ッテ居ル間ハ、年々抱ッテ提ゲテ歸ラナケレバナリ、然ルニ國家ノコトハ如何ニナルカ、其時ニ若シ決心ガアツテヤラウト云フナラバ、私共ハ直ニ御同意ヲスル、改進黨ノ諸君、其他ノ諸君ハ斯ノ如キ勇氣ガアルヤ否ヤ、私ハソレヲ疑フニ依ッテ未ダ能ウヤラヌデアリマス、上奏案ニ就イテ聊カ不明ノ意見ヲ述ベマス

(「討論終結」ノ贊成々々ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 未ダ通告ハアリマスガ(「討論終結」ト呼フ者アリ)討論終結ノ決議ヲ採リマス、討論終結ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數

(「記名投票」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 靜ニ——此決議ノ順序ヲ報道シマス、第一ニ少數者ノ上奏案、第二ニ委員ノ上奏案、第三原案、斯ノ如キ順序デ決ヲ採リマス、而シテ是ハ責任ヲ有ッテ決議ヲセメケレバナラヌ、記名投票ヲ須ヒマス——閉鎖

○野出銅三郎君(二百六番) ゴツチヲ先キニ採ルノデスカ

○議長(楠本正隆君) 少數者ノ方

(「投票ノ順序ヲモウ少シ確メテ下サイ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 投票ノ順序ヲ改メテ話シマス、靜ニナサイ、決議ノ順序ハ少數者ノ修正案ニ就イテ眞先ニ決議ヲ採リマス、ソレヨリ第二ハ委員會ノ修正案ニ就イテ決議ヲ採リマス、ソレヨリ第三ハ原案、斯ノ如キ順序、ソレデ少數者ノ修正案ニ就イテ決議ヲ採リマス、少數者ノ意見ヲ可トスル者ハ白、否トスルモノハ青、是ヨリ氏名點呼ヲ始メマス

(町田書記官氏名ヲ點呼ス)

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ開匣ヲ致シマス

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(楠本正隆君) 投票ノ結果ヲ報道シマス

總數二百九十三

可トスル者 百三十二
否トスル者 百六十一

少數者ノ意見消滅——諸君是ヨリ委員會ノ修正案ニ就イテ決議ヲ採リマス、委員會ノ修正案可トスル者ハ相變ラズ白、記名投票ヲ須ヒマス、閉鎖ヲ命ス——是ヨリ氏名點呼ヲ始メマス

(木下屬氏名ヲ點呼ス)

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ開匣致シマス

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(楠本正隆君) 投票ノ結果ヲ報道シマス

總數 二百九十二

可トスル者 百五十三
否トスル者 百三十九

修正案ニ決シマス明日ノ議事日程ヲ報道シマス

(拍手起リ民黨萬歲ノ聲起ル)

(水野書記官朗讀)

議事日程 第十五號 明治二十七年六月一日(金曜日)

午後一時開議

第一 請願委員會ノ特別報告ニ係ル地租引當

米過剩金下戻ノ請願

第二 狩獵法案(貴族院提出)

第三 鐵道敷設法改正法律案(加賀嘉兵衛君外四名提出)

第四 鐵道敷設法中改正法律案(時岡又左衛門君提出)

第五 海關稅法案(栗原亮一君提出)

第六 帝國醫科大學ニ於ケル腦脊髓病治療ニ關スル建議案

第七 私設鐵道條例改正追加法律案(加賀嘉兵衛君外四名提出)

第八 鐵道敷設法中追加法律案(井上彦左衛門君外一名提出)

第九 鐵道敷設法中改正法律案(坂本理一郎君外一名提出)

第十 鐵道敷設法中追加法律案(重岡薰五郎君外四名提出)

第十一 史料蒐輯ニ關スル建議案(神輿知常君外一名提出)

第十二 治水ニ關スル建議案(湯本義憲君外二十二名提出)

第十三 震災地方未納地租延納法案

第十四 地租條例改正法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第十五 田畑地價特別修正法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第十六 古物商取締條例改正法律案

第二讀會

第十七 社寺境外土地還付ニ關スル法律案

第一讀會

(今井磯一郎君提出)

第十八 社寺林法案(今井磯一郎君提出)

第一讀會

第十九 北海道ニ鐵道ヲ敷設シ及港灣修築ニ關スル建議案(中村彌二君外二名提出)

第二十 越前國敦賀港ニ於テ露領沿海州、薩哈連島及朝鮮國貿易ニ關スル船舶ノ出入及貨物積卸許可法律案(時岡又左衛門君外一名提出)

第二十一 鳥取縣伯耆國境港ニ朝鮮國及露領浦鹽斯德港等貿易ニ關スル船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ許スノ法律案(渡部芳造君外一名提出)

第二十二 島根縣石見國濱田港ニ於テ朝鮮貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸許可法律案(恒松隆慶君外四名提出)

第二十三 (第一號)懲戒解除ノ請願

第二十四 (第三號)復祿處分換ノ請願

第二十五 (第四號)協力高ニ對スル金祿公債證書下附ノ請願

第二十六 (第五號)金祿公債證書下附ノ請願

第二十七 (第六號)舊郡上藩士族祿高ニ關スル請願

第二十八 (第七號)家祿ノ儀ニ付請願

第二十九 (第八號)復祿處分換ノ請願

第三十 (第九號)復祿ニ關スル請願

第三十一 (第十號)復祿請願

第三十二 (第十一號)復祿ノ請願

第三十三 八重山群島瘴毒排除建議案

第三十四 明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行條例改正法律案

○議長(楠本正隆君) 本日ハ是デ散會ヲ報シマス

午後七時五十一分散會